

市民アンケート調査の結果について

■ 市民アンケート調査

【実施概要】

□ 実施月

- 2023年7月～8月

□ 調査対象

- 18歳以上45歳以下の市民6,964人
- パートナーがいる場合はどちらか片方のみ回答

□ 回収数

- **回収数：959票** ⇒事実婚も「パートナーあり」としたため、正確な回収率は算定不可

■ 調査票別回収数

※18歳以下を子どもとして扱う

	属性	本分析での表現	回収数(世帯)
A	パートナーあり、子どもあり	ふたり親(子あり)世帯	 377
B	パートナーあり、子どもなし	ふたり親(子なし)世帯	 84
C	パートナーなし、子どもあり	独身(子あり)世帯	 48
D	パートナーなし、子どもなし	独身(子なし)世帯	 450

■ 調査結果の留意事項

□ 母数(n)について

- 本アンケート調査では、4種類の調査票に共通した設問、独立した設問が存在する。そのため、分析結果の全てが回収した959票を母数としているのではなく、対象を絞った回答結果もある。

□ 本分析結果での表記の説明

【パートナーの有無に関して】

- 「調査票A, B合算」としたものは、主に「ふたり親世帯」と記載。
- 「調査票C, D合算」としたものは、主に「独身世帯」と記載。

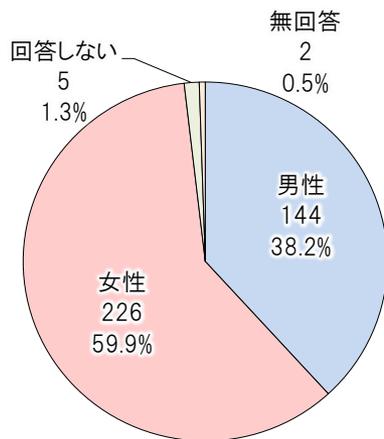
【子どもの有無に関して】

- 「調査票A, C合算」としたものは、主に「子あり世帯」と記載。
- 「調査票B, D合算」としたものは、主に「子なし世帯」と記載。

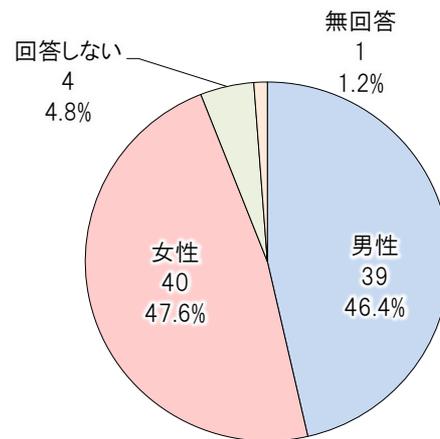
■回答者の性別

回答者の性別は以下の通り。
本アンケートに回答した一人親の約8割は女性となっている。

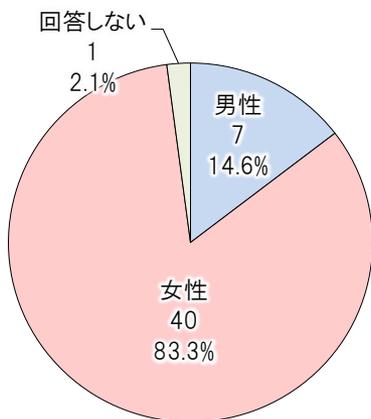
ふたり親(子あり)世帯 n=377 



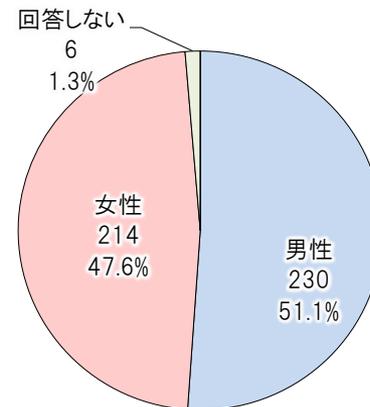
ふたり親(子なし)世帯 n=84 



独身(子あり)世帯 n=48 



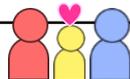
独身(子なし)世帯 n=450 



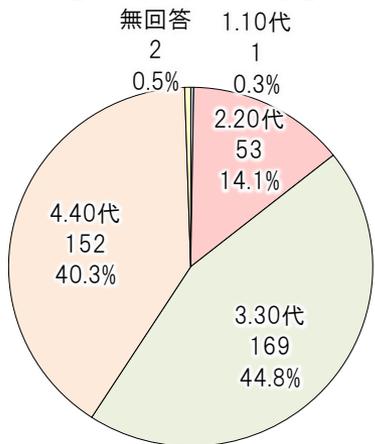
■回答者(パートナー)の年齢

回答者の性別は以下の通り。

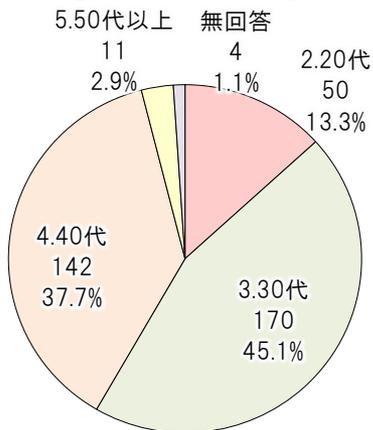
ふたり親(子あり)世帯 n=377



[回答者自身]



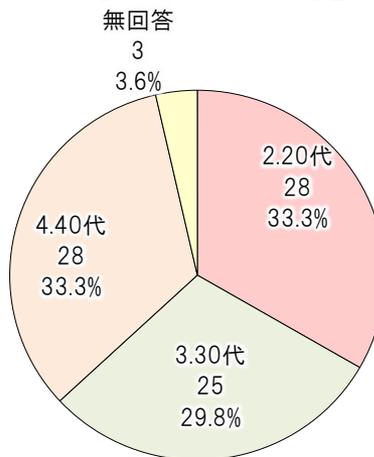
[パートナー]



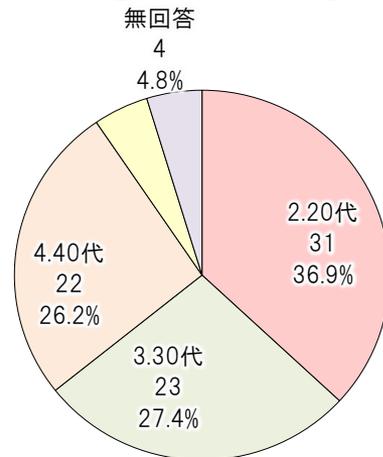
ふたり親(子なし)世帯 n=84



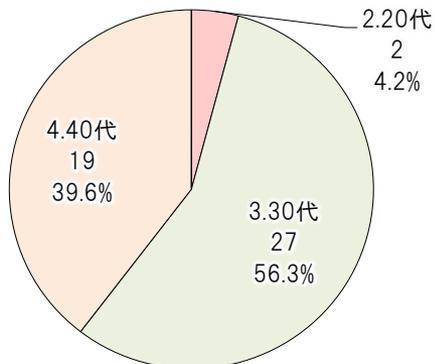
[回答者自身]



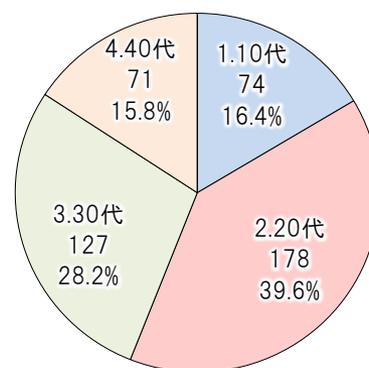
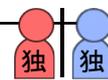
[パートナー]



独身(子あり)世帯 n=48



独身(子なし)世帯 n=450



■ <参考> 回答者(パートナー)の年齢

[調査票別性別と年齢の内訳]

		調査票A		調査票B		調査票C	調査票D
		回答者	パートナー	回答者	パートナー		
男性	10代	0	0	0	0	0	30
	20代	16	29	12	17	0	76
	30代	73	87	14	10	0	80
	40代	55	98	12	11	7	44
	50代以上	0	11	0	2	0	0
女性	10代	1	0	0	0	0	43
	20代	36	20	15	13	2	99
	30代	94	82	11	13	27	46
	40代	95	41	14	9	11	26
	50代以上	0	0	0	2	0	0
回答しない	10代	0	0	0	0	0	1
	20代	1	1	1	1	0	3
	30代	2	1	0	0	0	1
	40代	2	3	2	2	1	1
	50代以上	0	0	0	0	0	0

[[参考値] 調査票別性別の平均年齢] 単位: 歳

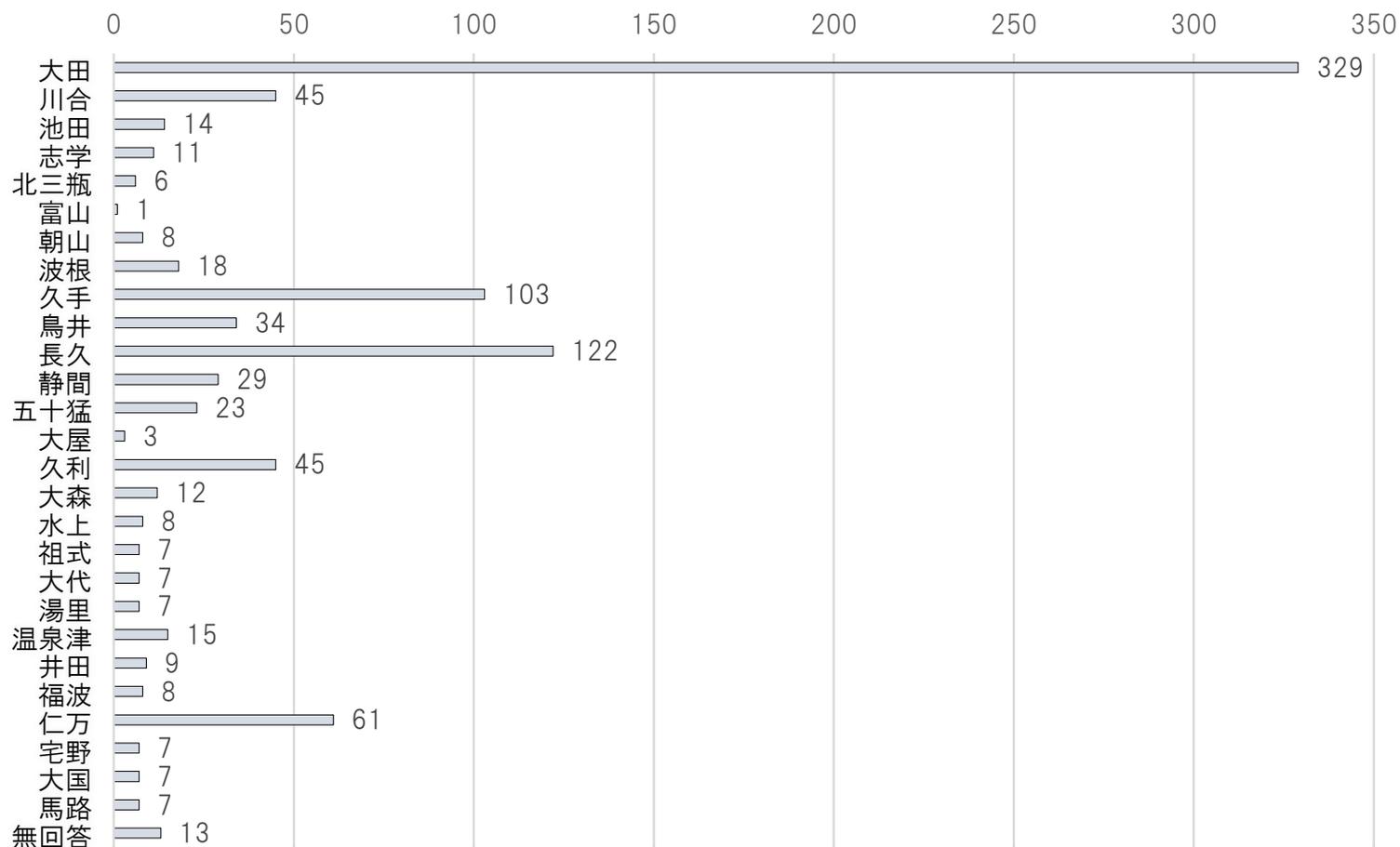
性別	調査票A 		調査票B 		調査票C 	調査票D 
	回答者	パートナー	回答者	パートナー		
男性	38	39	35	35	45	31
女性	38	36	35	35	37	28

※年齢は10歳階級での設問としていたことから、10歳階級の中央値(10代であれば15歳と仮定)を回答者数でかけ合わせものを回答者数で除している。なお50代以上の中央値は55歳と仮定して算定。

■お住まいの地域 (n=959)

「大田」にお住まいの方からの回答が最も多く、次いで「長久」、「久手」となっている。

地区名	大田	川合	池田	志学	北三瓶	富山	朝山	波根	久手	鳥井	長久	静間	五十猛	大屋
件数	329	45	14	11	6	1	8	18	103	34	122	29	23	3
割合	34.3%	4.7%	1.5%	1.1%	0.6%	0.1%	0.8%	1.9%	10.7%	3.5%	12.7%	3.0%	2.4%	0.3%
地区名	久利	大森	水上	祖式	大代	湯里	温泉津	井田	福波	仁万	宅野	大国	馬路	無回答
件数	45	12	8	7	7	7	15	9	8	61	7	7	7	13
割合	4.7%	1.3%	0.8%	0.7%	0.7%	0.7%	1.6%	0.9%	0.8%	6.4%	0.7%	0.7%	0.7%	1.4%

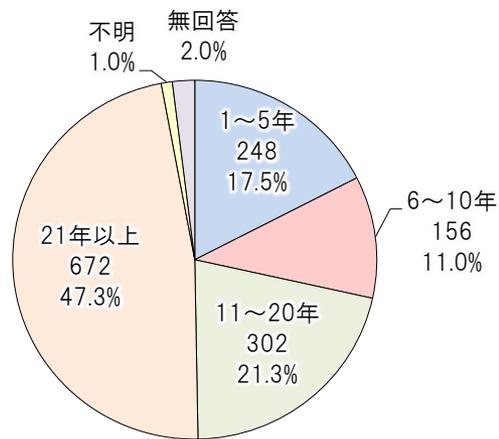


■ 居住年数とUIターン有無 (パートナー含む、n=1420)

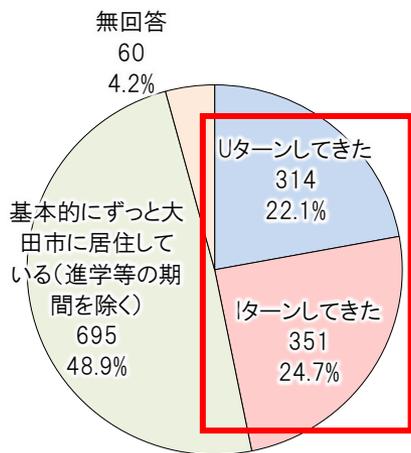
居住年数は21年以上が最も多く、次いで「11～20年」、「1～5年」となっている。

約5割近くがUIターンで大田市に来ている。また、UIターン元としては、「出雲市」が最も多く、次いで「松江市」、「広島市」、「浜田市」となっている。

[居住年数]



[UIターン有無]



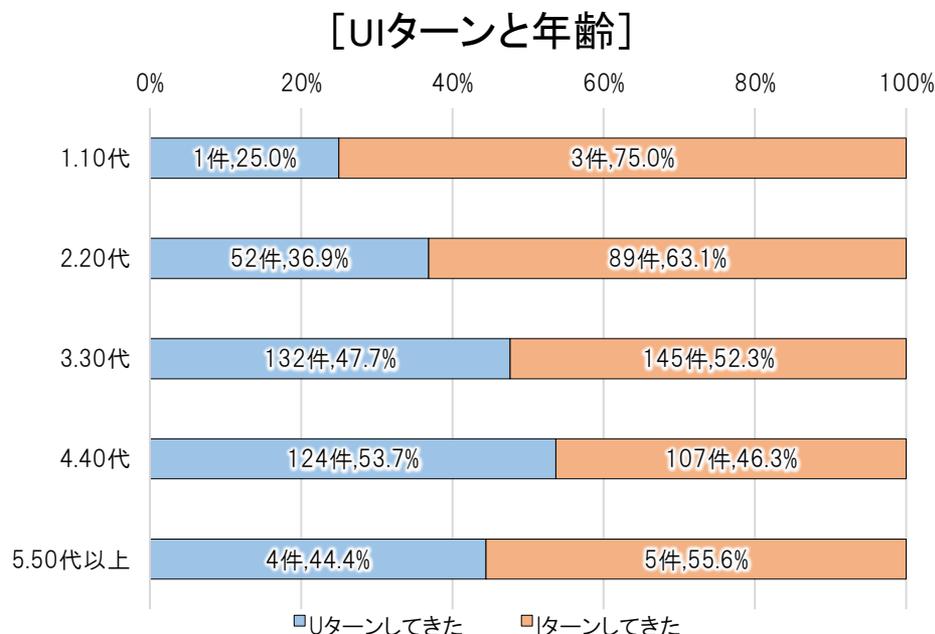
次ページにて詳細に分析

約5割近くがUIターン者

順位	UIターン元	件数
1	島根県出雲市	89
2	島根県松江市	76
3	広島県広島市	33
4	島根県浜田市	28
5	広島県 (市町村名不明)	27
6	大阪府 (市町村名不明)	24
7	大阪府大阪市	21
8	島根県江津市	18
9	島根県益田市	18
10	東京都 (市町村名不明)	13
11	島根県雲南市	12
12	島根県美郷町	11
13	京都府京都市	10
14	京都府 (市町村名不明)	7
15	岡山県 (市町村名不明)	7
16	鳥取県鳥取市	6
17	島根県川本町	6
18	島根県 (市町村名不明)	6
19	神奈川県 (市町村名不明)	6
20	福岡県福岡市	6

■UIターン限定クロス集計＜年齢とのクロス＞（n=653（無回答除外））

UIターン者に限定して、その年齢内訳をみると、年齢が上がるほどUターン者は増加し、Iターン者は減少している。



【分析結果に関する留意事項】

- より焦点を絞った分析を行うため、「基本的にずっと大田市に居住している」及び無回答は除いて分析している。
- ここでの母数は653票（n=653）としてる。前スライドでは、Uターン者がn=314、Iターン者がn=351であるため、純粋な母数はn=665となるが、年齢無回答が存在するため、ここでは、無回答を除いた数で集計している。以降同様。

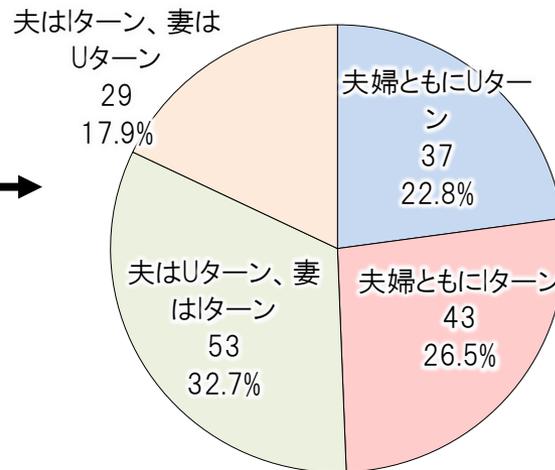
■UIターン限定クロス集計<性別とのクロス> (n=665(無回答除外))

UIターン者に限定して、パートナーがいる世帯といない世帯で、UIターンの傾向は大きく分かれる。

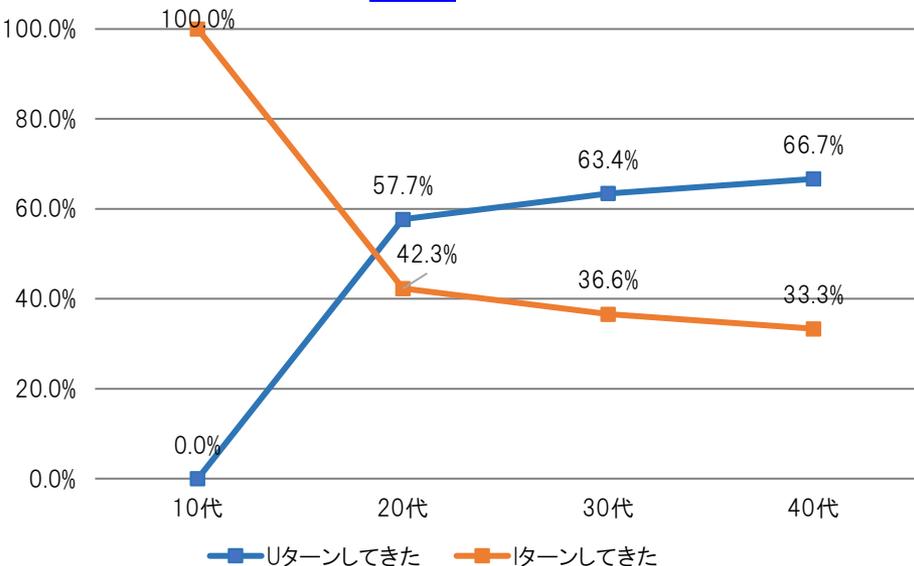
[調査票別UIターンの状況 n=665]

	Uターンしてきた	Iターンしてきた
調査票A,B  パあり	41.1%	58.9%
調査票C,D  パなし  独  独	64.2%	35.8%

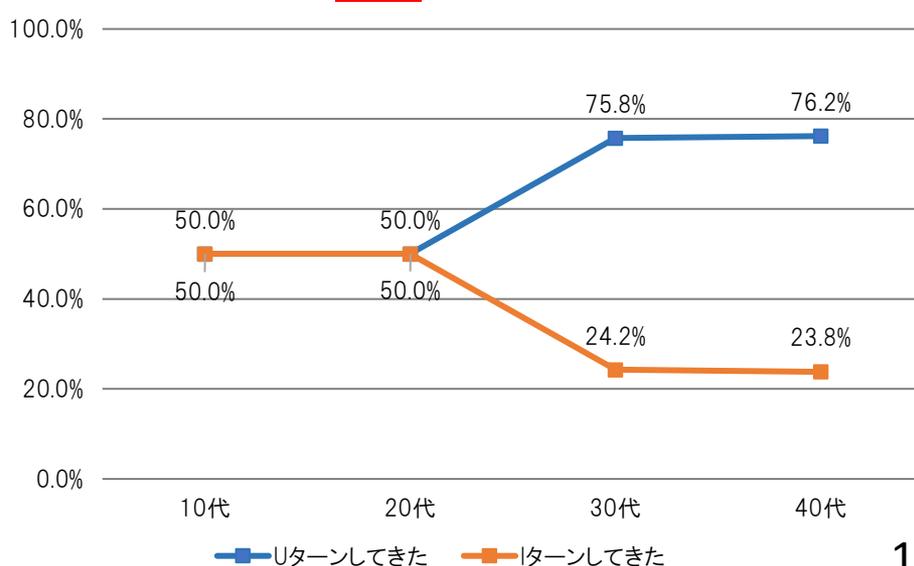
[ふたり親世帯のUIターンの状況 n=162]



[独身世帯の**男性**UIターンの状況 n=93]



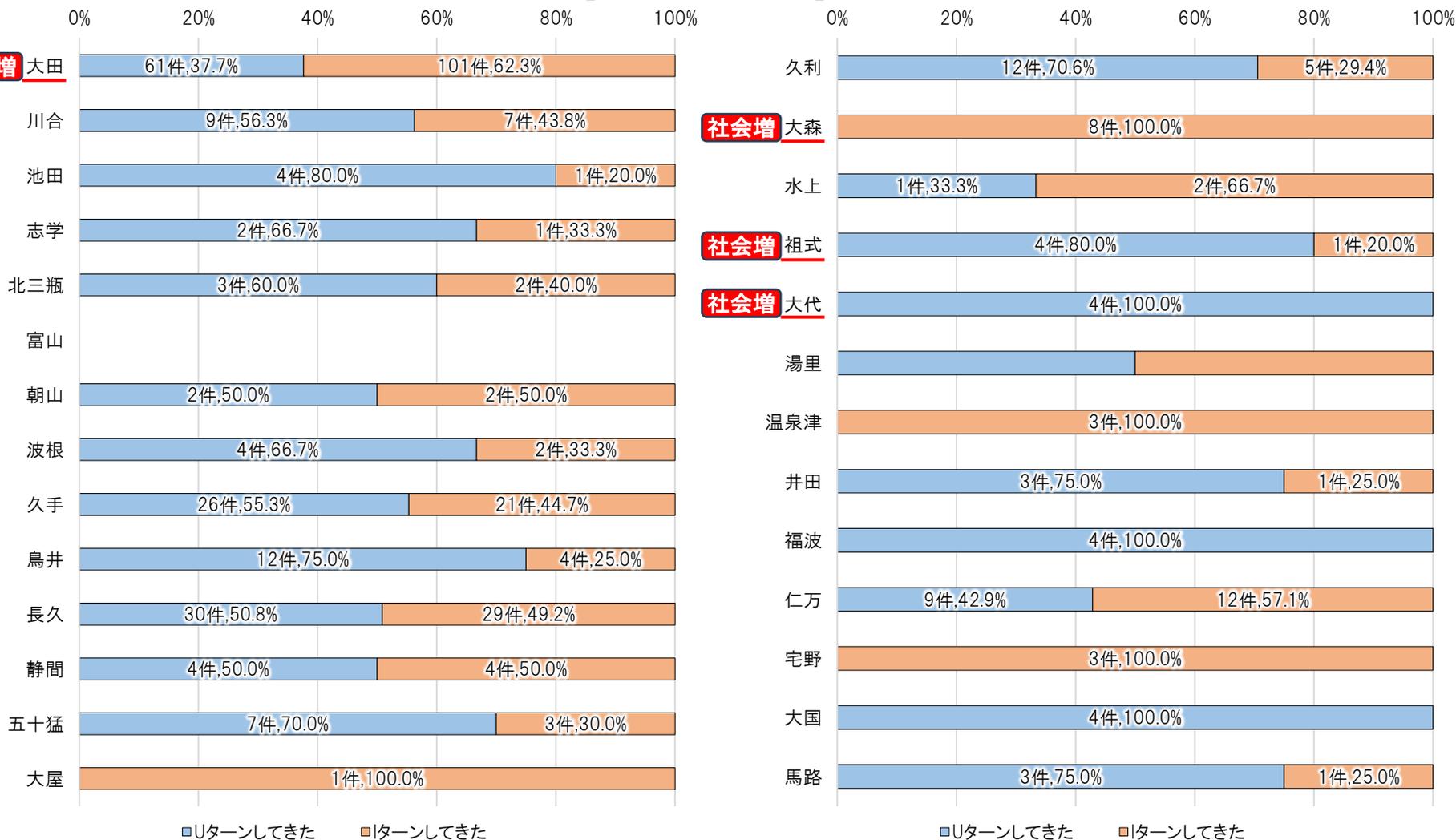
[独身世帯の**女性**UIターンの状況 n=82]



■UIターン限定クロス集計<地域とのクロス> (n=424(無回答除外))

UIターン者に限定して、その地域別の内訳は以下の通り。

[UIターンと地域]



【分析結果に関する留意事項】

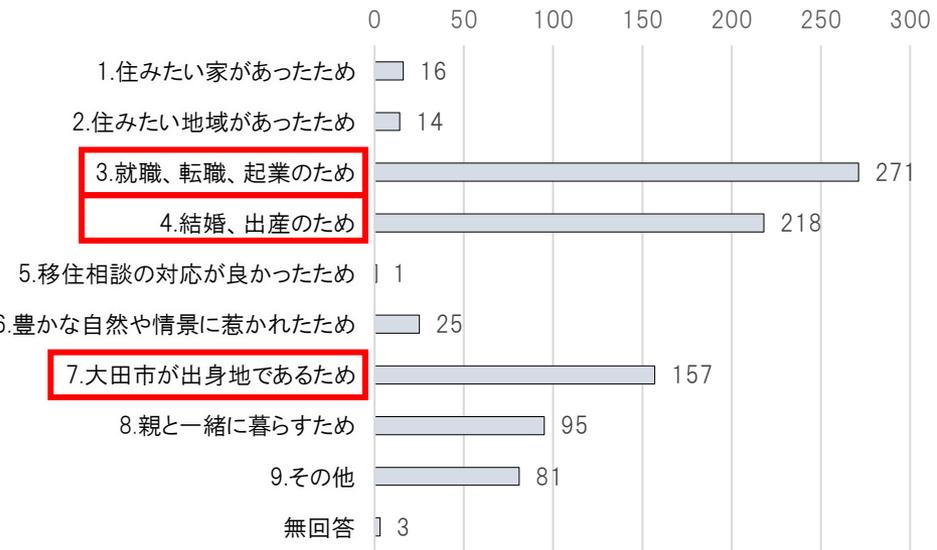
- より焦点を絞った分析を行うため、「基本的にずっと大田市に居住している」及び無回答は除いて分析している。

■UIターン理由と居住理由（パートナー含む、n=1420）

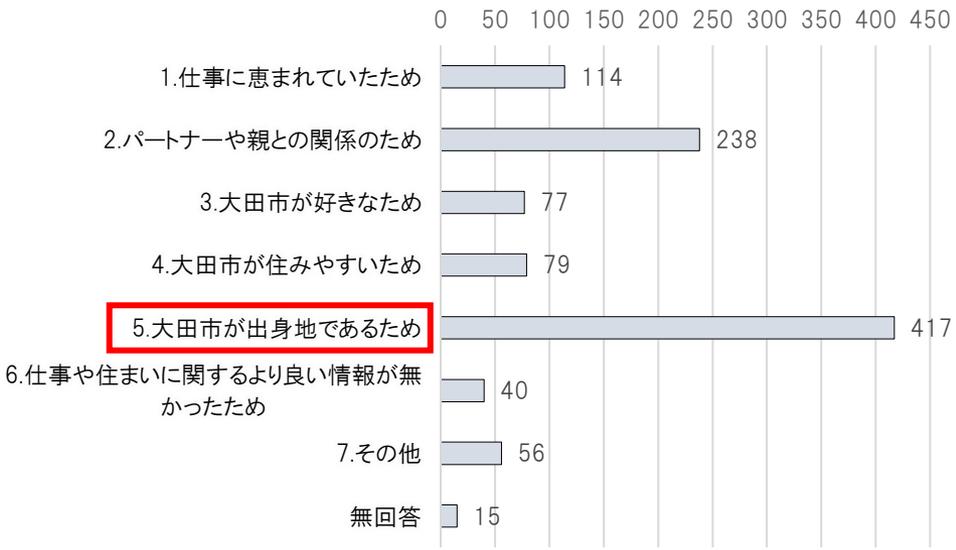
UIターンの理由として最も多いのは「転職、就職、起業のため」となっており、次いで「結婚、出産のため」となっている。

基本的に大田市に居住している理由として最も多いのは「大田市が出身地であるため」となっており、次いで「パートナーや親との関係のため」となっている。

【UIターンの理由】



【基本的に大田市に居住している理由】



【その他回答】

- 離婚のため
- 失業したため
- 家族の離別のため
- パートナーの都合のため
- 子育てのため
- コロナのため

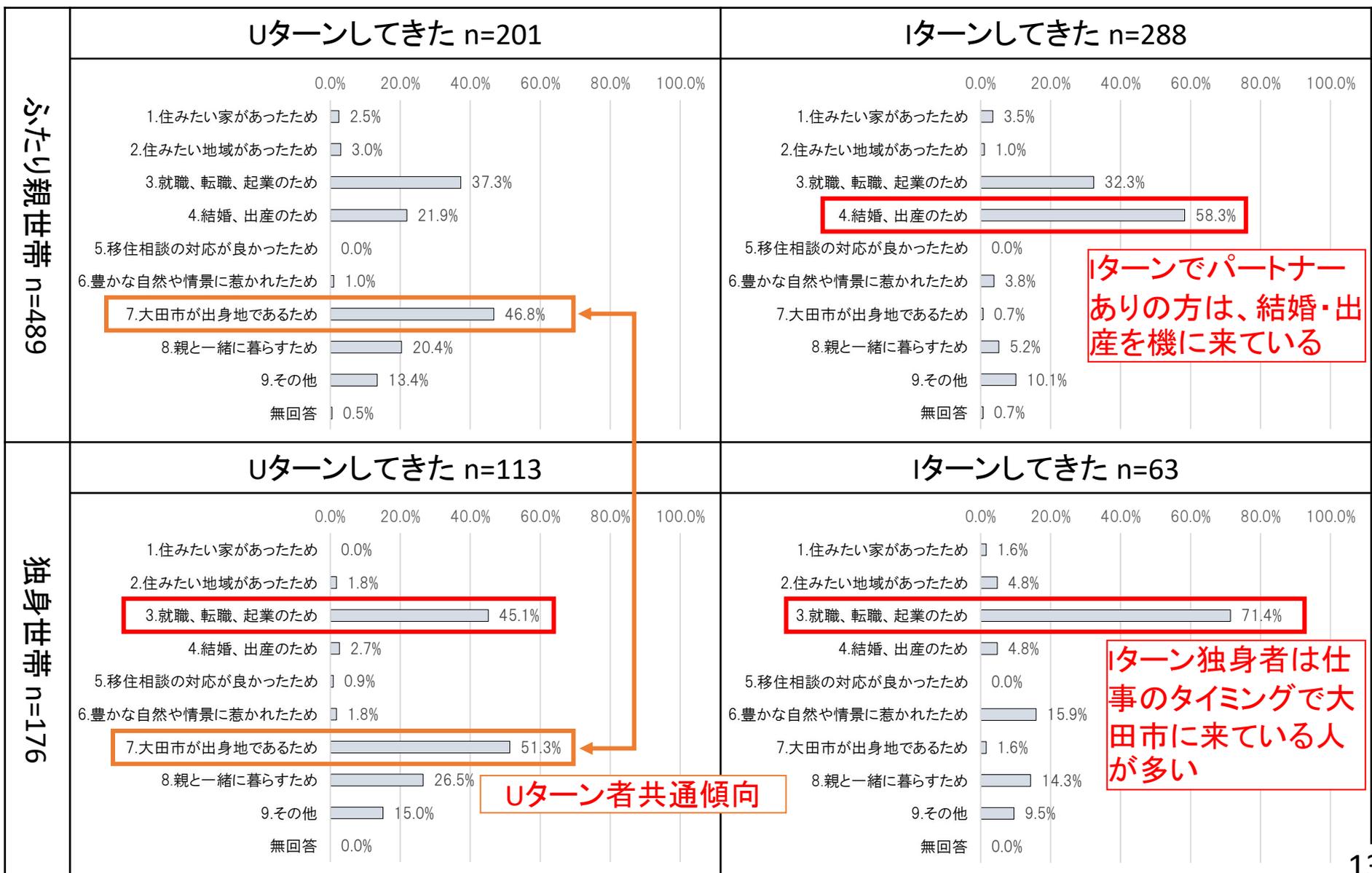
【その他回答】

- 土地と家を継ぐため
- 県外に出る機会が無かった。特に行く場所が無かった。
- 県外に行くのが面倒だから
- 大田の人と結婚したから
- 実家暮らしだから
- 神楽のため
- 地元企業の就職試験に受かったため

UIターン理由限定クロス集計<調査票別とのクロス> (n=314(無回答除外))

UIターン者に限定して、調査票別(パートナーの有無)に以下のとおり集計した。

[UIターン理由と調査票別]

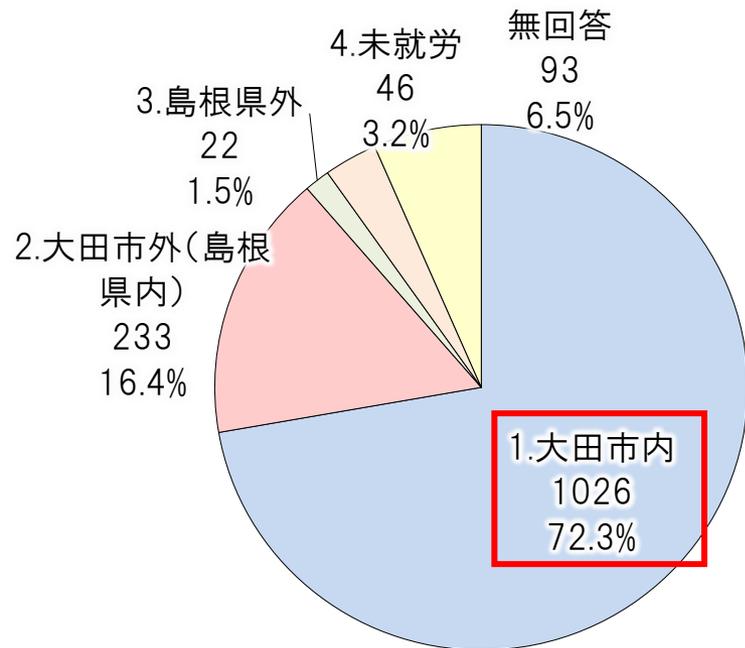


勤務状況

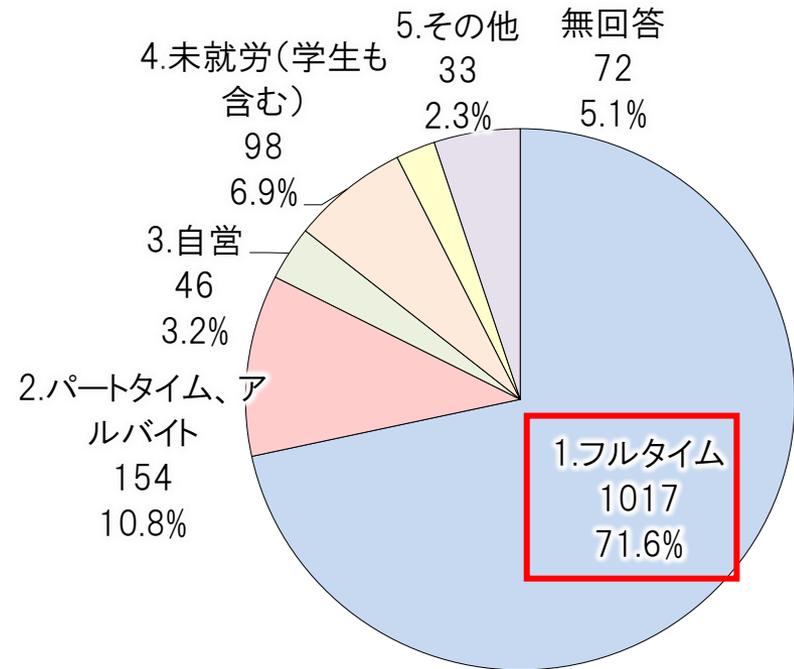
■勤務状況（パートナー含む、n=1420）

勤務地として最も多いのは「大田市内」となっており、次いで「大田市外（島根県内）」となっている。
勤務形態として最も多いのは「フルタイム」となっており、次いで「パートタイム、アルバイト」となっている。

[勤務地]

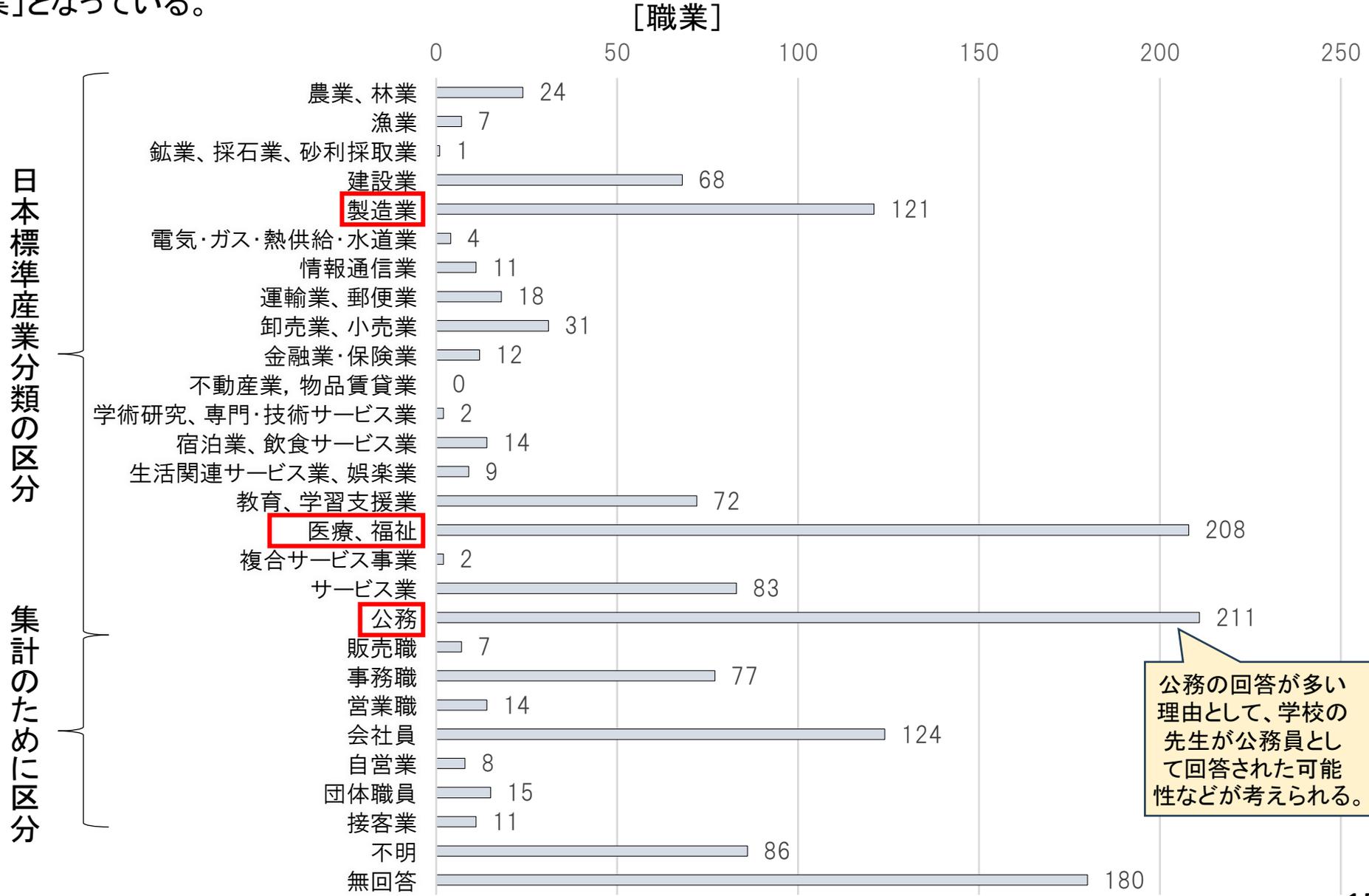


[勤務形態]



■勤務状況（パートナー含む、n=1420）

産業分類の区分に分けた職業の中で最も多いのは「公務」となっており、次いで「医療、福祉」、「製造業」となっている。



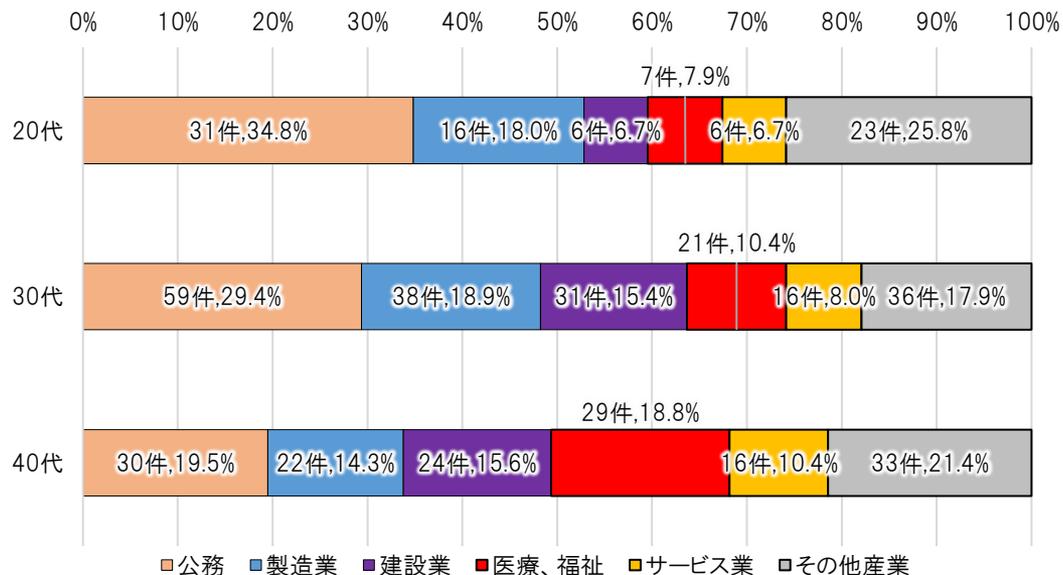
日本標準産業分類の区分

集計のために区分

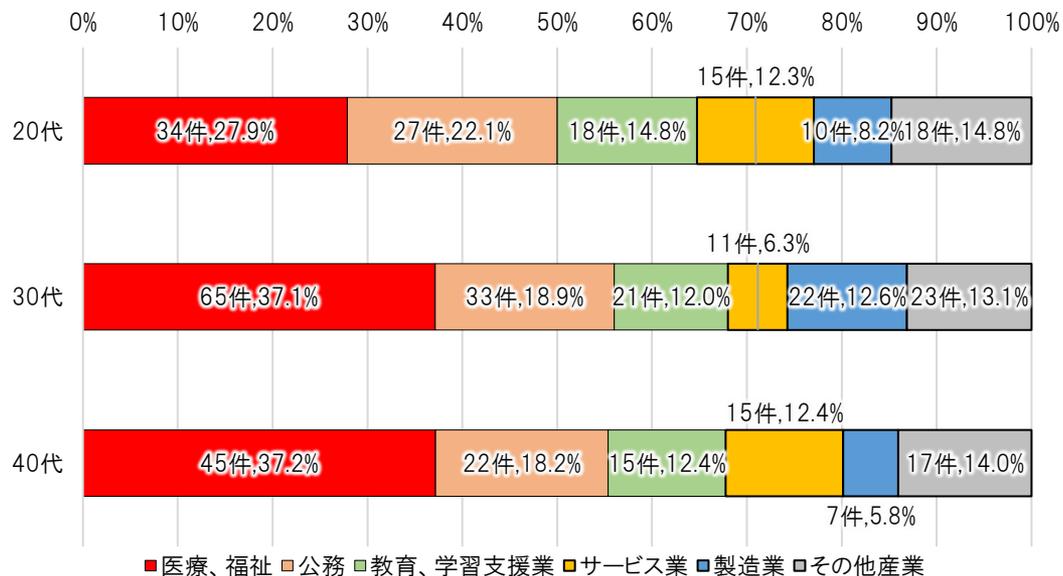
公務の回答が多い理由として、学校の先生が公務員として回答された可能性などが考えられる。

■ 年齢性別勤務状況 (パートナー含む、n=1420)

[男性:職業]



[女性:職業]



結婚の意向

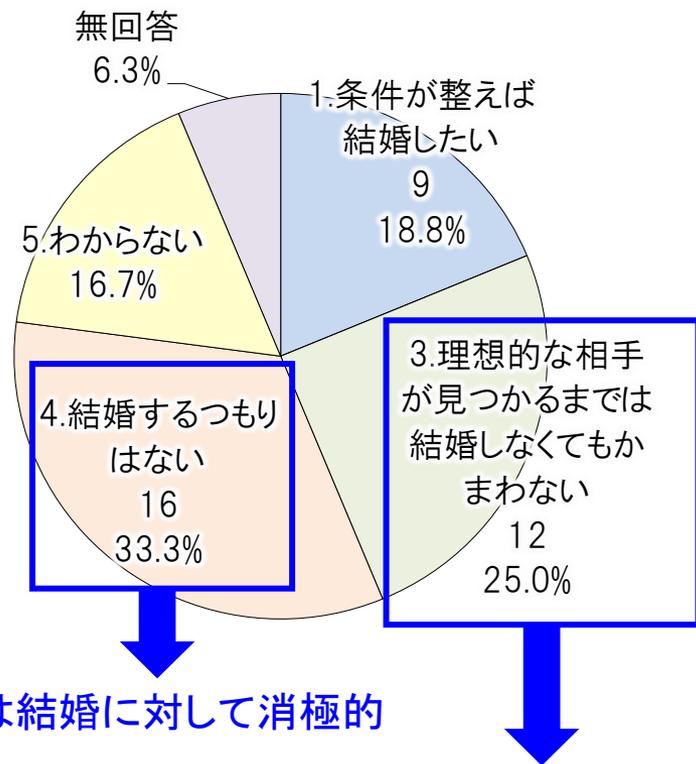
■ パートナーがない方の結婚の意向 (n=498)

ひとり親の約2割は結婚の意向があるものの、約3割は結婚の意向が無く、理想的な相手の有無に依存した場合も含めると約6割が結婚を考えていない。

一方で、独身者(パートナーと子どもを持たない方)については、約3割は結婚に対して消極的である。

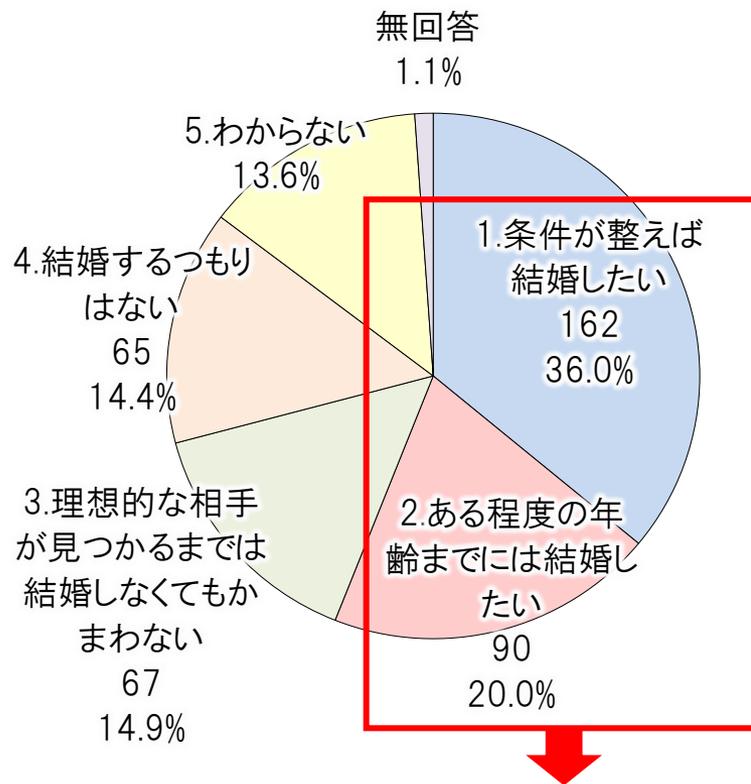
 [独身(子あり)世帯 n=48]

 [独身(子なし)世帯D:パなし、子なし n=450]



約3割は結婚に対して消極的

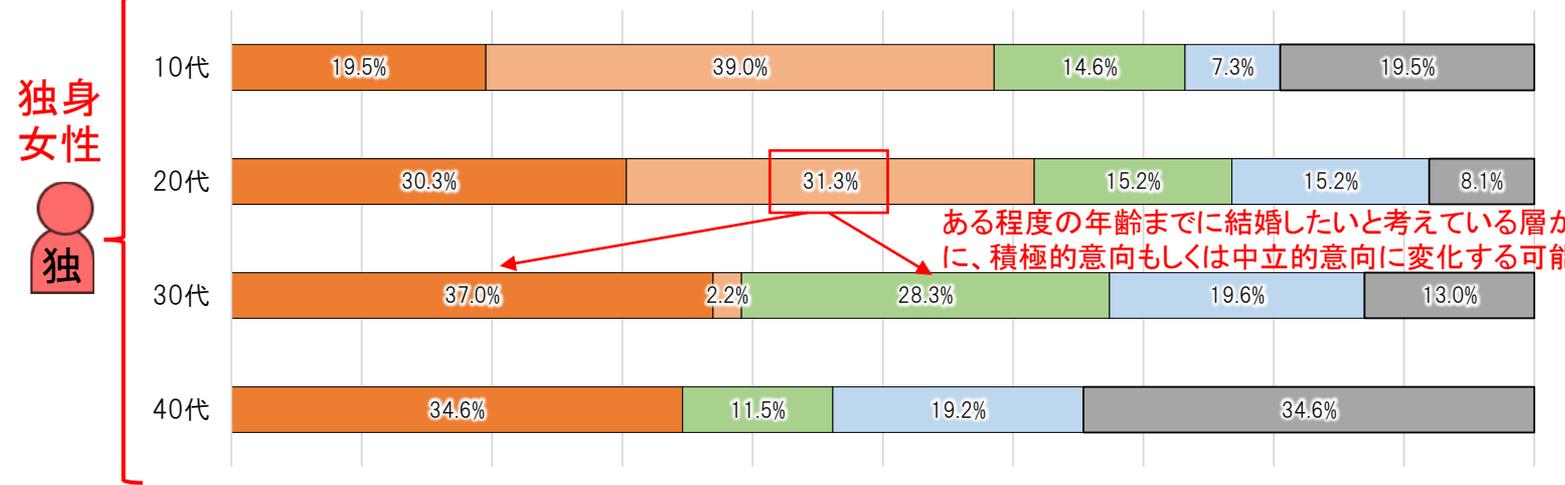
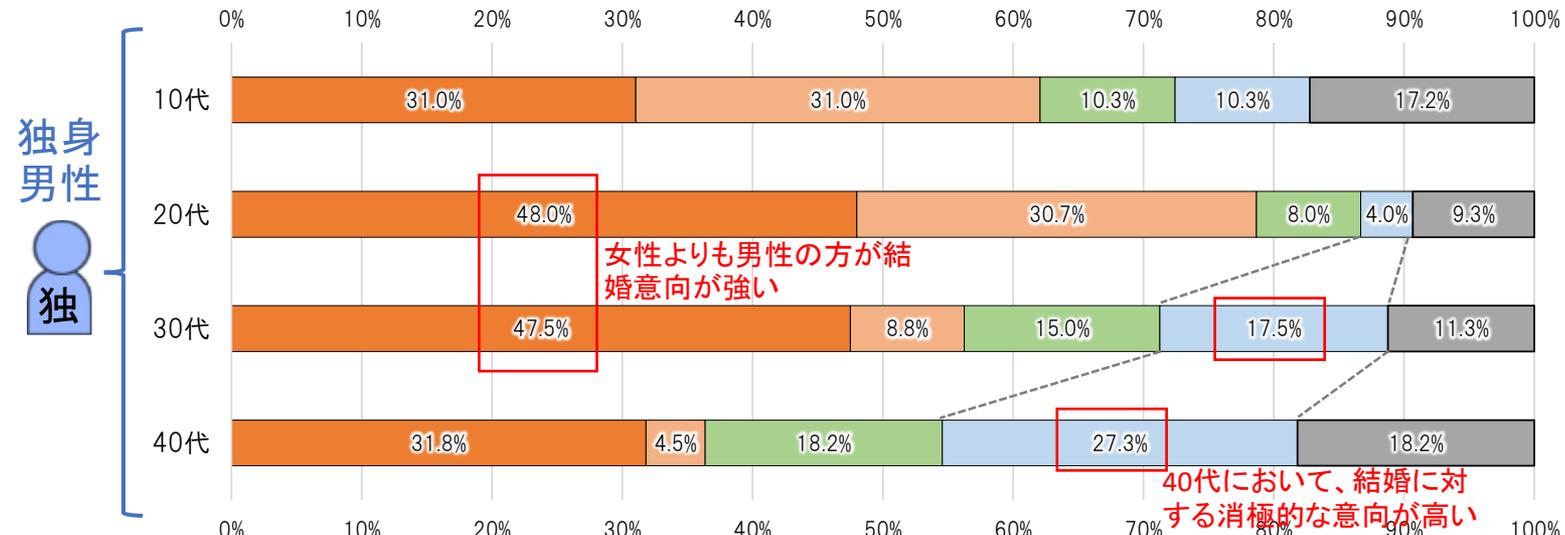
結婚に対して中立的意向を持つ方も多い



約6割で結婚の意思がある

調査票D限定結婚意向クロス集計<性別年齢とのクロス> (n=445(無回答除外))

[独身(子なし世帯)結婚意向と性別年齢別]



[凡例]

- 1. 条件が整えば結婚したい
- 2. ある程度の年齢までには結婚したい
- 3. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない
- 4. 結婚するつもりはない
- 5. わからない

■結婚に対する不安 (n=498)

結婚に対する不安として、独身(子あり)世帯は「子どもが既にいる」が最も多い。

一方で、独身者については、経済的余裕に関することや子育てに対する責任がそれぞれ多くなっている。

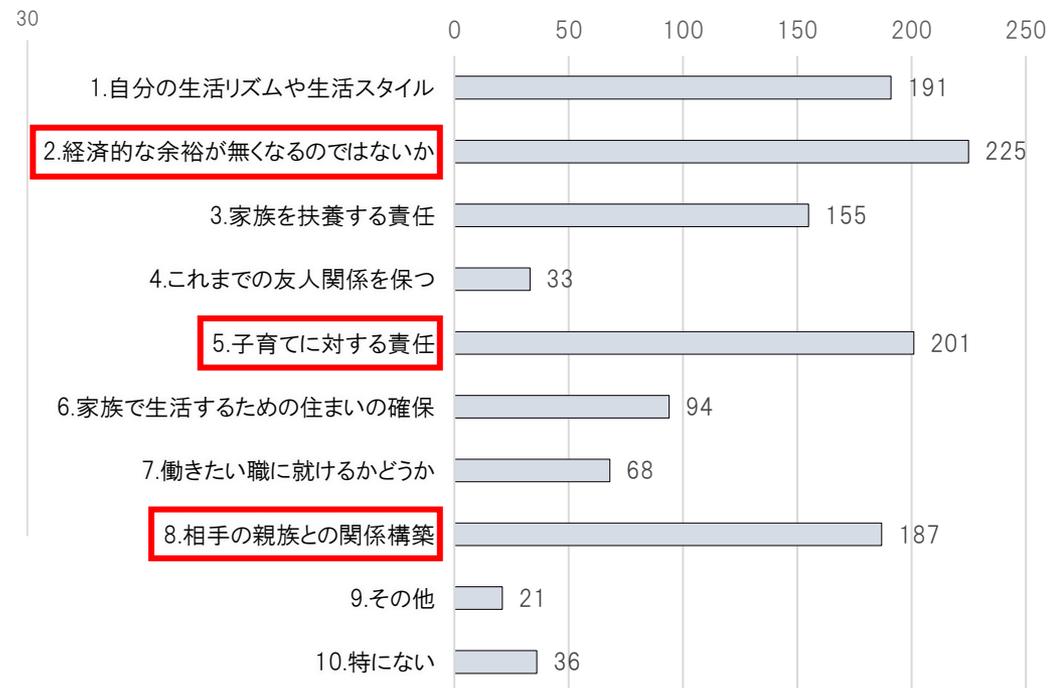
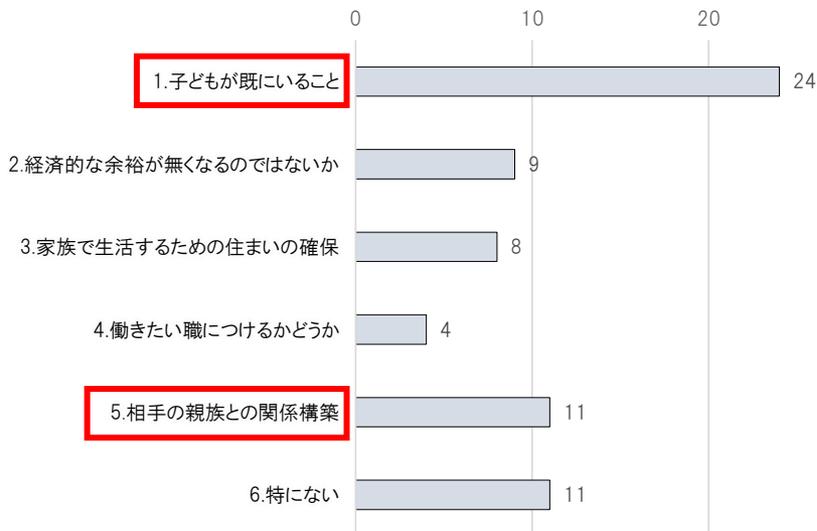
「相手親族との関係構築」は両者に共通する不安として挙げられている。



[独身(子あり)世帯 n=48]



[独身(子なし)世帯 n=450]



■独身者のその他回答(独身(子なし)世帯)

【その他回答】

○パートナーや家族との関係性

- パートナーとこの先、仲良く出来るか
- 家族と良好な関係を築けるかどうか
- 相手と自分の家族の関係構築
- パートナーの人間性、収入

○結婚に関する個人的な不安や懸念

- パーソナルスペースに自分以外の人を受け入れられるか不安
- そもそも他人を信用出来ない性格
- 子供を持てる年代ではない
- 子供が嫌い
- 相手が見つかるかどうか
- 相手がいるかどうか
- わからない
- 結婚することはないと思っている
- 宗教法人の代表者を引き継ぐ予定である自身が結婚する場合、パートナーにとっては大幅な環境の変化は不可避であること

○経済的な不安

- 経済的にも結婚して家庭を持ちたいと思っても難しいです。例え結婚して子供ができたとしても安心して子供を預けられる制度や遊ぶ場所が充実していない
- 今の養育費でしんどいのに、これ以上お金がかかるのは経済的に無理だから、子ども作っても無責任になる
- 給料が少ない
- 職場の給料でやっていけるのか

○家庭内の役割や負担

- 家事の負担
- 仕事から帰って家事をしたくない
- 嫁、母、はこう動くべきであるという考えに辟易する(夕飯の支度をしないといけない、母親だから酒をのむのが憚られるなど)
- 親と同居できるか

■独身者限定結婚意向とのクロス集計(n=445(無回答除外))

独身者の結婚に対する不安をみると、結婚の意向の有無に関わらず、「経済的余裕の無さ」が上位に挙がっている。また、他も概ね同様の理由となっている。



[結婚意向別独身(子なし)世帯結婚不安理由のランキング]

	1 自分の生活リズムや生活スタイル	2 経済的な余裕がなくなるのではないか	3 家族を扶養する責任	4 これまでの友人関係を保つ	5 子育てに対する責任	6 家族で生活するための住まいの確保	7 働きたい職に就けるかどうか	8 相手の親族との関係構築	9 その他	10 特になし
1.条件が整えば結婚したい	3位 40.7%	1位 50.0%	32.1%	6.8%	2位 42.0%	26.5%	14.8%	38.9%	4.3%	5.6%
2.ある程度の年齢までには結婚したい	35.6%	1位 60.0%	36.7%	7.8%	2位 50.0%	22.2%	18.9%	3位 42.2%	1.1%	4.4%
3.理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	同率1位 50.7%	49.3%	40.3%	7.5%	同率1位 50.7%	17.9%	17.9%	同率1位 50.7%	3.0%	1.5%
4.結婚するつもりはない	2位 47.7%	1位 49.2%	35.4%	9.2%	3位 46.2%	15.4%	10.8%	38.5%	7.7%	20.0%
5.わからない	1位 42.6%	3位 39.3%	29.5%	4.9%	36.1%	13.1%	11.5%	2位 41.0%	8.2%	14.8%

■所属している趣味サークルや利用している婚活サービス（独身世帯、n=498）

性別	年代	趣味・サークル	婚活サービス・マッチングアプリ
男性	10代	・ソフトボール ・梶音楽教室相談支援授業所えーる ・大田スポーツクラブ	—
	20代	・ソフトボール ・バスケットボール(2件) ・バンド、神楽、ソフトバレー ・フットサル ・サッカーボランティア ・合唱団 ・地域住民だけのバドミントン	—
	30代	・バスケットボール(2件) ・職場のクラブ ・草野球 ・島大スマブラサークル ・落語サークル	・ペアーズ(マッチングアプリ) ・島根縁結びサポートセンター ・恋みくじ
	40代	・市外でのサークル ・卓球(趣味サークル) ・陶芸サークル、コーラスサークル	・しまコ(2件) ・はぴこ大田(2件) ・マッチングアプリ(2件)
女性	10代	—	—
	20代	・クラシックバレエ ・テニスクラブ ・広報音訳ボランティア ベルの会 ・読書	・ハピコ会 ・TikTokライブ配信、YouTube動画配信など
	30代	・ソフトバレーボール ・バレーボール ・太鼓、神楽。	・ペアーズ ・with(マッチングアプリ) ・婚活アプリ
	40代	・バレーボールチーム ・趣味サークルに入っている	・ハピコ ・はぴこに登録していた

婚活サービス・マッチングアプリとして、はぴこ会への登録やマッチングアプリへの登録がみられる。
 趣味サークルとしても、スポーツ系のサークルや音楽・神楽などの芸術活動に参加している方がいる。
 婚活サービス・マッチングアプリの利用は主に30代以降にみられる。

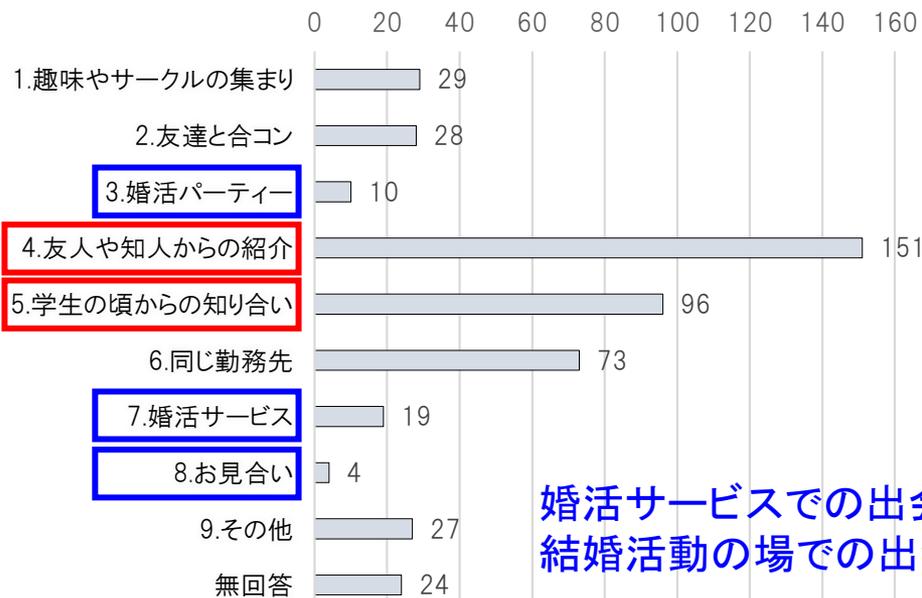
パートナーとの出会い



■現在のパートナーといつ・どこで出会ったのか（ふたり親世帯、n=461）

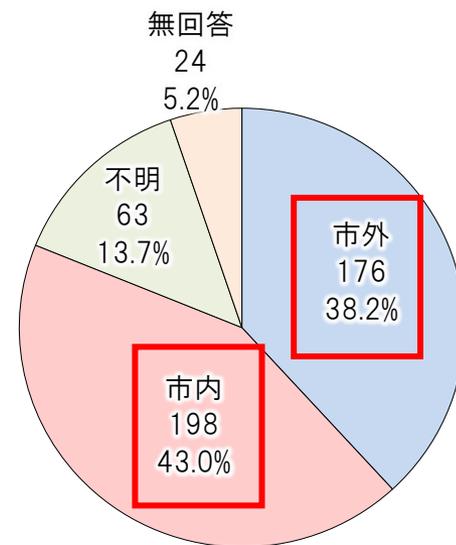
パートナーとの出会いについて、「友人や知人からの紹介」「学生の頃からの知り合い」が多い一方で、婚活サービスの活用や婚活パーティー、お見合いなどの結婚活動の場での出会いは少ない。

[パートナーとの出会い]



婚活サービスでの出会いと、結婚活動の場での出会いは少ない

[パートナーと出会った場所]

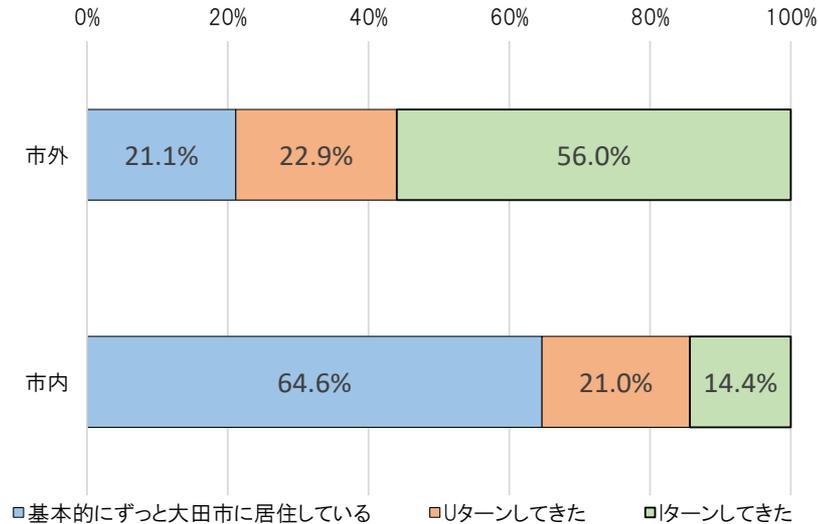


出会いの場は市内及び市外ともに約半数ずつ存在

【その他回答】

- 職場研修
- 当時の職場のお客さん
- 友人の結婚式
- たまたま会った
- 仕事の研修で一緒になった。
- 子供の時から知り合い
- 友人同士の食事に同席。
- コンビニで奥さんが働いていてナンパした。
- 遊んでいたらそこにいた
- インスタグラムのハッシュタグで繋がった。
- バイト先
- 大田市内、お祭りの準備
- マッチングサイト
- 勤務先のお客様だった
- 同じアパート
- インターネットサービス
- マッチングアプリ
- 職場のボランティア活動
- 旅先
- SNS
- アプリで親睦を深めた

[回答者のUターン状況別パートナーと出会った場所]



[世帯ごとのUターン状況別パートナーと出会った場所]

	夫:基本大田市にいる。 妻:基本大田市にいる。	夫:基本大田市にいる。 妻:Uターンしてきた。	夫:基本大田市にいる。 妻:Uターンしてきた。	夫:基本大田市にいる。	夫:Uターンしてきた。	夫:Uターンしてきた。
市外	7.0%	3.5%	33.9%	0.6%	0.0%	0.0%
市内	56.5%	5.7%	10.9%	0.5%	0.5%	0.5%
	夫:Uターンしてきた。 妻:基本大田市にいる。	夫:Uターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	夫:Uターンしてきた。 妻:基本大田市にいる。	夫:Uターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	夫:Uターンしてきた。 妻:Uターンしてきた。	妻:基本大田市にいる。
市外	3.5%	15.2%	15.2%	2.9%	16.4%	1.8%
市内	11.4%	1.0%	7.8%	1.6%	2.1%	1.6%

【市外での出会い】

- ①夫が基本的に大田市、妻はUターンのパターンが多い。
- ②夫婦ともにUターンできたのパターンが2番目に多い。

【市内での出会い】

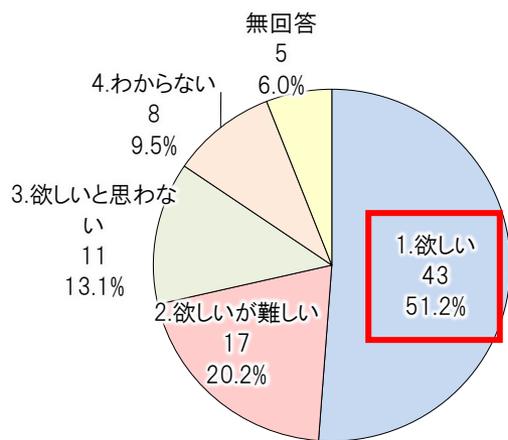
- ①夫婦ともに大田市内のパターンが多い。
- ②夫がUターンしてきた、妻が基本的に大田市のパターンが2番目に多い。

将来的な子どもの意向

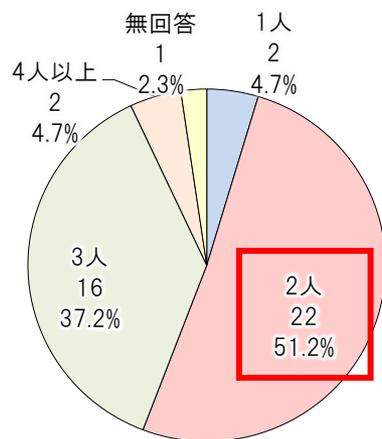
■ 将来的に子どもが欲しいかどうか＜子なし世帯＞ (n=534)

子ども意向については、一人親、独身者とも約半数が欲しいと考えているなど傾向が近い。
希望する子の人数についても、概ね近い傾向にある。

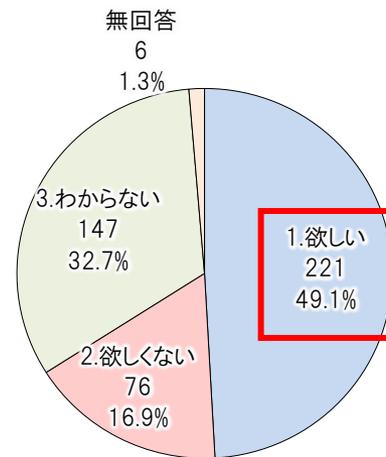
 [意向 ふたり親(子なし)世帯 n=84]



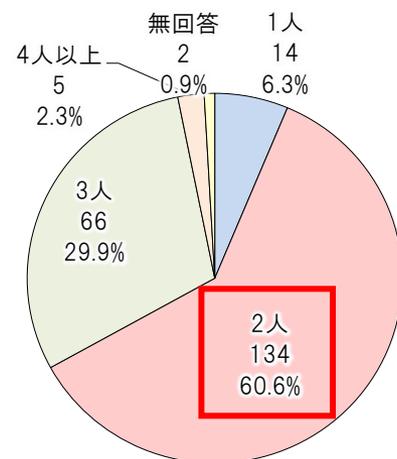
[希望する子の人数 ふたり親(子なし)世帯]



 [意向 独身(子なし)世帯 n=450]



[希望する子の人数 独身(子なし)世帯]



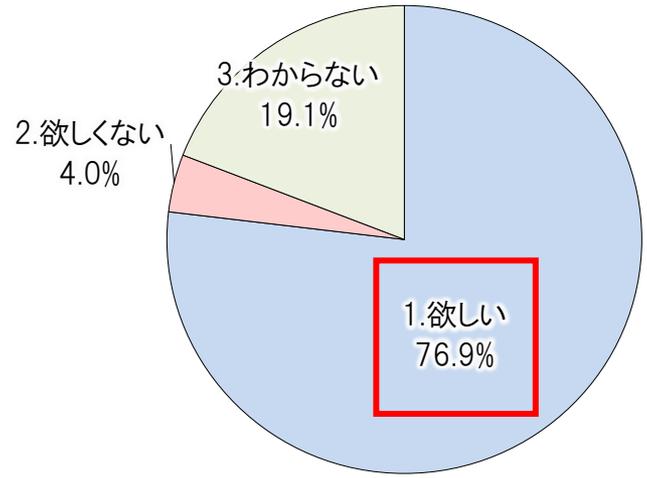
両者とも2~3人の希望が約9割を占める。

■独身者が結婚して子どもを持つ割合 (n=445)



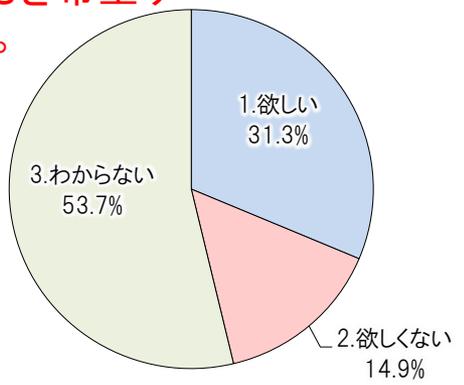
[結婚意向に対する子どもの意向]

積極的な意向

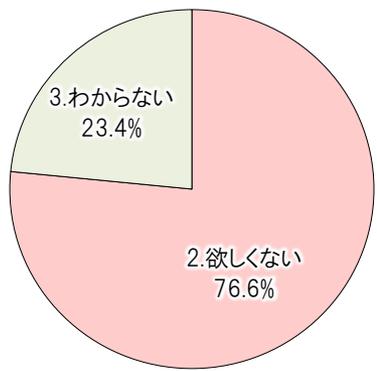


中立的な意向 (理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない)

中立的な意向を持つ方であっても、子どもを希望する声は3割ある。



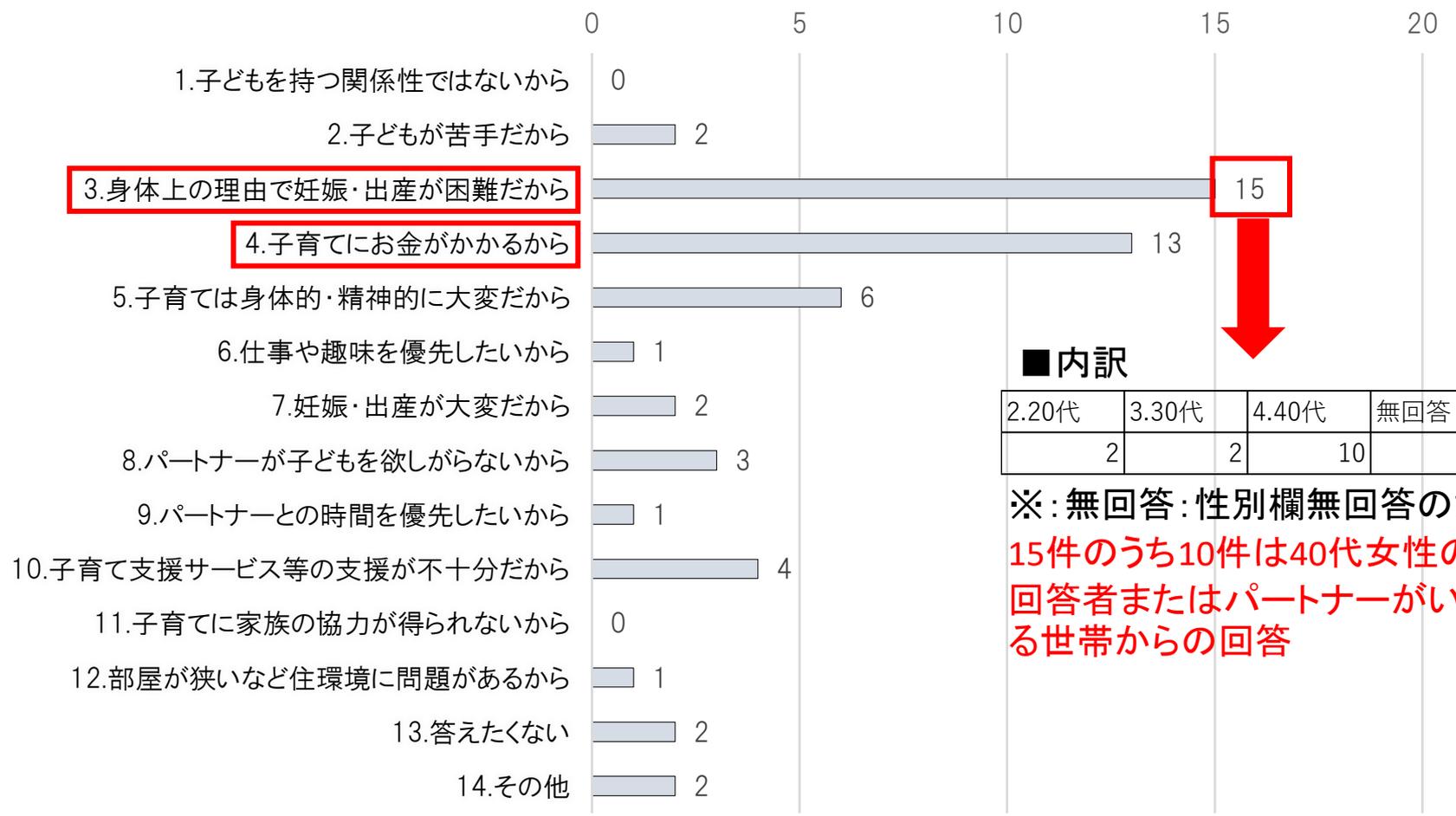
消極的な意向 (結婚するつもりはない n=64)



■子どもを持つことが難しいと考える理由<子なし世帯> (n=84)

子どもを持つことが難しいと考える理由として最も多かったのは、「身体上の理由で妊娠・出産が困難だから」が最も多く、次いで「子育てにお金がかかるから」、「子育ては身体的・精神的に大変だから」となっている。

 [理由 ひとり親(子なし)世帯 n=84]



■内訳

2.20代	3.30代	4.40代	無回答
2	2	10	1

※: 無回答: 性別欄無回答のため
 15件のうち10件は40代女性の
 回答者またはパートナーが
 いる世帯からの回答

※独身者の意向については、回答者に配慮した構成とするために、子どもを持つことに対する不安の理由は問わず、「結婚に対する不安」を聞いている。

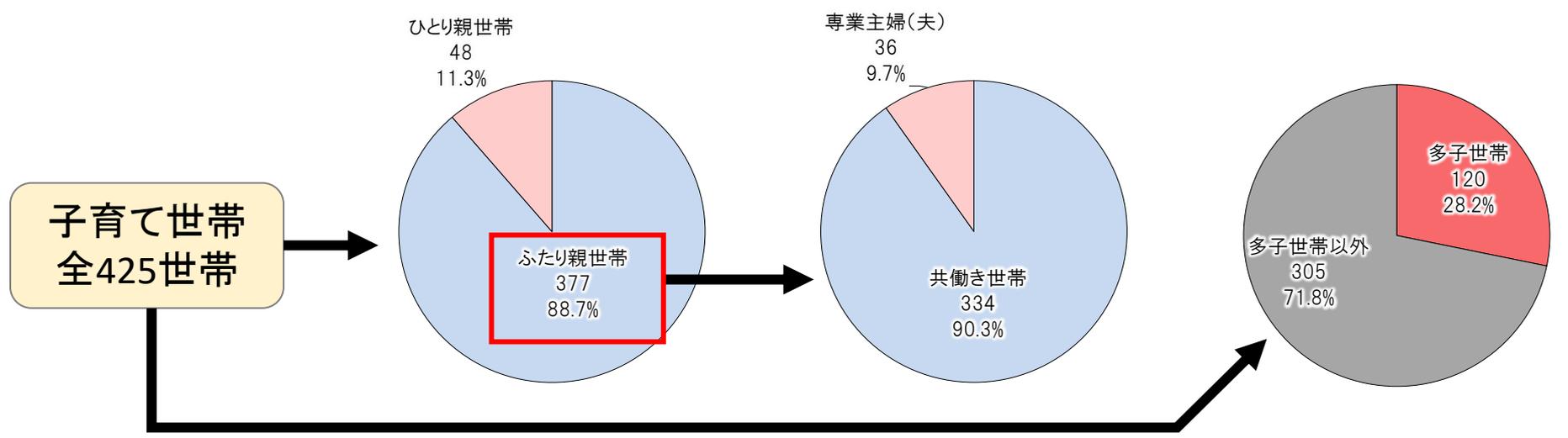


■子育て世帯の分類 (子あり世帯 n=425)

子育て世帯に関して、より詳細な傾向を把握するため、アンケート結果から得られたデータを用いて、以下の通りに分類した。

- 【子育て世帯の区分】
- 共働き世帯
 - 専業主婦(夫)世帯
 - 多子世帯
 - ひとり親世帯

[子育て世帯の区分割合]

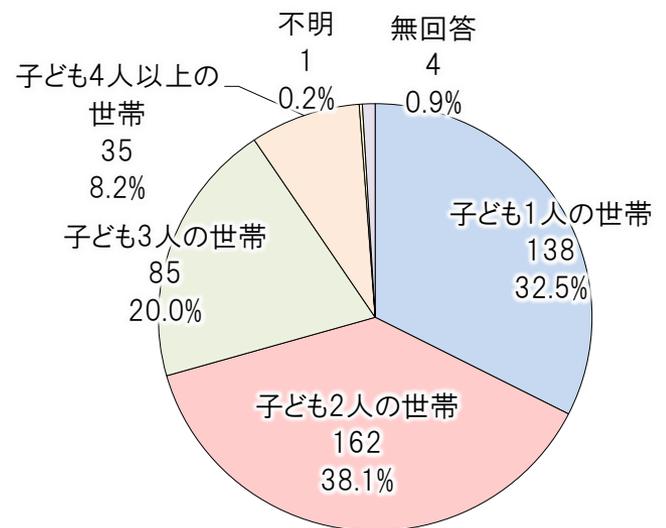


※専業主婦(夫)世帯の定義は、本アンケートの勤務形態を問う設問において、夫婦どちらかが「未就労」となっている世帯を抽出している。
※多子世帯とは、子どもが3人以上いる世帯のこと。

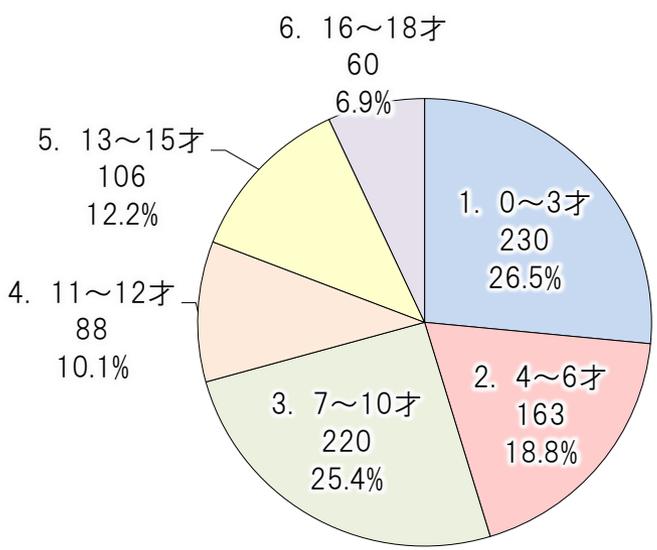
■子どもの状況 (子あり世帯 n=425)

本アンケートに回答した子どものいる回答者の状況を見ると、子ども2人の世帯が最も多く、次いで、子ども一人の世帯からの回答が多くなっている。平均して1世帯あたりの子ども数は2.1人となっている。

[現在の子の人数別世帯数]



[子の年齢区分]



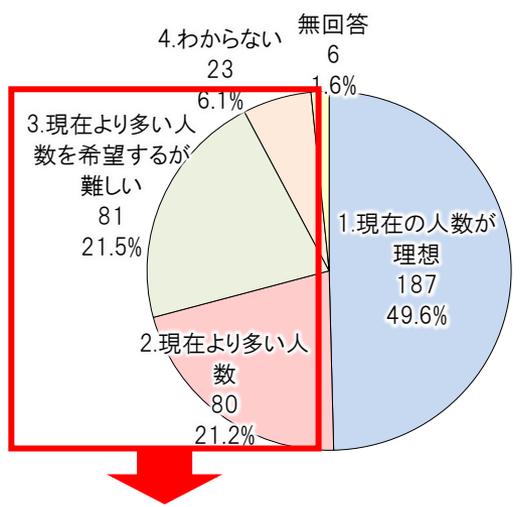
[1世帯あたりの子どもの数]

子どもの数	867	人
有効世帯数	420	世帯
1世帯あたりの子ども数	2.1	人
※不明及び無回答は除く		

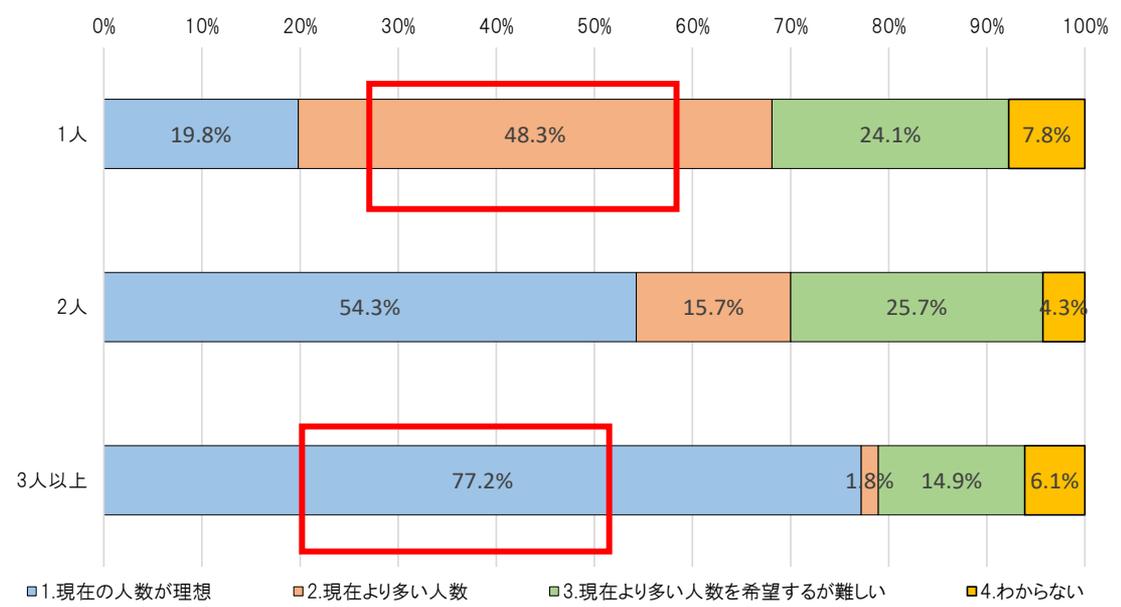
■ 将来的に子どもが欲しいかどうか(理想の子の人数) <子どもとパートナーがいる世帯> (n=377)

ふたり親(子あり)世帯の今後の子ども意向について、約7割が2~3人と希望している。また、4人以上とする人も1割存在し、現在子どもがいない世帯よりも、希望する割合が高くなっている。

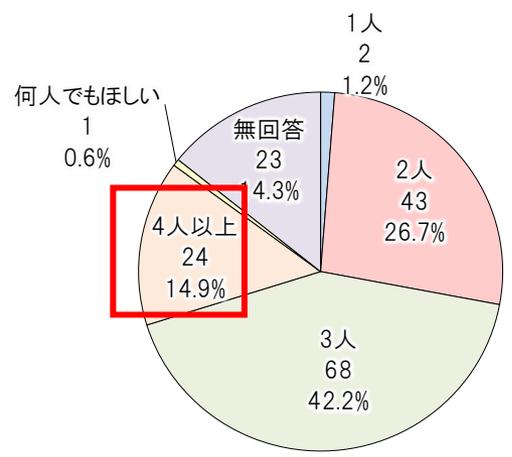
[意向 ふたり親(子あり)世帯 n=377] ➔ [現在の子ども数に対する子どもの意向]



[理想の子の人数]



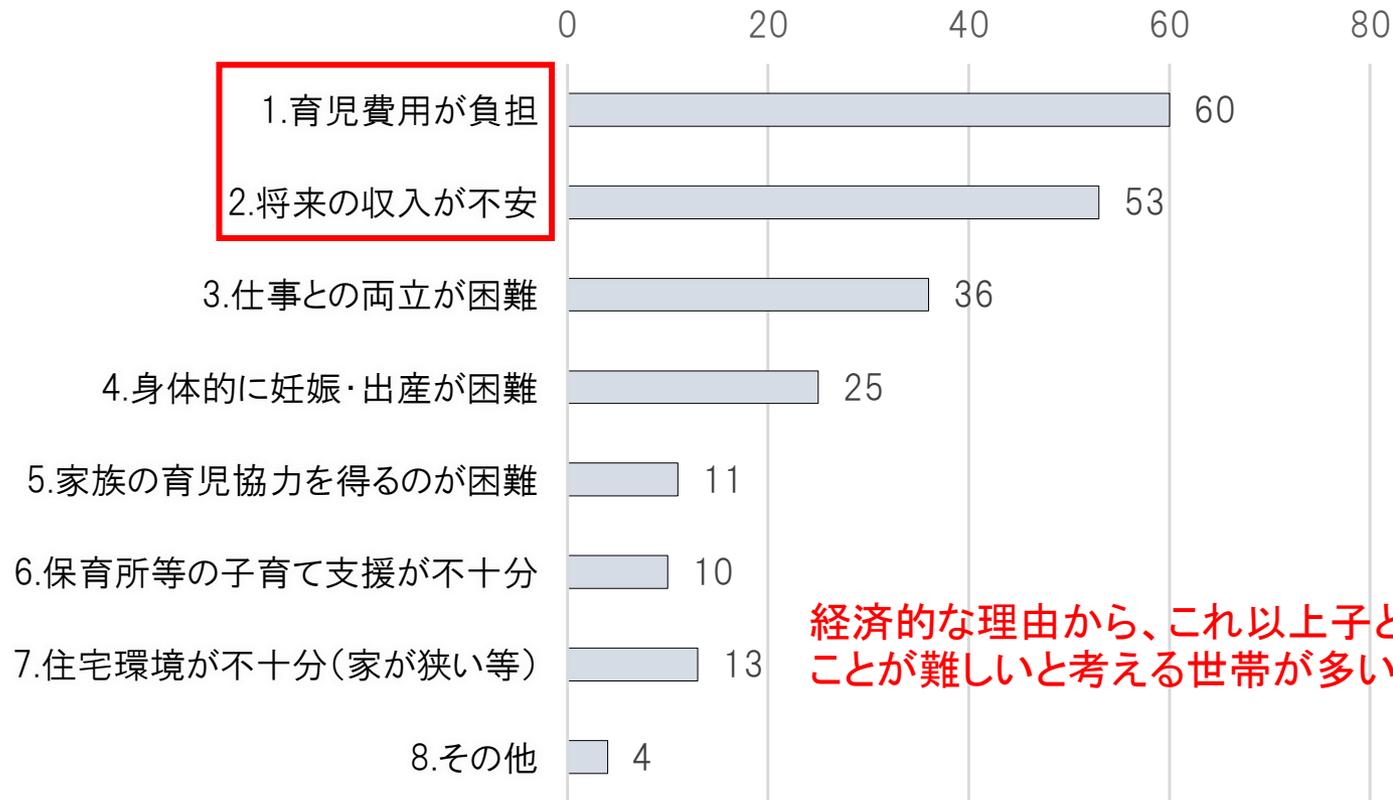
子ども一人の世帯は、現在よりも多い人数を希望している。



4人以上を希望する世帯の割合が比較的高い

■ 将来的に子どもが欲しいかどうか(理想の子の人数) <ふたり親(子あり)世帯> (n=377)

[現在より多い人数を希望するが難しい理由]



経済的な理由から、これ以上子どもを希望することが難しいと考える世帯が多い。

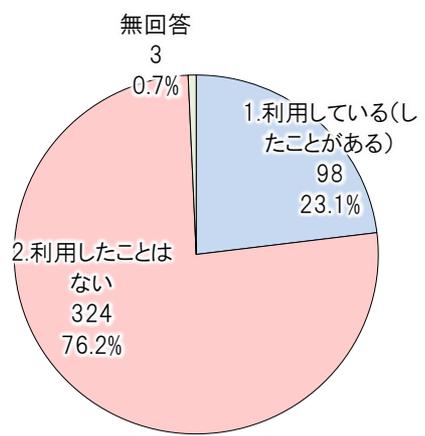
【その他回答】

- 子ども会がとにかく負担。いつかやる役職が、ワンオペで育児家事仕事をこなしながらがきつい。子ども会が無かったらもう2人くらい産みたかった。
- とにかく、市からの支援が少なすぎる。3人目以降は一時金とかつくて欲しい

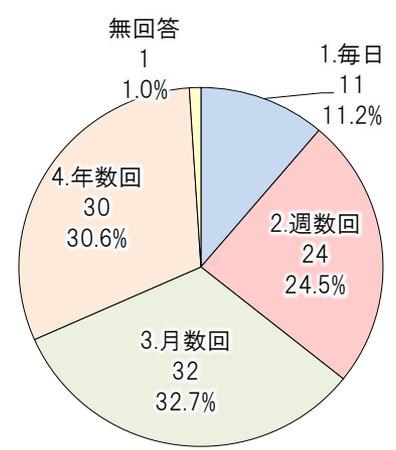


■ 一時預かりについて

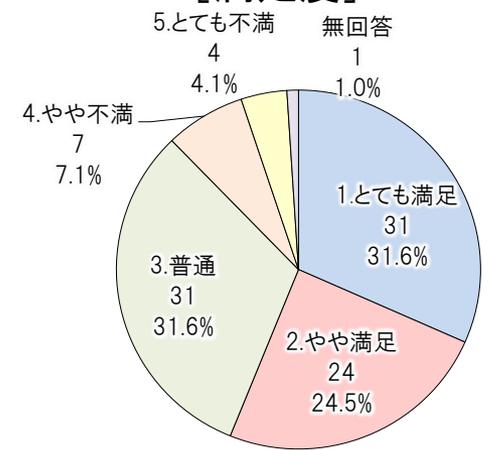
[利用有無]



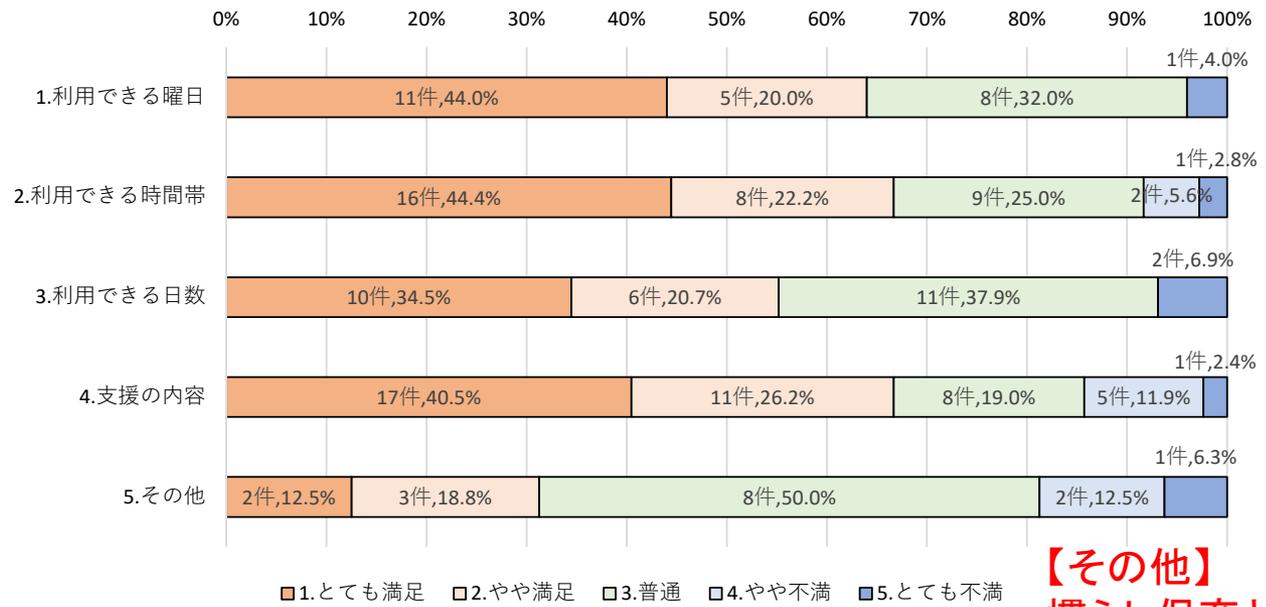
[利用頻度]



[満足度]



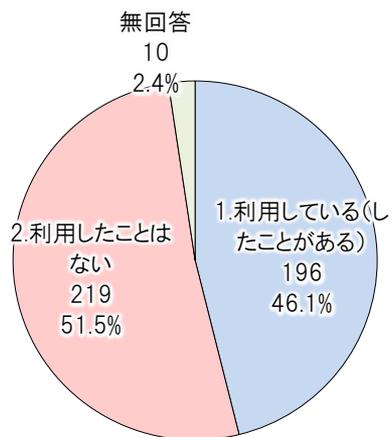
[満足度に対する理由]



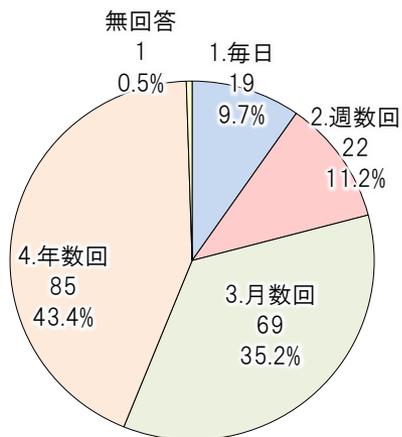
**【その他】
慣らし保育として利用**

■ 延長保育について

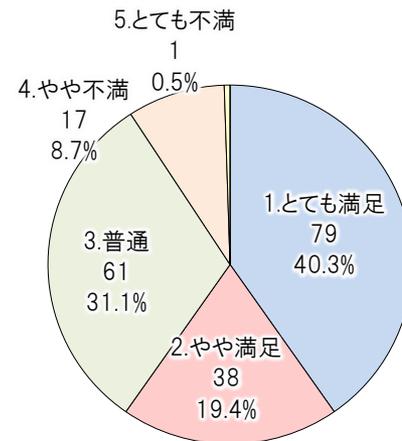
[利用有無]



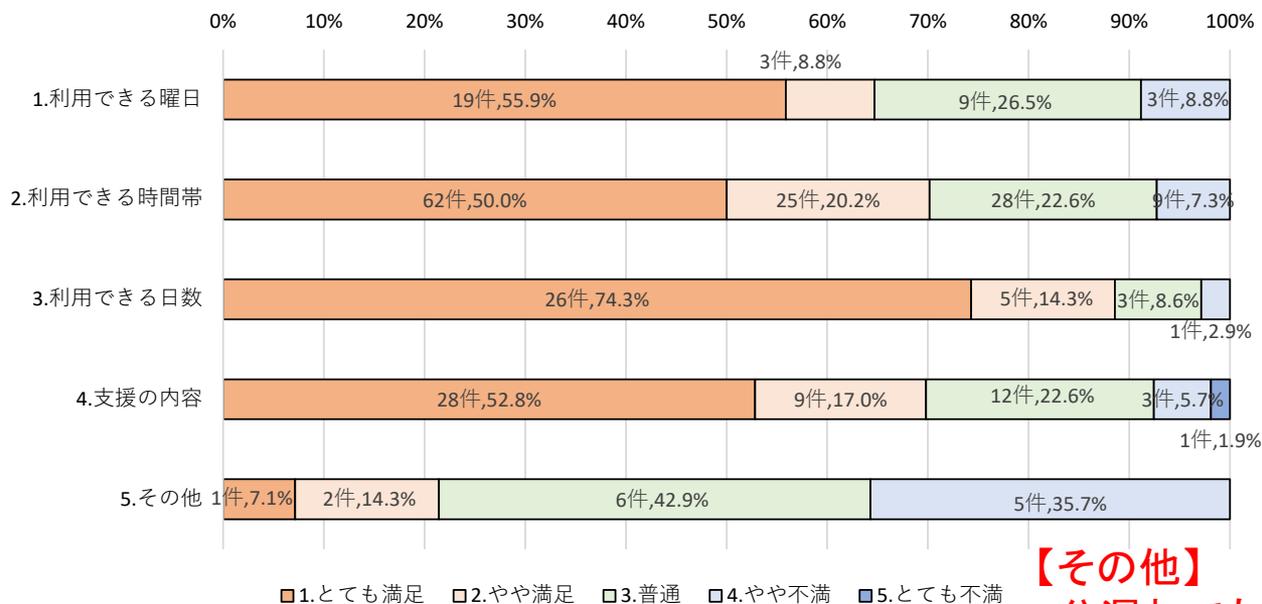
[利用頻度]



[満足度]



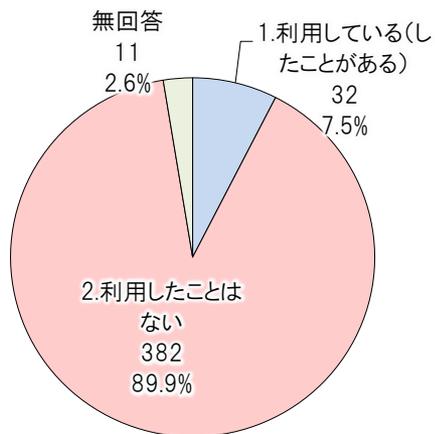
[満足度に対する理由]



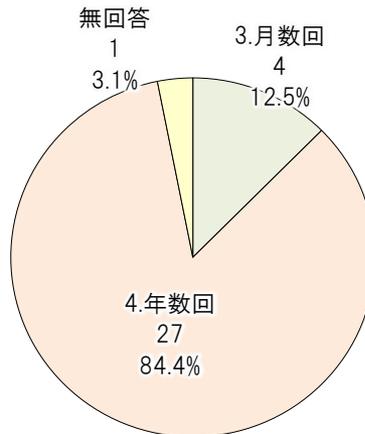
【その他】
1分遅れてもお金がかかる

■ 病児保育・病後児保育について

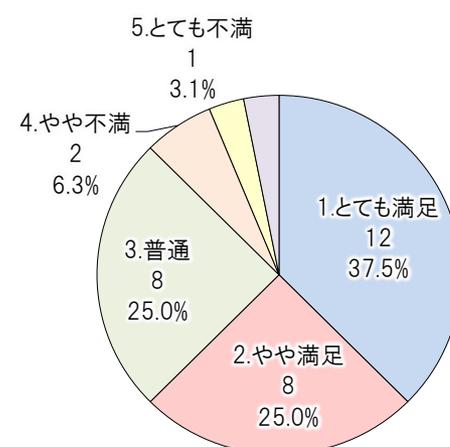
[利用有無]



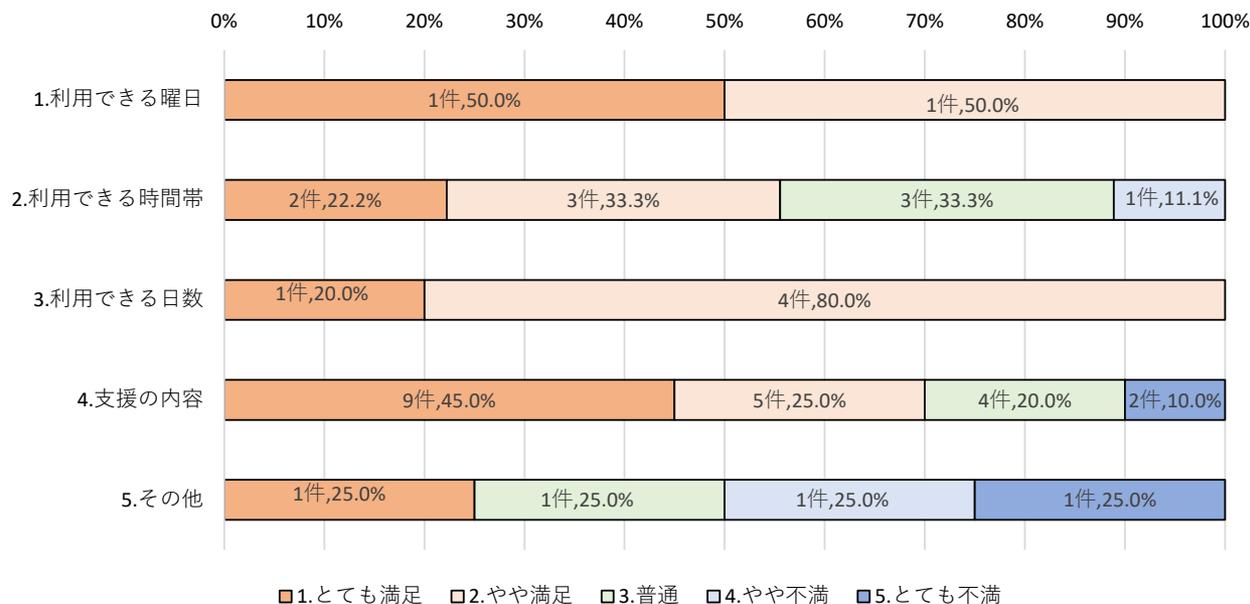
[利用頻度]



[満足度]

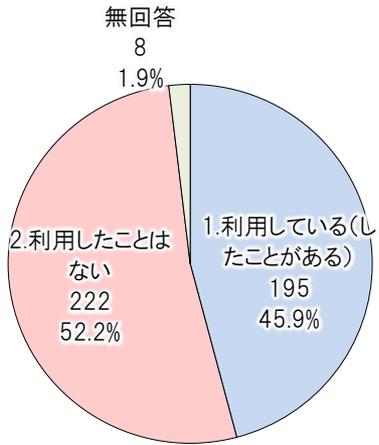


[満足度に対する理由]

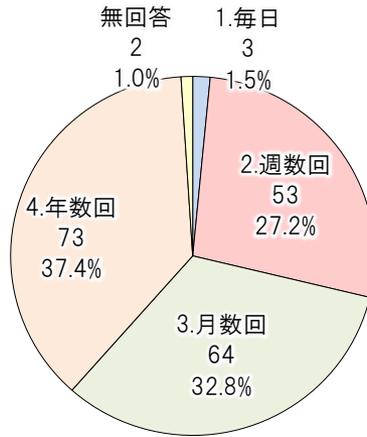


子育て支援センターについて

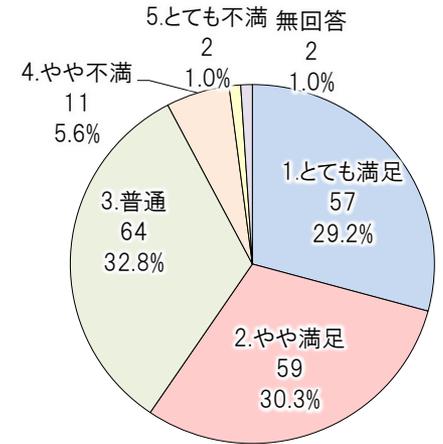
[利用有無]



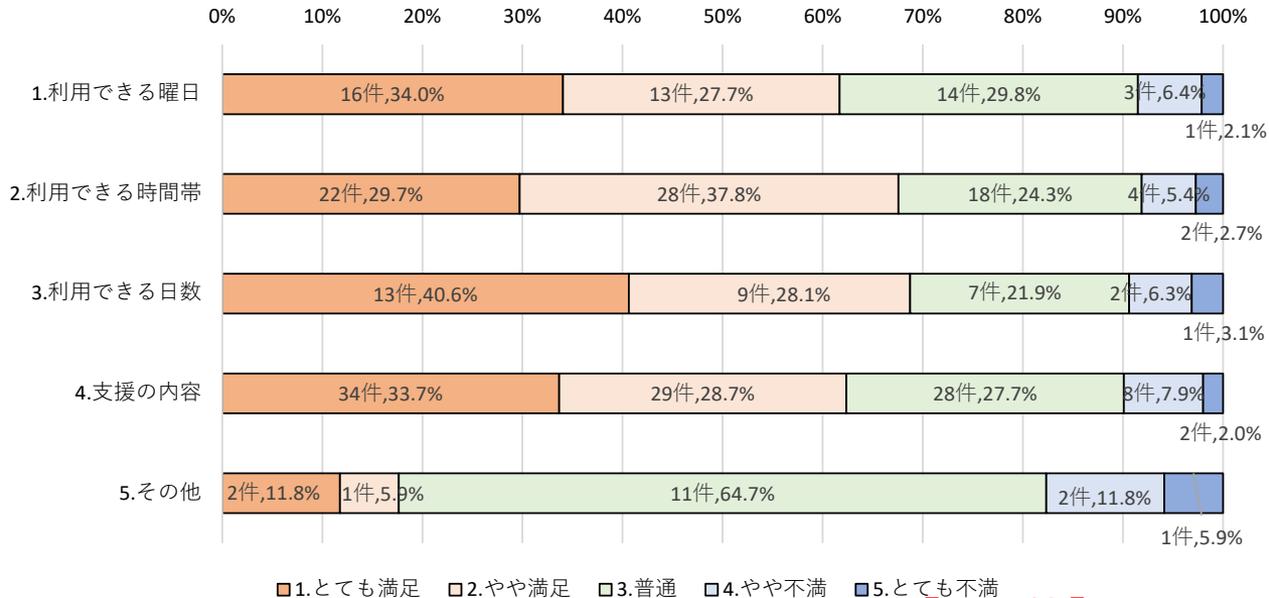
[利用頻度]



[満足度]



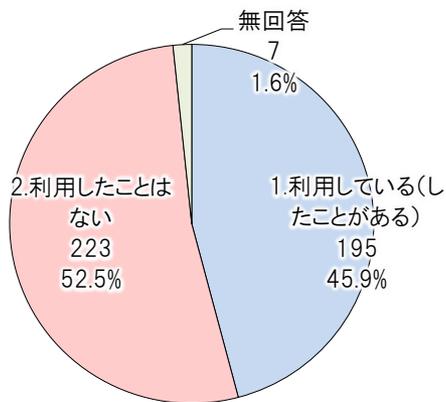
[満足度に対する理由]



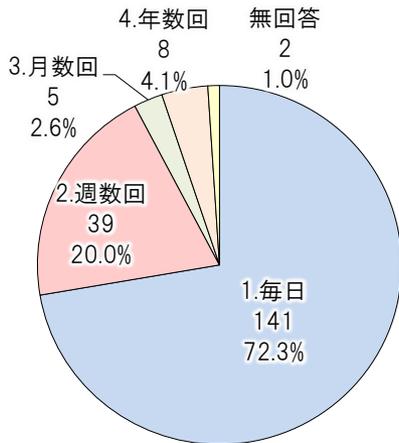
【その他】
 保育園の見学を兼ねて使用した

■ 放課後児童クラブについて

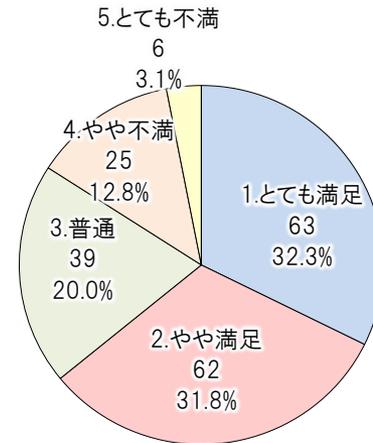
[利用有無]



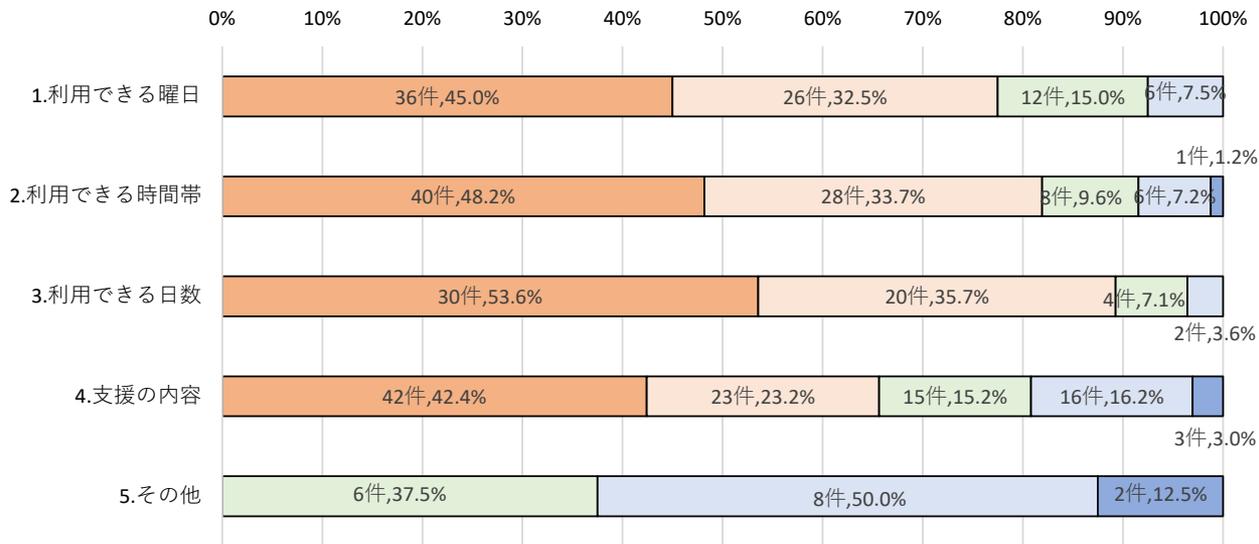
[利用頻度]



[満足度]



[満足度に対する理由]



■ 1.とても満足 □ 2.やや満足 □ 3.普通 □ 4.やや不満 ■ 5.とても不満

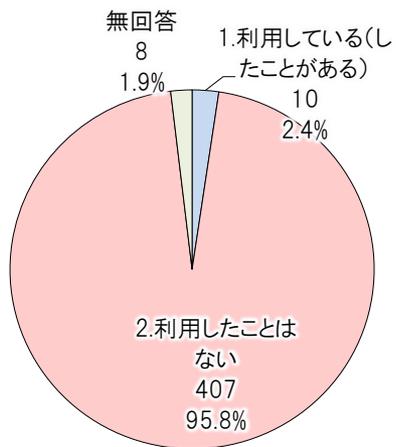
【その他】

当時の先生が適切ではなかった

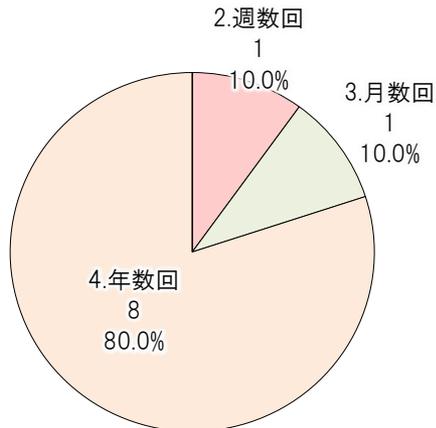
子どもがはばしく(行儀が悪く)、夏休みに「1日中見れないので午前で帰ってほしい」と言われ、やめた。 36

■ファミリーサポートセンターについて

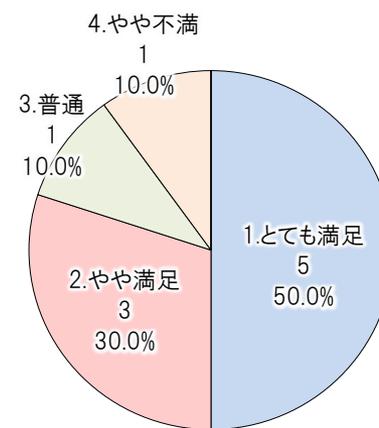
[利用有無]



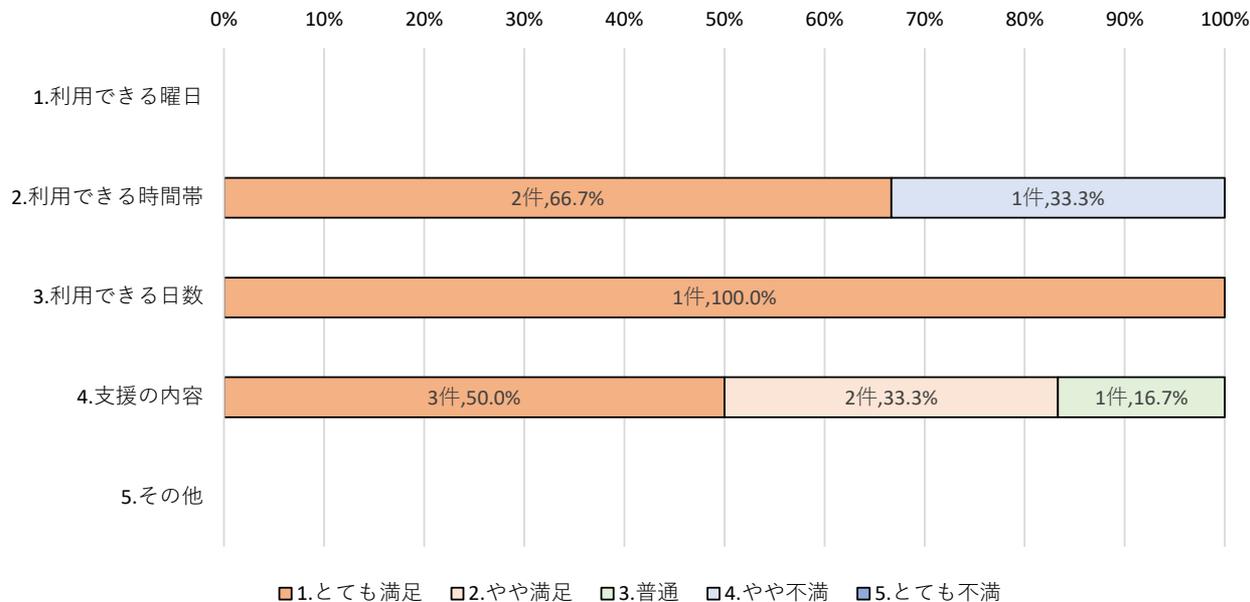
[利用頻度]



[満足度]



[満足度に対する理由]



■必要な(充実して欲しい)子育て支援サービス

○経済的支援

- ・ 高校無償化
- ・ 高校進学補助金
- ・ 給食費無料
- ・ 第二子からの保育無償化
- ・ 18歳未満の医療費無償化
- ・ 学費の免除
- ・ 高校生の医療費軽減
- ・ 児童手当の増額
- ・ 子育て支援金の増額
- ・ 現金配布
- ・ 物資の配布(オムツ、ミルクなど)

○医療・健康

- ・ 小児科専門の地域医院
- ・ 産後すぐの預かり施設
- ・ 予防接種の代行サービス
- ・ 子ども医療の拡充
- ・ 孤立しないための相談支援
- ・ 産後ケアの充実
- ・ 小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科などの医療施設の充実

○遊び・レクリエーション施設

- ・ 雨の日の室内アスレチック
- ・ 子どもが遊べる施設の増設
- ・ 屋内の遊び場
- ・ 公園、アスレチック
- ・ 公園の整備・遊具の増設
- ・ 学童保育の資質向上
- ・ 土日利用可能な施設

○教育・学習

- ・ 学力向上のための補習
- ・ 塾や勉強ができる場所

○サービス・制度の改善

- ・ オンラインでの申し込み・申請
- ・ 病児保育
- ・ 放課後・長期休みの子どもの預かりサービス
- ・ 病後児保育の利用改善
- ・ 保育園の完全無料化
- ・ 子育て相談の場の設置・充実
- ・ 緊急な預かり保育
- ・ 子育てママのコミュニティ発信
- ・ 子育て支援センターの場所やイベントの改善
- ・ 児童クラブの体制支援
- ・ 中学生部活動のクラブ移行及び交通費補助
- ・ 子育て相談がしやすい場の提供

○地域コミュニティ

- ・ 地域部落との共同子育て
- ・ 同じ悩みを持つ親同士の繋がり

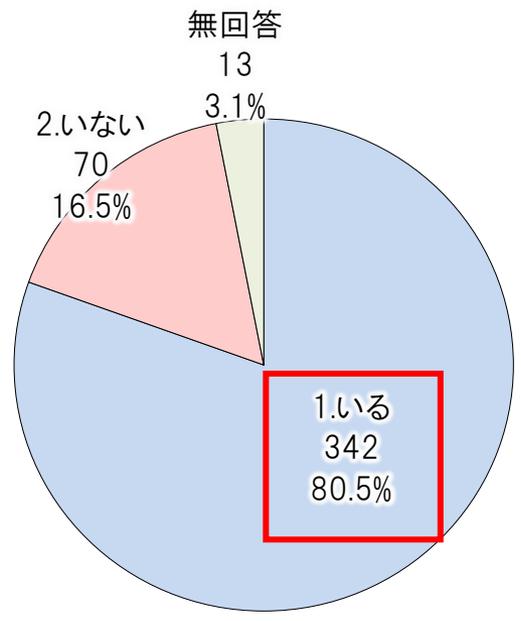
○その他

- ・ オムツの定期便
- ・ 大田市内の観光地に電子レンジ設置
- ・ 急な仕事の際の短時間預かり
- ・ 障害児向け、ひとり親向けサービス

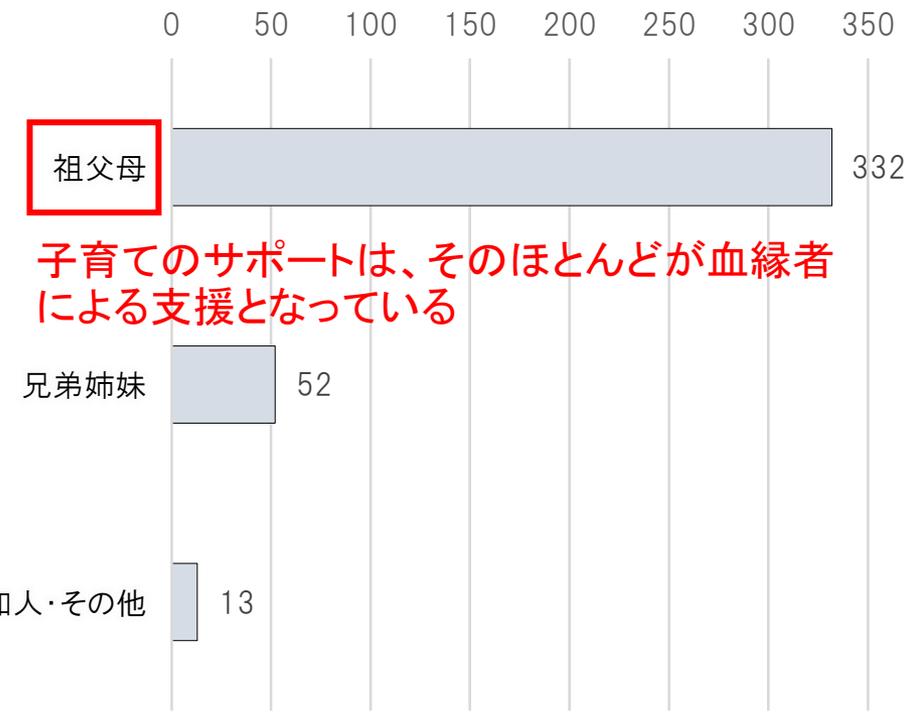
■月1回以上子育て支援する方の有無（子あり世帯 n=425）

月1回以上子育て支援する方の有無について、いると回答した方は約8割となっている。

[子育て支援者の有無]



[子育て支援者属性の内訳 複数回答可]



子育てのサポートは、そのほとんどが血縁者による支援となっている

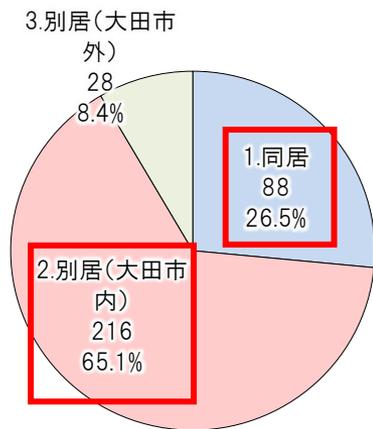
[子育て世帯属性別の状況]

	1.いる	2.いない	無回答
共働き世帯	82.3%	15.0%	2.7%
専業主婦(夫)	83.3%	16.7%	0.0%
多子世帯	86.7%	11.7%	1.7%
ひとり親世帯	70.8%	25.0%	4.2%

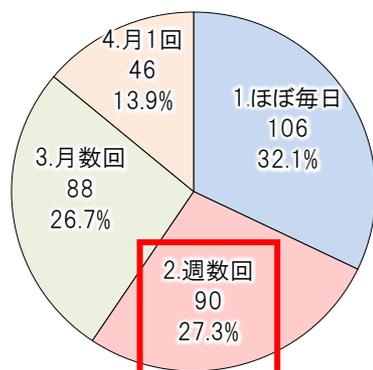
ひとり親世帯に関して、支援者がいると答えた割合が低い

■ 祖父母について

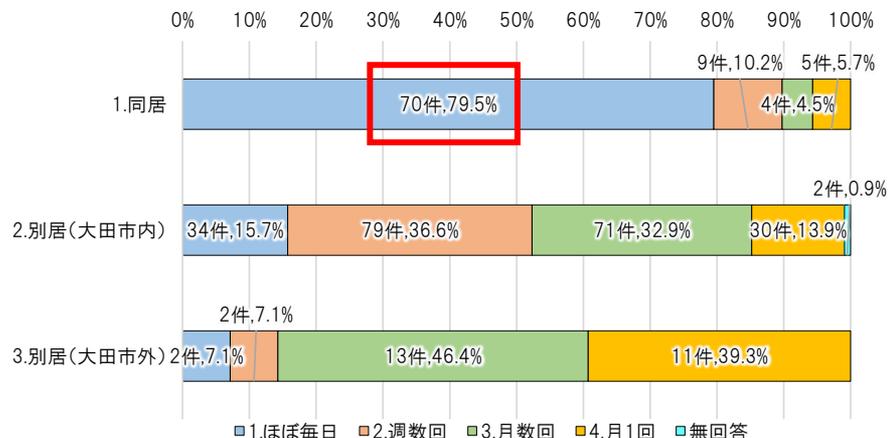
[支援者との居住の関係]



[支援頻度]



[クロス集計: 居住関係別支援頻度]



[支援内容]



祖父母は子育てにおいて、頻度の多さ、内容の充実が見られることから、大変重要な役割を担っていることが分かる。

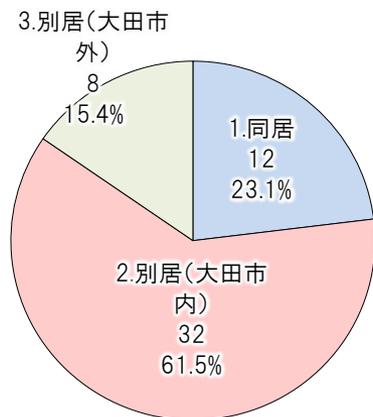
[クロス集計: 居住関係別支援内容]

	1.家事	2.保育園、学校、部活、習い事等への送迎	3.発熱時や傷病時の対応	4.一時的な預かり	5.その他
1.同居	83.0%	60.2%	63.6%	31.8%	5.7%
2.別居(大田市内)	27.8%	45.4%	41.7%	65.3%	4.2%
3.別居(大田市内外)	17.9%	17.9%	50.0%	60.7%	10.7%

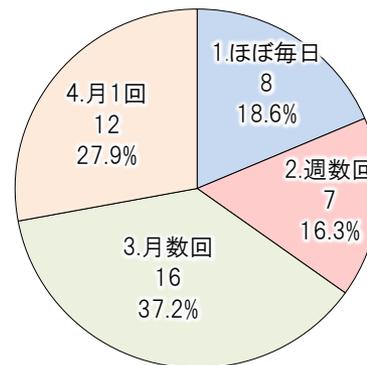
居住関係が近いほど、より充実した支援が行われている。

■ 兄弟姉妹について

[支援者との居住の関係]



[支援頻度]

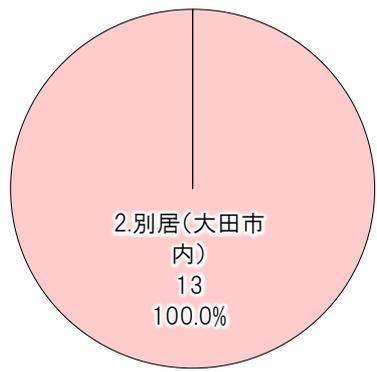


[支援内容]

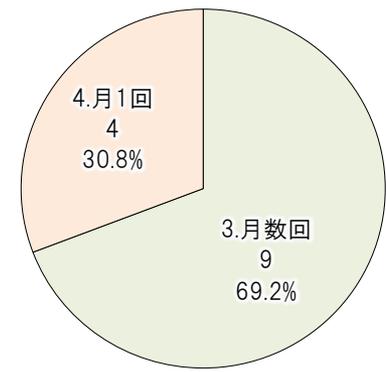


■知人・友人・その他について

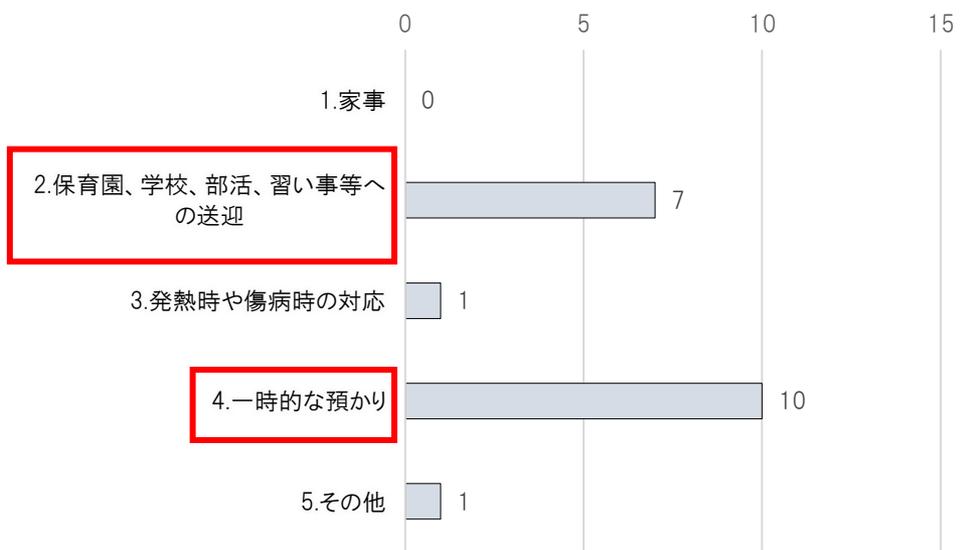
[支援者との居住の関係]



[支援頻度]



[支援内容]



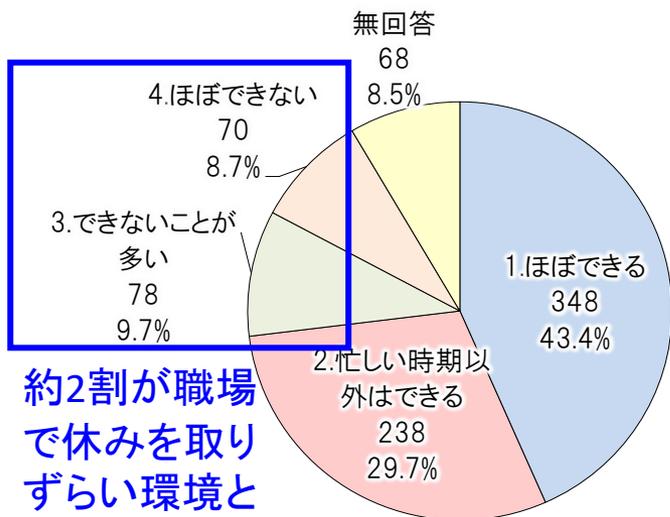


■職場での各種支援策（子あり世帯 n=425）

職場で休みが取れるかどうかについて、ほぼできるという回答は約4割、忙しい時期を除いて出来るという回答も含めると約7割となっている。

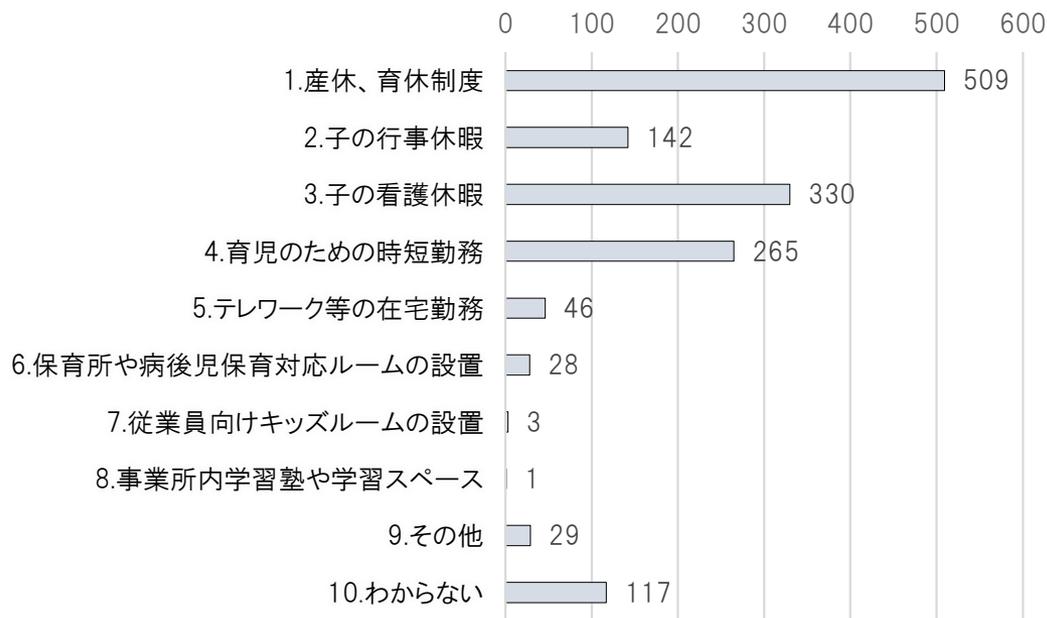
職場での子育て支援制度として最も多かったのは、「産休、育休制度」であり、次いで「子の看護休暇」、「育児のための時短勤務」となっている。

[職場で休みが取れるか]



約2割が職場で休みを取りづらい環境となっている

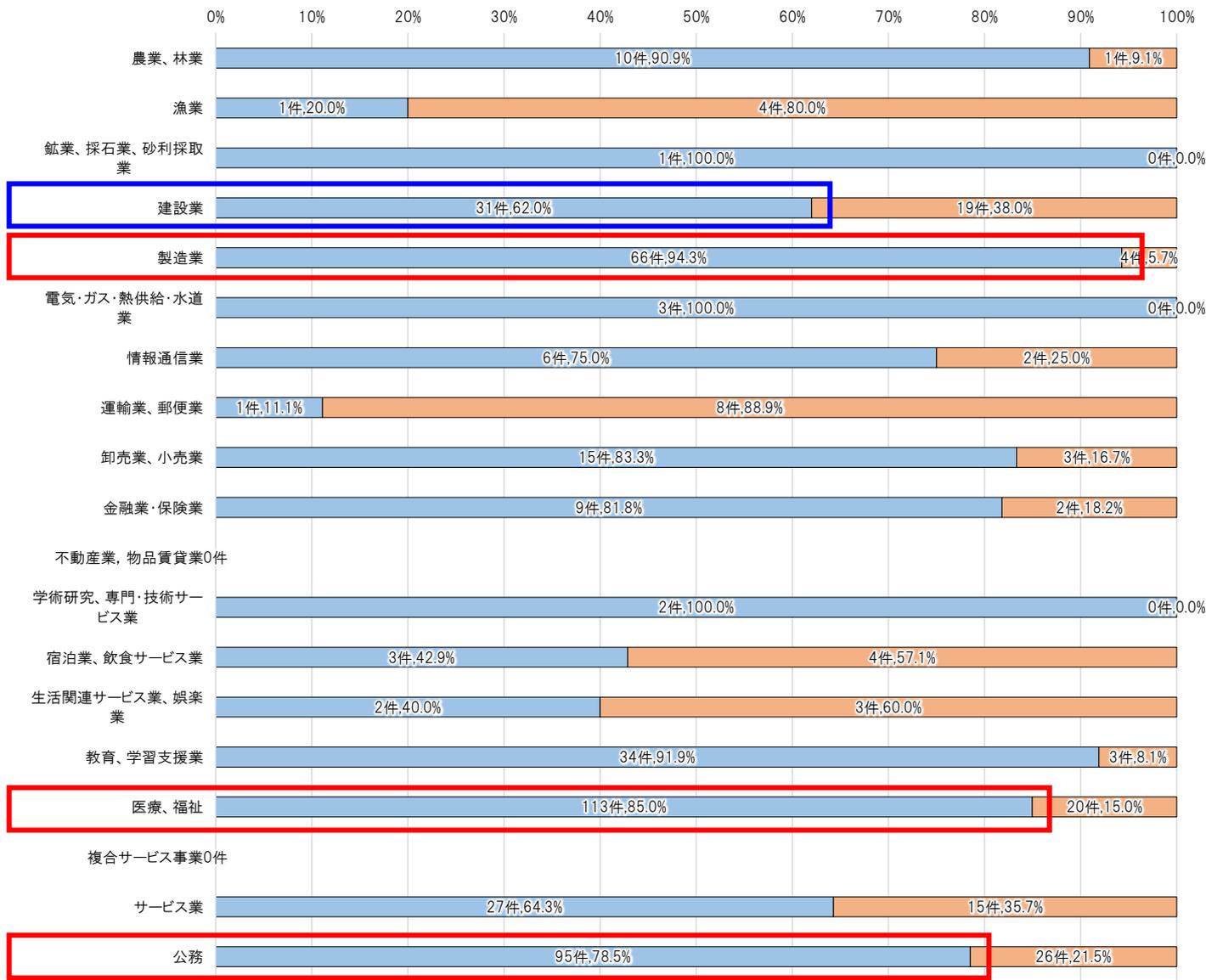
[職場の子育て支援制度の有無]



制度的、ハード的支援な充実が見られている一方で、職場によっては不十分なところもあるとみられ、対応すべき余地があるとみられる。

■職業別クロス集計（子あり世帯 n=425）

[子あり世帯別 n=425]

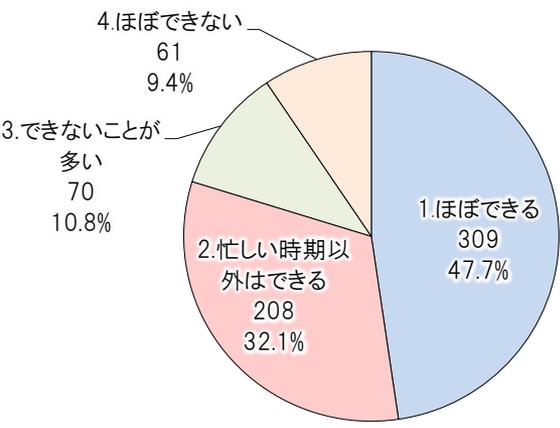


建設業では、「比較的休みが取れない」と答えている割合が高い。

就業人口の多い製造業、医療・福祉、公務のいずれも、「休みが取れる」という回答が多い。

子育て世帯の属性別クロス集計 (子あり世帯 n=425)

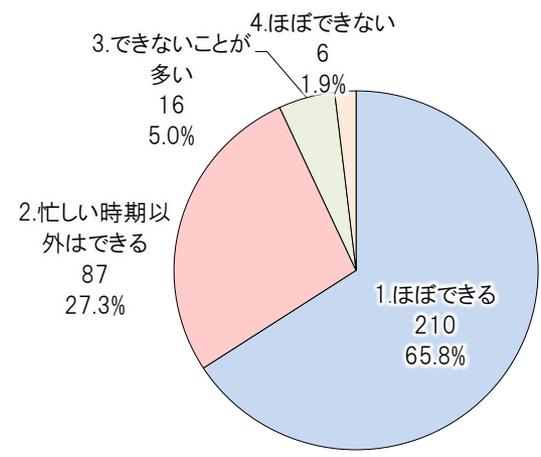
[共働き世帯のうちの夫婦別 n=648]



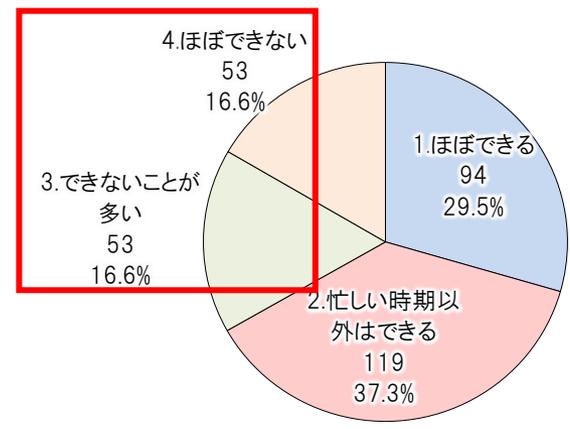
	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
妻	210	87	16	6
夫	94	119	53	53
回答しない	5	2	1	2
不明	0	0	0	0
合計	309	208	70	61

約3割の夫が出来ないと回答しており、男女で差がみられる。

[妻の状況]

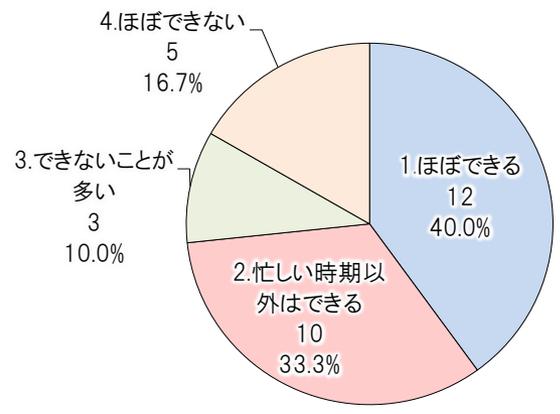


[夫の状況]



子育て世帯の属性別クロス集計 (子あり世帯 n=425)

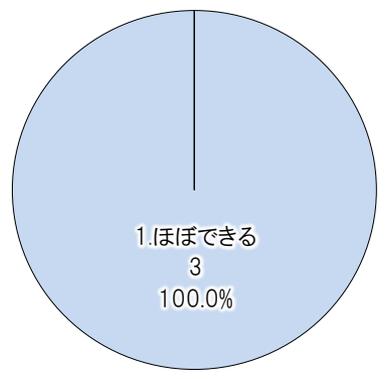
[専業主婦(夫)世帯のうちの夫婦別 n=30]



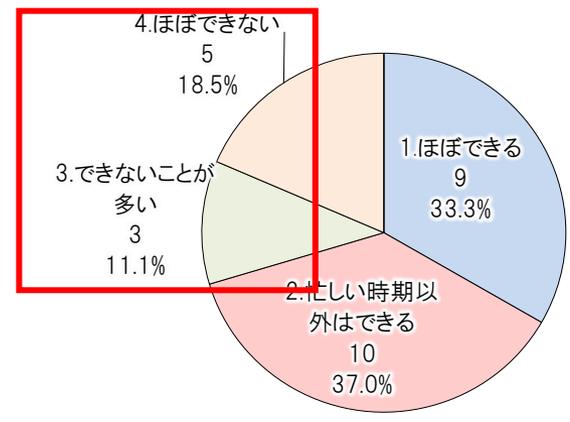
	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
主夫を持つ妻	3	0	0	0
主婦を持つ夫	9	10	3	5
回答しない	0	0	0	0
不明	0	0	0	0
合計	12	10	3	5

専業主婦を持つ夫の約3割が出来ないと回答。

[妻の状況]

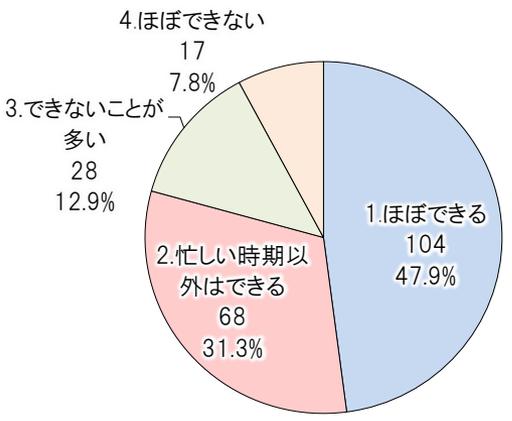


[夫の状況]



子育て世帯の属性別クロス集計 (子あり世帯 n=425)

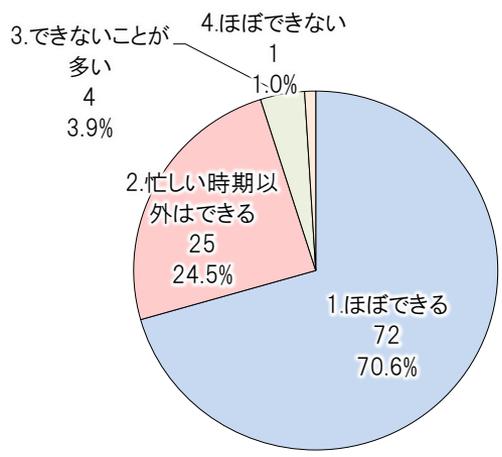
[多子世帯のうちの夫婦別 n=213]



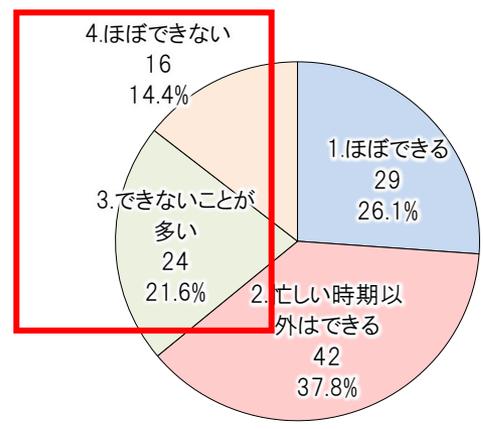
	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
妻	72	25	4	1
夫	29	42	24	16
回答しない	3	1	0	0
不明	0	0	0	0
合計	104	68	28	17

約4割の夫が出来ないと回答しており、子育て世帯の分類の中で最も大きな男女差が見られている。

[妻の状況]

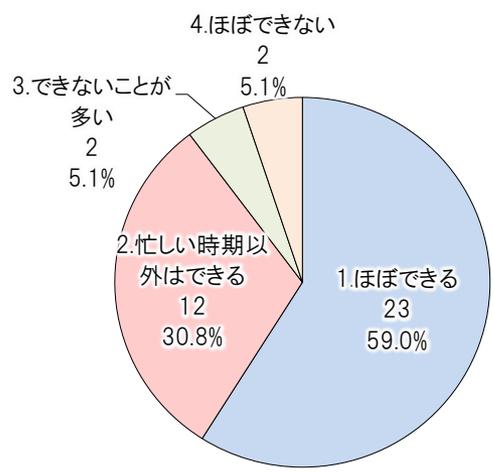


[夫の状況]



子育て世帯の属性別クロス集計 (子あり世帯 n=425)

[ひとり親世帯のうちの男女別 n=39]



	1. ほぼできる	2. 忙しい時期以外はできる	3. できないことが多い	4. ほぼできない
女性	21	9	1	1
男性	2	3	1	0
回答しない	0	0	0	1
不明	0	0	0	0
合計	23	12	2	2

ひとり親世帯については、できないと回答する方も若干存在している。

○休暇・休業制度

- 産休のみ利用可能
- 産休・育休は存在するが、勤務形態により利用制限
- 女性のための産休・育休利用
- 有給休暇がある
- 有給休暇がほとんどない
- 有給や休暇取得の制約
- 予防接種のための休暇あり
- コロナ禍の就職で年休の取得困難
- 休暇取得は上司の機嫌次第
- パートは休みやすい/パートナーは父親で休み取得が難しい
- 長期休暇中、職場への連れてきてOK
- 自営業者は自分で休暇を調整
- 休んでも良い雰囲気
- 突発的な事情でのスケジュール調整が難しい

○勤務形態による子育ての課題

- 自営業のため病気時も子供を連れて行き寝かせるしかない
- 経営者は融通がきく
- 子連れ出勤が許可されている
- 応じてもらえる確率が高いが、制度の明確性不明

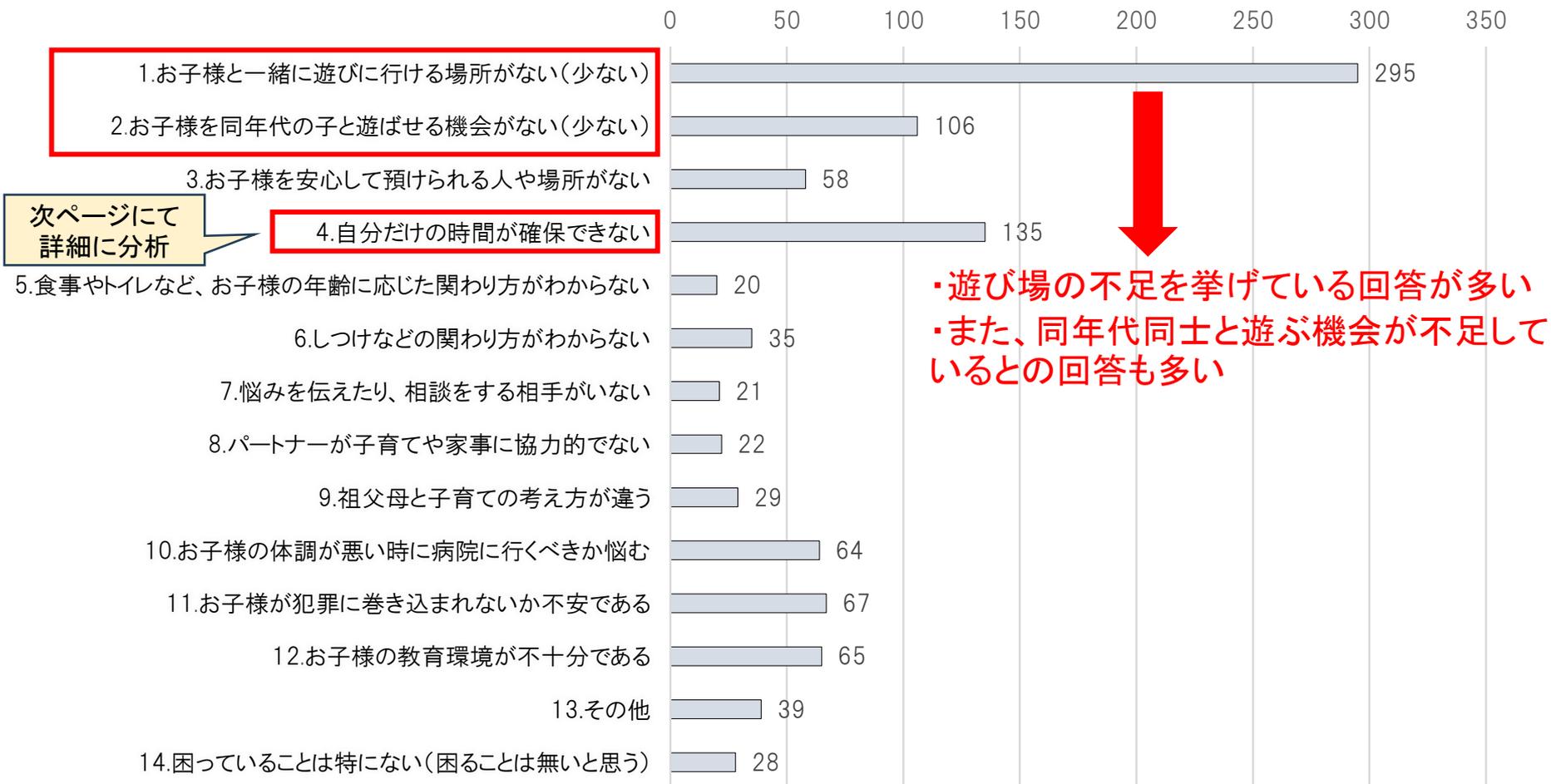
○制度と経済的影響

- 休暇利用によるボーナスの減少に不安
- 保育所利用補助制度あり

■子育てをしていて困っていること（子あり世帯 n=425）

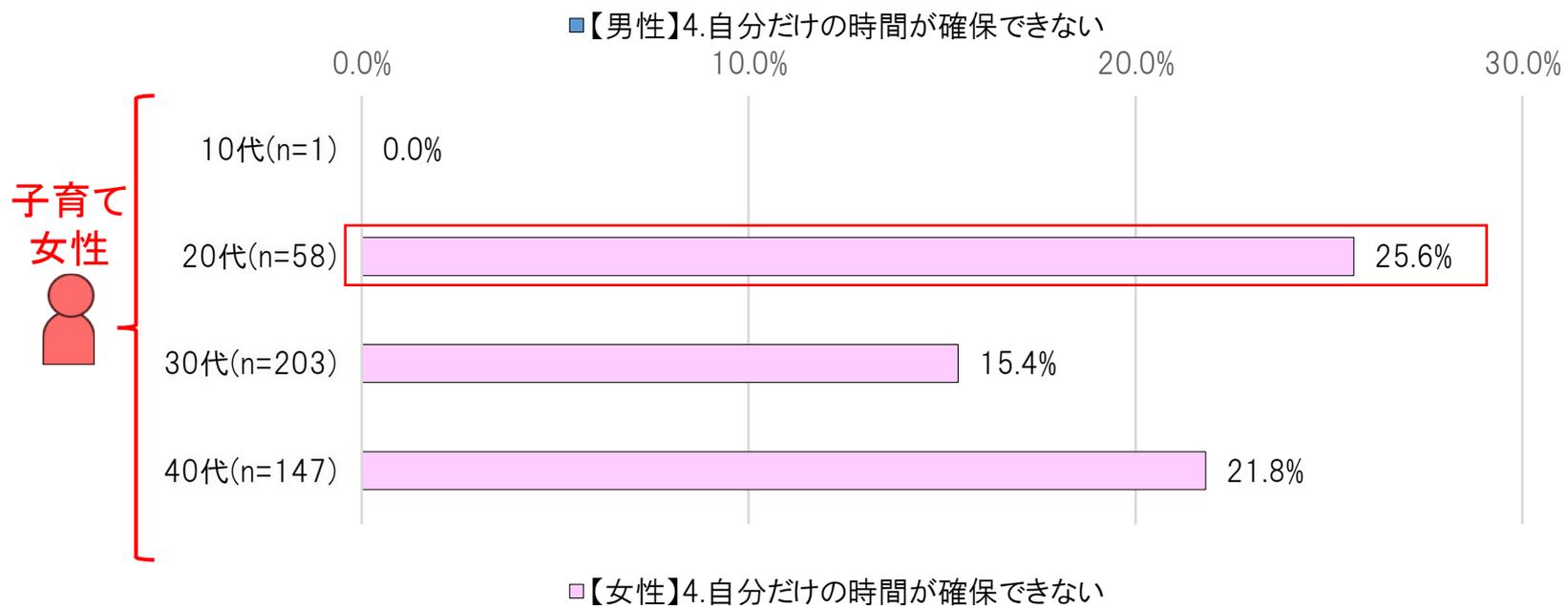
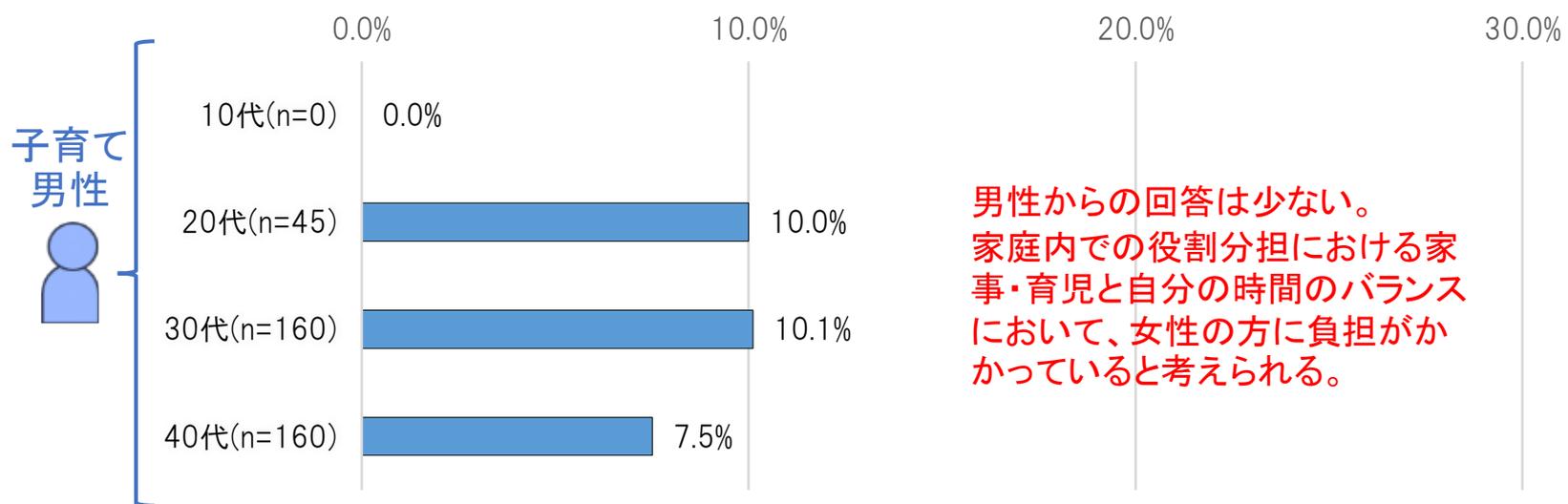
子育てをしていて困っていることとして最も多かったのは、「お子様と一緒に遊びに行ける場所がない(少ない)」であり、次いで「自分だけの時間が確保できない」、「お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない(少ない)」となっている。

[子育てをしていて困っていること]



■ 困りごとと設問限定クロス集計<性別年齢とのクロス>

「自分だけの時間が確保できない」について、性別年齢別に分析すると、女性の方が選択されている割合が高く、特に20代がもっとも高くなっている。



子育て世帯の属性別クロス集計

[困りごとクロス集計]

	1 ・お子様と一緒に遊びに行ける場所がない (少ない)	2 ・お子様を同年代の子と遊ばせる機会がない (少ない)	3 ・お子様を安心して預けられる人や場所がない	4 ・自分だけの時間が確保できない	5 ・食事やトイレなど、お子様の年齢に応じた 関わり方がわからない	6 ・しつけなどの関わり方がわからない	7 ・悩みを伝えたり、相談をする相手がいない	8 ・パートナーが子育てや家事に協力的でない	9 ・祖父母と子育ての考え方が違う	10 ・お子様の体調が悪い時に病院に行くべき か悩む	11 ・お子様が犯罪に巻き込まれないか不安である	12 ・お子様の教育環境が不十分である	13 ・その他	14 ・困っていることは特にない(困ることは 無いと思う)
共働き世帯	70.4%	26.0%	13.5%	32.0%	4.8%	8.4%	4.2%	6.0%	6.9%	15.9%	17.7%	17.1%	10.5%	7.8%
専業主婦(夫)	69.4%	36.1%	22.2%	41.7%	8.3%	11.1%	8.3%	2.8%	16.7%	22.2%	22.2%	19.4%	11.1%	5.6%
多子世帯	70.0%	18.3%	13.3%	35.0%	2.5%	5.8%	2.5%	8.3%	6.7%	10.8%	15.8%	15.8%	12.5%	8.3%
ひとり親世帯	66.7%	12.5%	6.3%	25.0%	2.1%	6.3%	8.3%	0.0%	8.3%	10.4%	18.8%	18.8%	12.5%	10.4%

全体的に専業主婦(夫)世帯において、困りごとが多く出ている。

○仕事との両立

- 週末の仕事による部活の送迎や大会の手伝いの負担
- パートナーの長時間勤務
- 仕事復帰後の育児支援の不十分さ
- 男性の育児支援の不十分さ
- 夫のボランティア仕事による家族時間の不足
- 育休や傷病による収入減少と物価高
- 職場環境の問題と産休の取得困難

○遊び場・公共公益的サービスの不足

- 公園、屋根付きの公園、屋内プールの不在
- 公園や子供が遊べる施設が不十分
- 雨の日の遊び場所の不足
- 季節に応じた遊び場の不足
- 年間通じての遊び場所の不足
- 休日診療を行う歯医者や内科の不在
- 市内に小児科がない
- 少ない病院と長い診療時間
- 小児科の専門医の不在
- 専門病院の不足
- 子どもを連れて行く病院の不足
- 小児科医院や市立病院の問題
- 乳児対応施設の希望
- 乳児対応飲食店の不足
- 病気の子どもの預け先がない

○経済的問題

- 経済的負担
- 多子家庭や子育ての経済的支援の不足
- 教育費用の高さ
- 高校生の医療費の高さ
- 母子家庭のコロナ感染と傷病手当の問題

○教育・進路

- 将来の進学・就労先の不在
- 教育のレベルが低い
- 子ども向け体験の機会が少ない
- 子どもの夢の支援の不足

○その他の問題

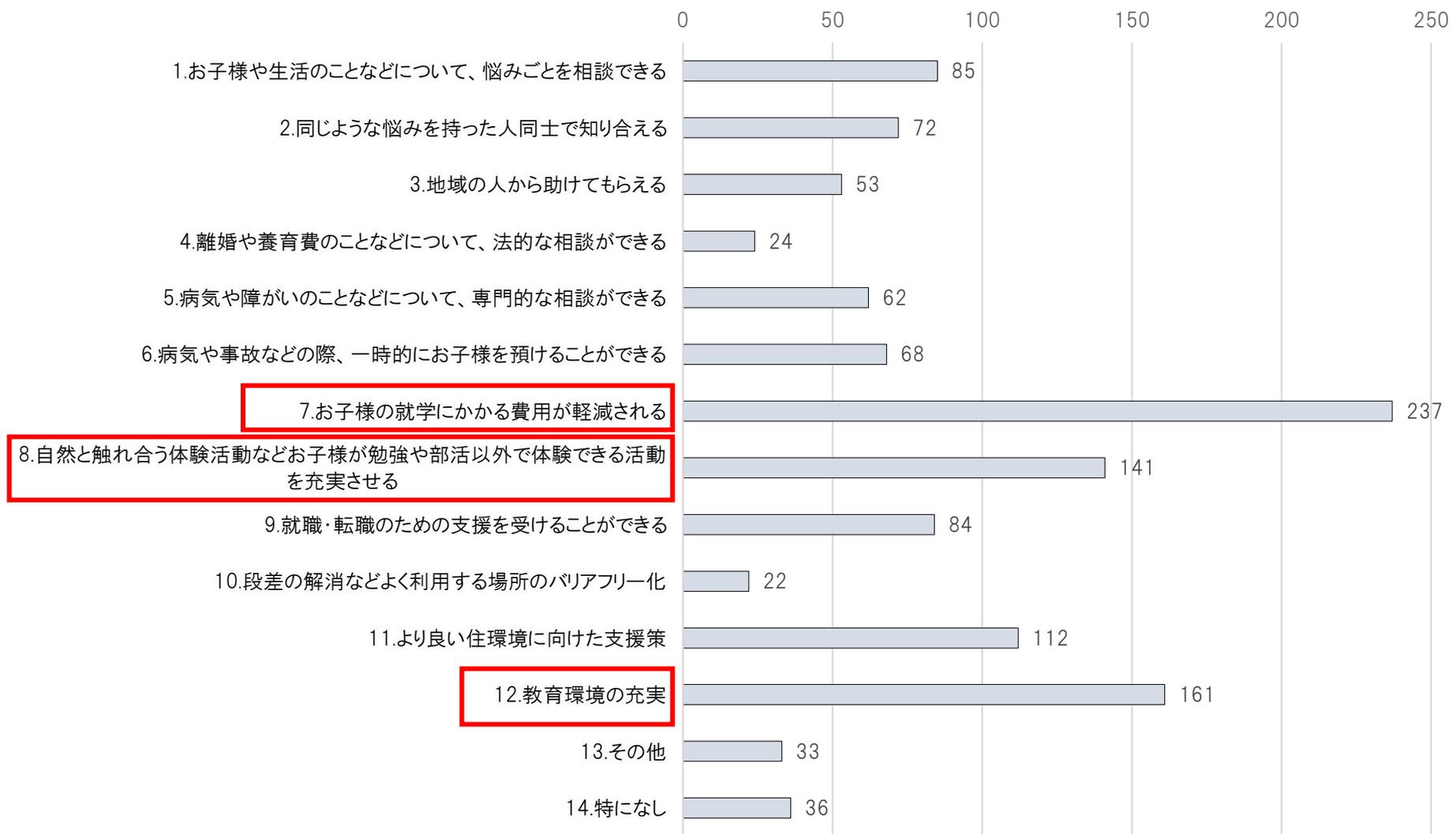
- 買い物が不便
- 子育て用品の販売場所が少ない
- 遠くの学校への送迎義務
- 習い事の送迎問題
- パートナーの家事協力の不足
- 子どもが入院中で子育ての現状不明
- 余裕のない子育て
- 障がい児の相談先の不足

<p>共働き世帯 に関するまとめ</p>	<p>①地域の設備・施設の不足 <ul style="list-style-type: none"> 公園・遊具の不足、子育て用品の購入場所、休日診療する病院、特定の専門の医療機関。 ②仕事との両立の困難さ <ul style="list-style-type: none"> 週末の仕事、子どもの部活や大会への参加や送迎、仕事復帰後の支援の不足。 ③教育・医療に関する懸念 <ul style="list-style-type: none"> 教育のレベル、小児科の不足、医療施設へのアクセス。 ④経済的な問題 <ul style="list-style-type: none"> 生活費の増加、共働きでも収入減での生活の困難さ。 </p>
<p>専業主婦(夫)世帯 に関するまとめ</p>	<p>①地域の設備・施設の不足 <ul style="list-style-type: none"> 子どものオムツ交換やミルクを上げる場所。 ②夫やパートナーの仕事の問題 <ul style="list-style-type: none"> 拘束時間の長さ、休日勤務。 </p>
<p>多子世帯 に関するまとめ</p>	<p>①地域の設備・施設の不足 <ul style="list-style-type: none"> 公園・遊具の不足、習い事、進学先、保育園の閉園、購入場所、医療施設。 ②教育・医療に関する懸念 <ul style="list-style-type: none"> 教育のレベル、進学先、小児科の不足、特定の専門の医療機関。 ③経済的な問題 <ul style="list-style-type: none"> 子育ての経済的支援の不足、教育費用。 </p>
<p>ひとり親世帯 に関するまとめ</p>	<p>①医療の問題 <ul style="list-style-type: none"> 高い医療費、専門的な医療機関の不足やアクセス、休日の救急診療体制。 ②経済・職場の問題 <ul style="list-style-type: none"> 職場環境の困難さ、産休の取得の困難さ。 </p>

■子育てに必要なこと

子育てに必要なこととして最も多かったのは、「お子様の就学にかかる費用が軽減される」であり、次いで「教育環境の充実」、「自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる」となっている。

[子育てに必要なこと]



子育て世帯の属性別クロス集計

[必要なことクロス集計]

	1 ・お子様や生活のことなどについて、悩みごとを相談できる	2 ・同じような悩みを持った人同士で知り合える	3 ・地域の人から助けられる	4 ・離婚や養育費のことなどについて、法的な相談ができる	5 ・病気や障がいのことなどについて、専門的な相談ができる	6 ・病気や事故などの際、一時的にお子様を預けることができる	7 ・お子様の就学にかかる費用が軽減される	8 ・自然と触れ合う体験活動などお子様が勉強や部活以外で体験できる活動を充実させる	9 ・就職・転職のための支援を受けることができる	10 ・段差の解消などよく利用する場所のバリアフリー化	11 ・より良い住環境に向けた支援策	12 ・教育環境の充実	13 ・その他	14 ・特になし
共働き世帯	19.8%	15.9%	13.2%	3.9%	13.2%	14.4%	56.6%	35.6%	19.8%	5.4%	27.2%	40.7%	6.6%	8.4%
専業主婦(夫)	33.3%	27.8%	16.7%	8.3%	30.6%	19.4%	55.6%	36.1%	25.0%	2.8%	30.6%	30.6%	16.7%	11.1%
多子世帯	15.8%	9.2%	12.5%	0.8%	11.7%	12.5%	63.3%	37.5%	21.7%	4.2%	23.3%	40.0%	9.2%	8.3%
ひとり親世帯	12.5%	16.7%	6.3%	14.6%	12.5%	25.0%	56.3%	18.8%	16.7%	4.2%	20.8%	25.0%	10.4%	6.3%

○専業主婦(夫)世帯

・悩み事の相談支援や当事者同士の交流を求めて意見が多い。

○多子世帯

・子どもの多さから教育費の負担軽減及び教育環境の充実を求める意見が多い。

○ひとり親世帯

・養育費に関する支援を求めているほか、一時的に子どもを預けることが支援体制を求める意見が多い。

○施設・環境の提供

- 大型商業施設、乳児が遊べる場所の存在
- 子どもだけで遊べる公園や広場の要望
- 地区に学童がないことによる職場移転の懸念
- 公共施設におけるおむつ替え・授乳室の設置希望
- 子どもと遊べる場所の充実
- 自然環境の維持や美化の要望

○経済的支援

- 増税と出費の増加による経済的心配
- 20～30代の収入向上や補助策の要望
- 子どものための休業支援や手当の要望
- 経済的補助の必要性
- 保育料、副食費の無料化及び補助金提供の希望
- 児童手当の増額要望
- 給付金の増額希望

○教育・習い事

- 小学校の宿題の対応余裕がない
- 習い事の選択制約
- 学校の生徒数減少
- 高校給食の導入
- 大田での習い事情報の希望
- 習い事を選択肢の充実
- 進学高校の復活要望

○健康・安全

- 病院が少ないことによる不安
- ハラスメントのない環境を望む
- 病児保育の要望

○地域社会との関連

- 子育て支援の必要性
- 子どもを迷惑に思う人の減少希望
- 地域活性化や多子家庭の支援策
- 互助の精神での子育ての希望

○働く親のサポート

- 自分の時間がなく、近くに楽しみがない
- 子どもと親への実質的な支援要望
- 子育てしやすい雇用条件の提案

○その他

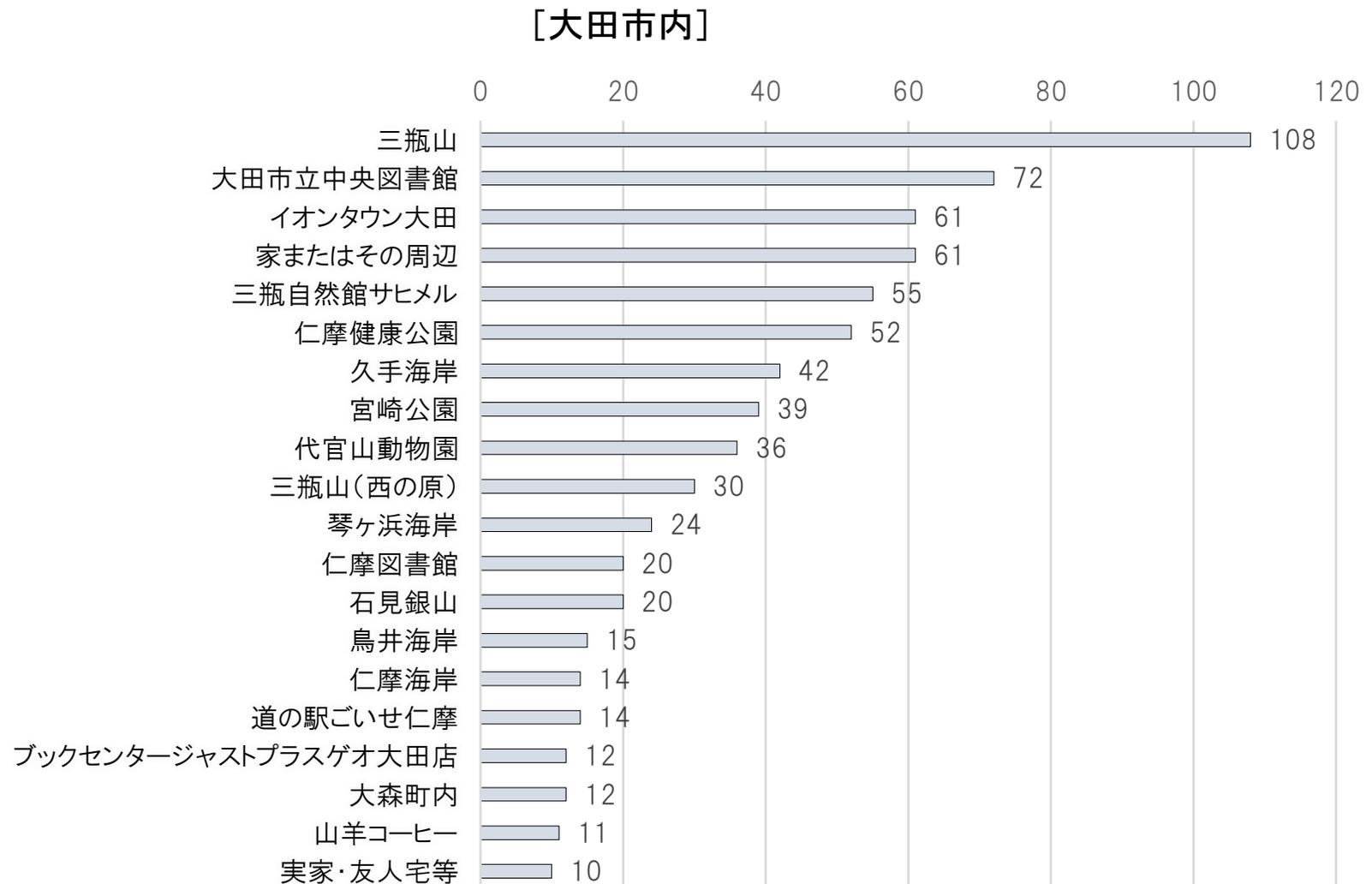
- PayPayや口座振り込みによる費用支払い
- 現実的な結婚や子育ての困難さ

<p>共働き世帯 に関するまとめ</p>	<p>①仕事と生活の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日々のルーチンと仕事の両立の難しさ、自分の時間の欠如、地域での楽しみの不足。 <p>②地域の設備・施設の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公園や広場、病院のアクセス、習い事の選択肢。 <p>③教育への願望</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの個性に合わせた教育や学校の課題。 <p>④経済的な懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> • 増税に伴う出費、子育ての経済的な支援の希望。
<p>専業主婦(夫)世帯 に関するまとめ</p>	<p>①地域の設備・施設の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大型商業施設や乳児が遊べる場所。 <p>②社会的な配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもを迷惑と感じる人々の意識の変革。 <p>③便利な支払い方法</p> <ul style="list-style-type: none"> • PayPay支払いや口座振込・引き落とし。
<p>多子世帯 に関するまとめ</p>	<p>①仕事と生活の両立</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の時間の欠如、地域での楽しみの不足。 <p>②地域の設備・施設の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> • 公園や広場、病院のアクセス。 <p>③経済的な懸念</p> <ul style="list-style-type: none"> • 増税に伴う出費、子育ての経済的な支援の希望。
<p>ひとり親世帯 に関するまとめ</p>	<p>①自然環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 川や山の保全。 <p>②地域の設備・施設の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもと一緒に遊べる場所の充実。 <p>③教育の選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> • 進学高校の復活。 <p>④経済的なサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> • 給付金の増加の希望。

お気に入りの場所・行事・イベント

■大田市内の場合

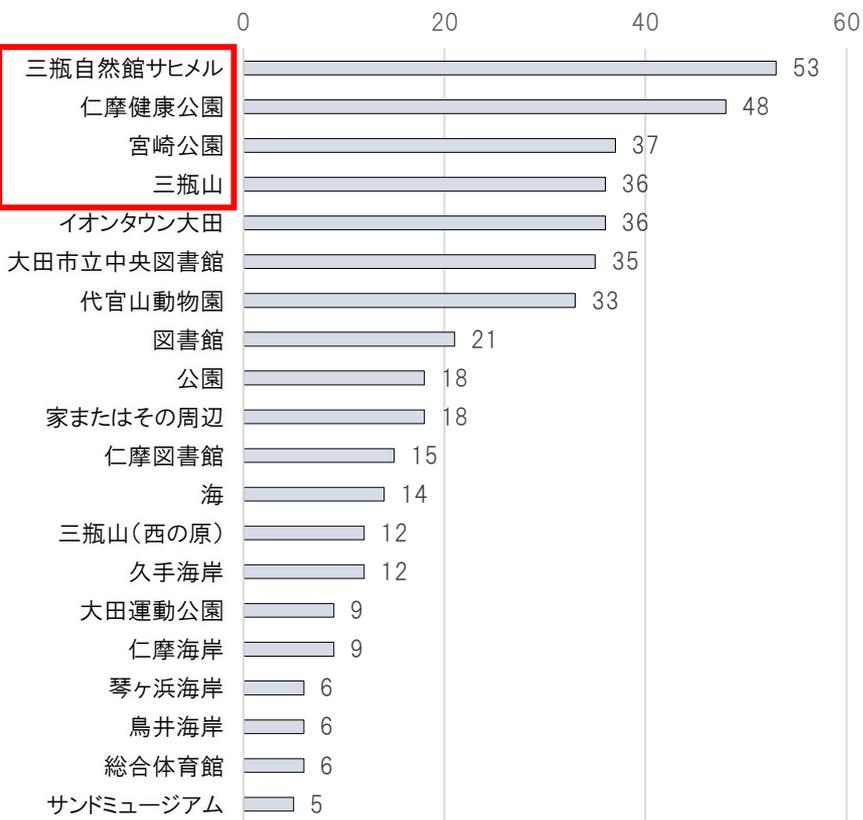
お気に入りの場所として最も多かったのは、「三瓶山」となっており、次いで「大田市立中央図書館」、「イオンタウン大田」となっている。



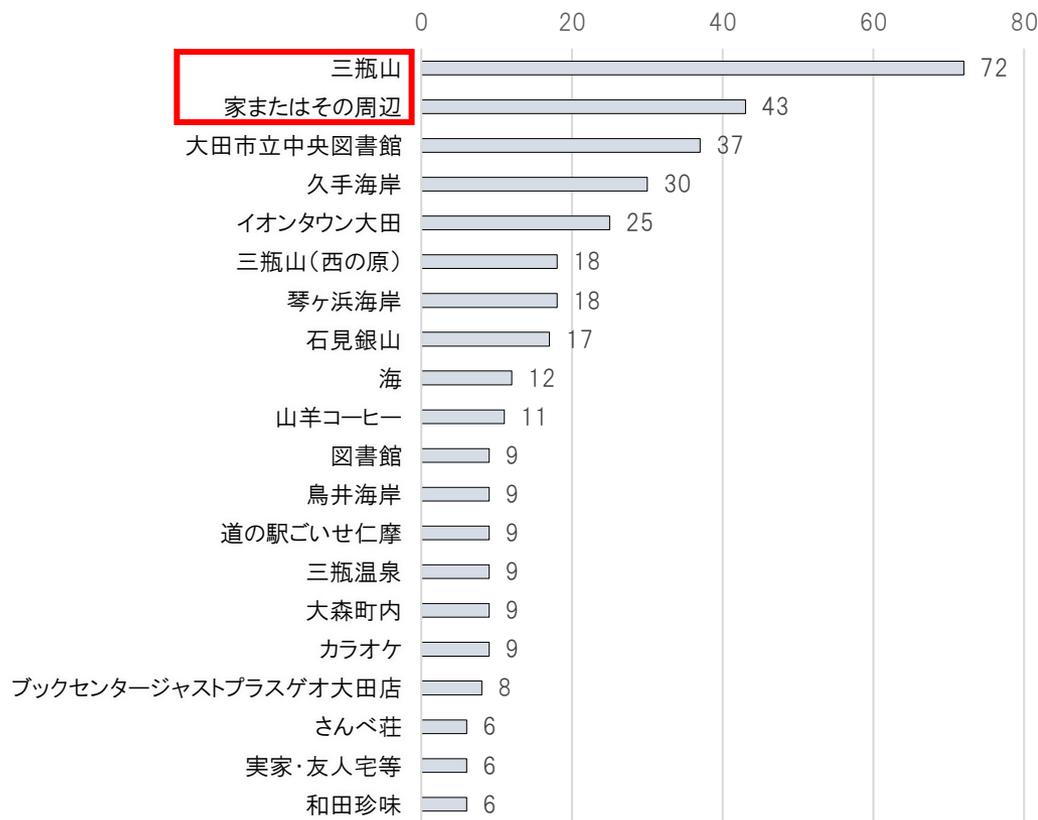
■クロス集計：子どもの有無別、大田市内の場合

子どもの有無にかかわらず、三瓶周辺がお気に入りの場所として選ばれている。子あり世帯の方が、公園を挙げている数が多い一方で、子なし世帯は、自身の「家またはその周辺」の回答数も多くなっている。

[子あり世帯、大田市内]



[子なし世帯、大田市内]

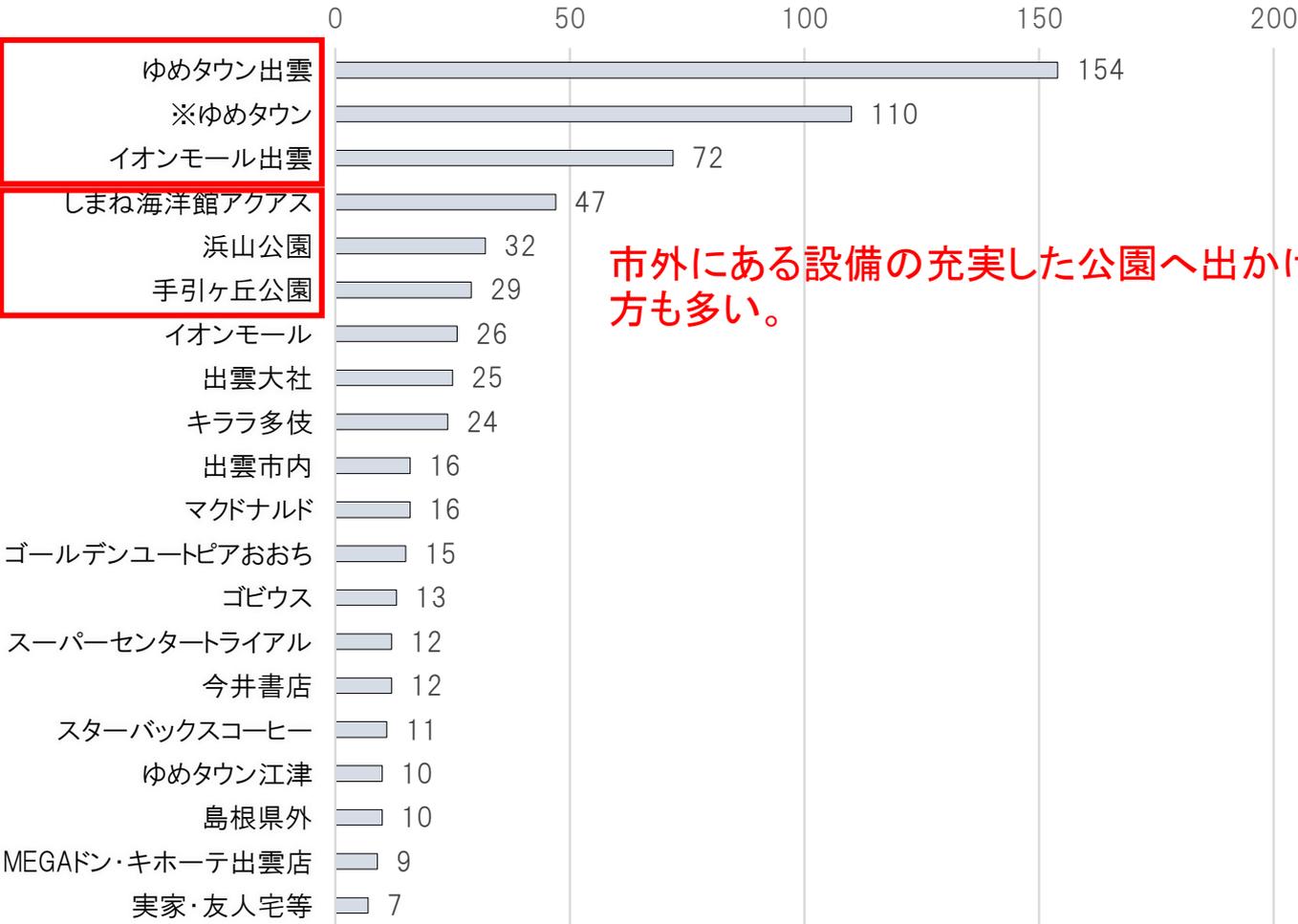


■大田市外の場合

お気に入りの場所として具体的な名称が特定できる施設の中で最も多かったのは、「ゆめタウン出雲」となっており、次いで「イオンモール出雲」、「しまね海洋館アクアス」となっている。

大田市内よりも市外施設の回答が多い

[大田市外]

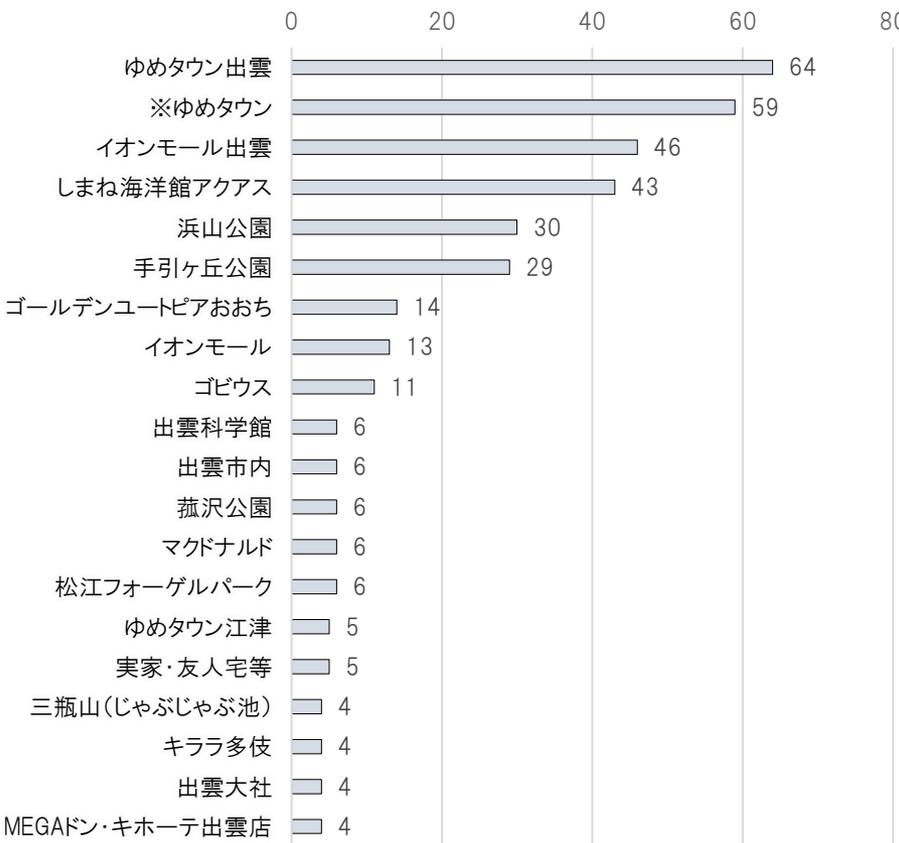


市外にある設備の充実した公園へ出かける方も多い。

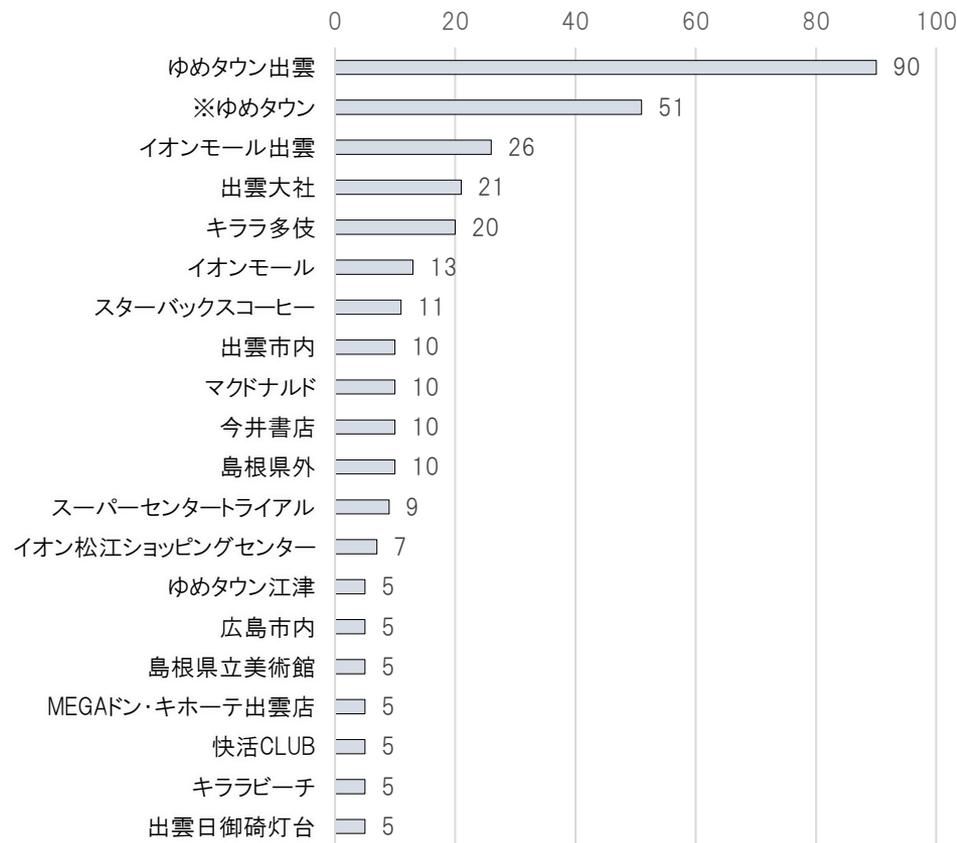
■クロス集計：子どもの有無別、大田市外の場合

両者とも「ゆめタウン出雲」及び「イオンモール出雲」が上位を占めている。子あり世帯について、大田市内の傾向と同じように、公園の回答が多くなっている。一方で子なし世帯については、カフェや買物目的が多い。

[子あり世帯、大田市外]



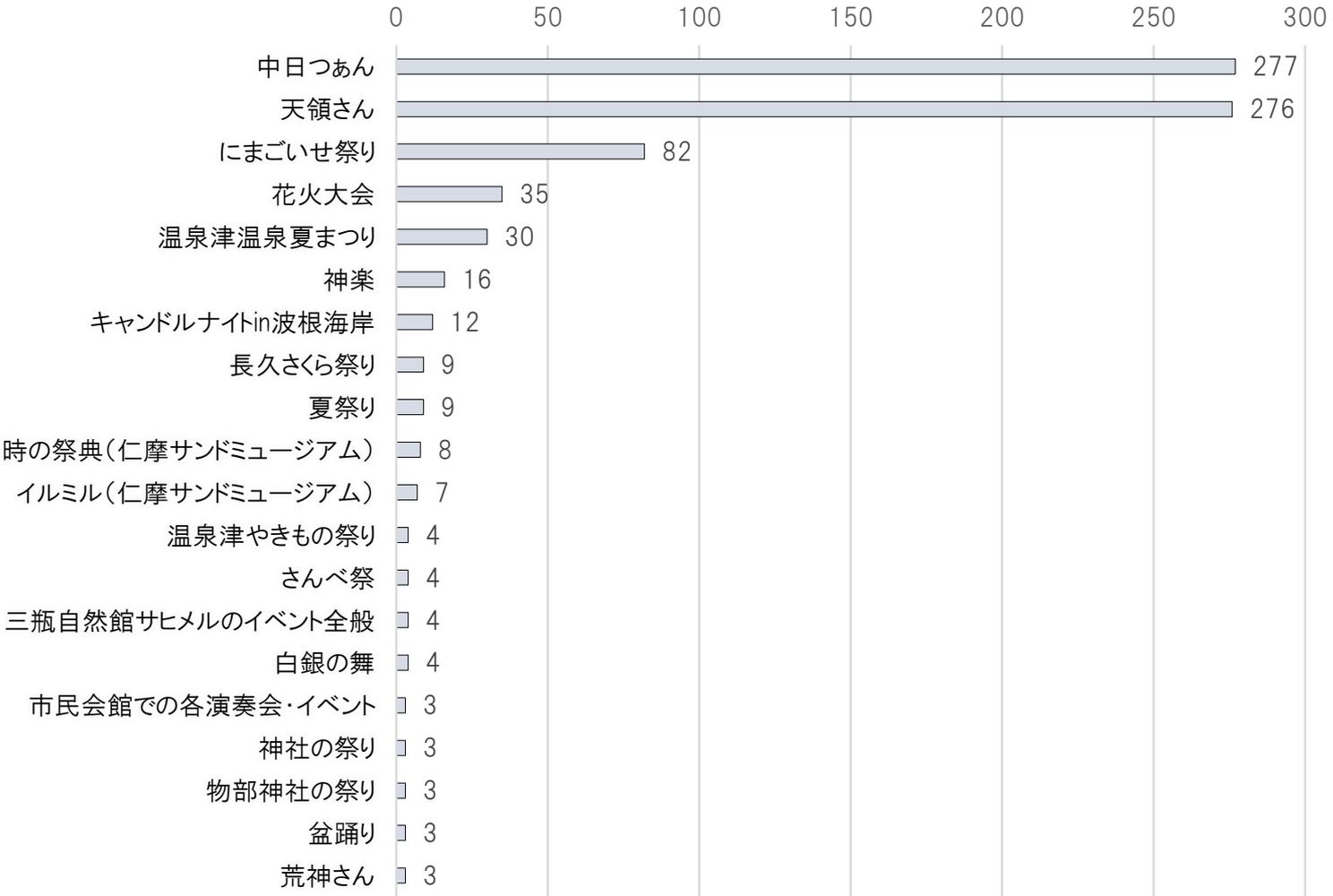
[子なし世帯、大田市外]



■ 行事・イベント

お気に入りの行事・イベントとして最も多かったのは、「中日つあん」となっており、次いで「天領さん」、「にまごいせ祭り」となっている。

[行事・イベント]

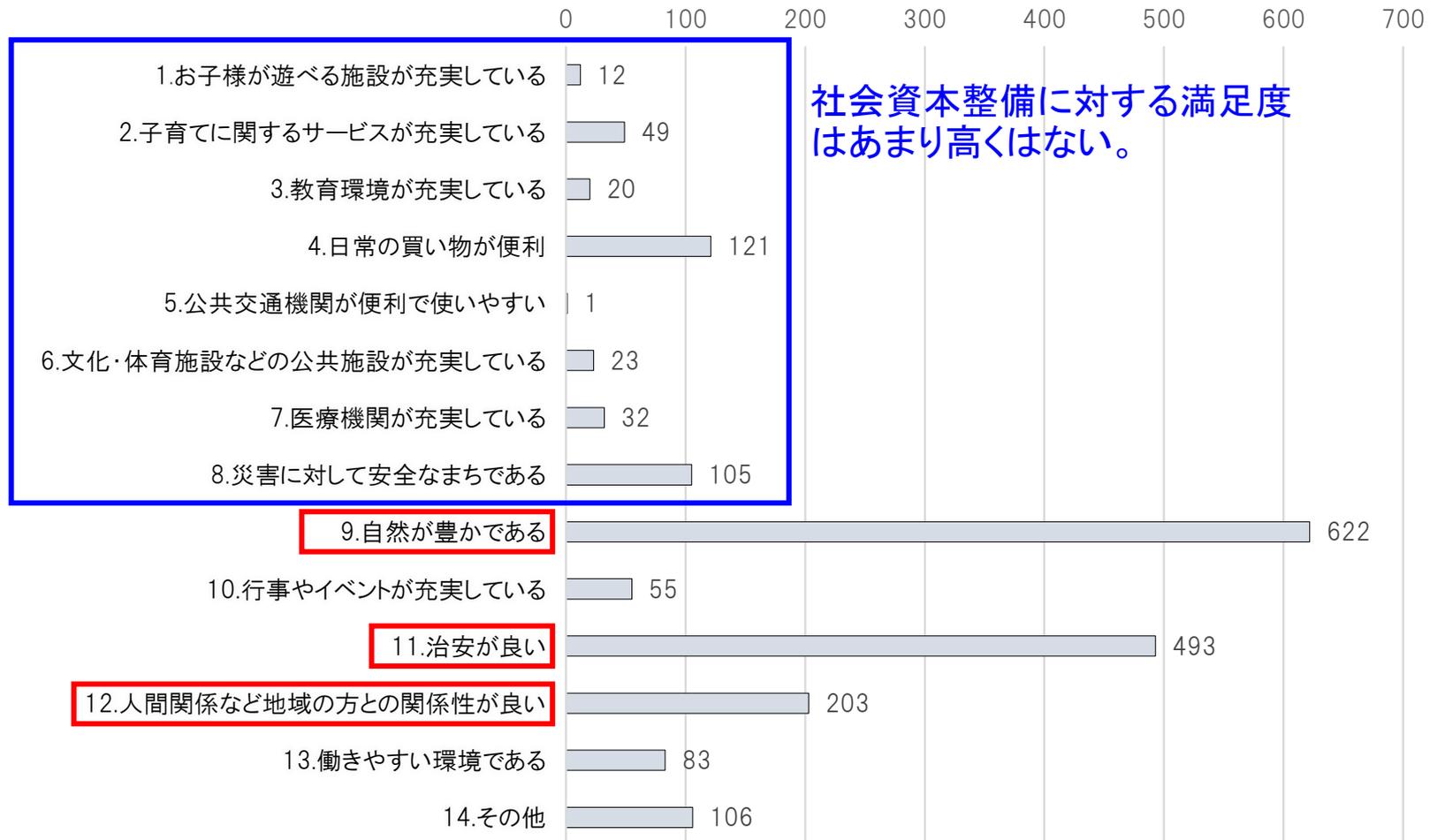


大田市に対する満足度

■満足度 (n=959)

大田市で満足している点として最も多かったのは、「自然が豊かである」となっており、次いで「治安が良い」、「人間関係など地域の方との関係性が良い」となっている。

[満足度]



■満足度クロス集計<地域とのクロス> (n=946(無回答除外))

大田市に対する満足度を地域別でみると、中心部の地区ほど買物利便性を評価している一方、教育機関が集中している大田町の評価は低い。行事やイベントと人間関係の良さに相関がみられる。大森地区の働きやすさはある程度評価されている。 [地域別満足度]

社会整備資本

自然資本、人的資本 等

	1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	母数(n)
大田	1.5%	4.6%	1.5%	18.5%	0.3%	2.7%	3.0%	11.6%	61.4%	5.2%	53.2%	22.5%	10.9%	12.2%	329
川合	2.2%	6.7%	6.7%	8.9%	0.0%	2.2%	2.2%	8.9%	71.1%	11.1%	51.1%	20.0%	8.9%	17.8%	45
池田	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	71.4%	0.0%	42.9%	21.4%	7.1%	7.1%	14
志学	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	63.6%	9.1%	18.2%	27.3%	0.0%	9.1%	11
北三瓶	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	33.3%	6
富山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1
朝山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%	37.5%	25.0%	12.5%	12.5%	8
波根	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	61.1%	5.6%	55.6%	16.7%	5.6%	11.1%	18
久手	1.0%	7.8%	3.9%	8.7%	0.0%	2.9%	4.9%	16.5%	65.0%	5.8%	54.4%	23.3%	7.8%	11.7%	103
鳥井	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	2.9%	2.9%	8.8%	58.8%	0.0%	41.2%	8.8%	0.0%	11.8%	34
長久	0.0%	4.9%	1.6%	22.1%	0.0%	0.8%	4.9%	11.5%	64.8%	3.3%	50.8%	18.0%	7.4%	8.2%	122
静間	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%	24.1%	62.1%	3.4%	69.0%	13.8%	3.4%	13.8%	29
五十猛	0.0%	0.0%	4.3%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	17.4%	52.2%	0.0%	52.2%	8.7%	4.3%	13.0%	23
大屋	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	3
久利	0.0%	11.1%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	4.4%	4.4%	68.9%	4.4%	51.1%	20.0%	11.1%	8.9%	45
大森	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	75.0%	16.7%	50.0%	58.3%	33.3%	25.0%	12
水上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	87.5%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	8
祖式	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7
大代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	42.9%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	7
湯里	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	42.9%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	7
温泉津	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	13.3%	53.3%	0.0%	46.7%	6.7%	13.3%	6.7%	15
井田	0.0%	11.1%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	77.8%	11.1%	44.4%	22.2%	0.0%	0.0%	9
福波	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	12.5%	25.0%	0.0%	12.5%	8
仁万	4.9%	4.9%	3.3%	4.9%	0.0%	4.9%	3.3%	6.6%	68.9%	6.6%	49.2%	26.2%	9.8%	8.2%	61
宅野	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	28.6%	28.6%	100.0%	28.6%	57.1%	42.9%	28.6%	0.0%	7
大国	28.6%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	71.4%	42.9%	85.7%	42.9%	14.3%	14.3%	7
馬路	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	85.7%	42.9%	42.9%	57.1%	14.3%	0.0%	7

■満足度クロス集計＜年代別Uターン別とのクロス＞ (n 各項目による)

大田市に対する満足度を地域別でみると、中心部の地区ほど買物利便性を評価している一方、教育機関が集中している大田町の評価は低い。行事やイベントと人間関係の良さに相関がみられる。大森地区の働きやすさはある程度評価されている。

[性別年齢別満足度]

社会整備資本

自然資本、人的資本 等

		1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	母数(n)
男性	10代	6.7%	10.0%	3.3%	6.7%	0.0%	6.7%	10.0%	6.7%	73.3%	23.3%	60.0%	36.7%	6.7%	0.0%	30
	20代	0.0%	1.0%	1.0%	16.3%	0.0%	3.8%	5.8%	11.5%	66.3%	5.8%	47.1%	26.0%	9.6%	11.5%	104
	30代	0.6%	4.2%	1.8%	9.6%	0.0%	1.2%	2.4%	11.4%	59.9%	4.8%	47.9%	15.0%	6.6%	13.8%	167
	40代	1.7%	5.9%	2.5%	11.9%	0.0%	2.5%	3.4%	11.0%	60.2%	4.2%	52.5%	16.1%	8.5%	14.4%	118
女性	10代	2.3%	6.8%	2.3%	6.8%	0.0%	6.8%	6.8%	20.5%	72.7%	9.1%	56.8%	36.4%	9.1%	0.0%	44
	20代	0.0%	1.3%	1.3%	14.5%	0.0%	3.3%	1.3%	10.5%	62.5%	5.3%	54.6%	19.1%	9.9%	9.9%	152
	30代	1.7%	7.3%	1.7%	14.6%	0.0%	0.6%	1.7%	9.0%	69.1%	5.1%	52.8%	23.0%	7.9%	9.6%	178
	40代	2.1%	8.2%	3.4%	11.0%	0.7%	1.4%	4.1%	11.6%	65.1%	4.1%	49.3%	19.9%	11.6%	15.1%	146

10代において、自然資本、人的資本に対する評価が高い。

[Uターン状況別満足度]

	1.お子様が遊べる施設が充実している	2.子育てに関するサービスが充実している	3.教育環境が充実している	4.日常の買い物物が便利	5.公共交通機関が便利で使いやすい	6.文化・体育施設などの公共施設が充実している	7.医療機関が充実している	8.災害に対して安全なまちである	9.自然が豊かである	10.行事やイベントが充実している	11.治安が良い	12.人間関係など地域の方との関係性が良い	13.働きやすい環境である	14.その他	母数(n)
Uターンしてきた	1.9%	4.7%	1.4%	13.7%	0.0%	1.9%	1.9%	9.5%	64.5%	4.3%	47.9%	17.1%	5.7%	13.7%	211
Iターンしてきた	1.8%	7.7%	1.8%	19.1%	0.0%	3.2%	3.2%	7.7%	65.5%	7.7%	47.7%	25.0%	14.1%	10.5%	220
基本的にずっと大田市に居住している	0.8%	4.5%	2.5%	9.2%	0.2%	2.5%	3.9%	13.3%	66.4%	5.5%	56.1%	22.3%	7.4%	10.5%	488

買物先と働きやすさについて、相対的にみると、Iターンの方が高く評価している。

【その他回答】

○満足していない・不便を感じる

- 交通の不便さ
- 買い物する場所の限定性
- 子どもを連れて行く公園の不足
- 賃金が安い
- 市内の魅力やサービスが不足
- 就職の機会が少ない
- 全体的な不満や中途半端な感じ

○子育て関連のサポートやメリット

- 子育て環境が良い
- 中学生までの医療費が無料
- 子育て支援センターのサポート
- 両親や親戚のサポートの有無

○住む理由や背景

- 親や家族が大田市内に住んでいる
- 出身地や実家が近い
- 職場や仕事が大田市にある

○市内の環境や特色

- ワークライフバランスの浸透
- 人が少なく、静かで落ち着く
- 渋滞や混雑が少ない
- 観光スポットや世界遺産の存在
- バイクでのドライブや美味しい食べ物

○具体的な魅力やメリットを感じない・中立的な意見

- 特になし・何もない・普通
- 住みなれている・馴染みがある

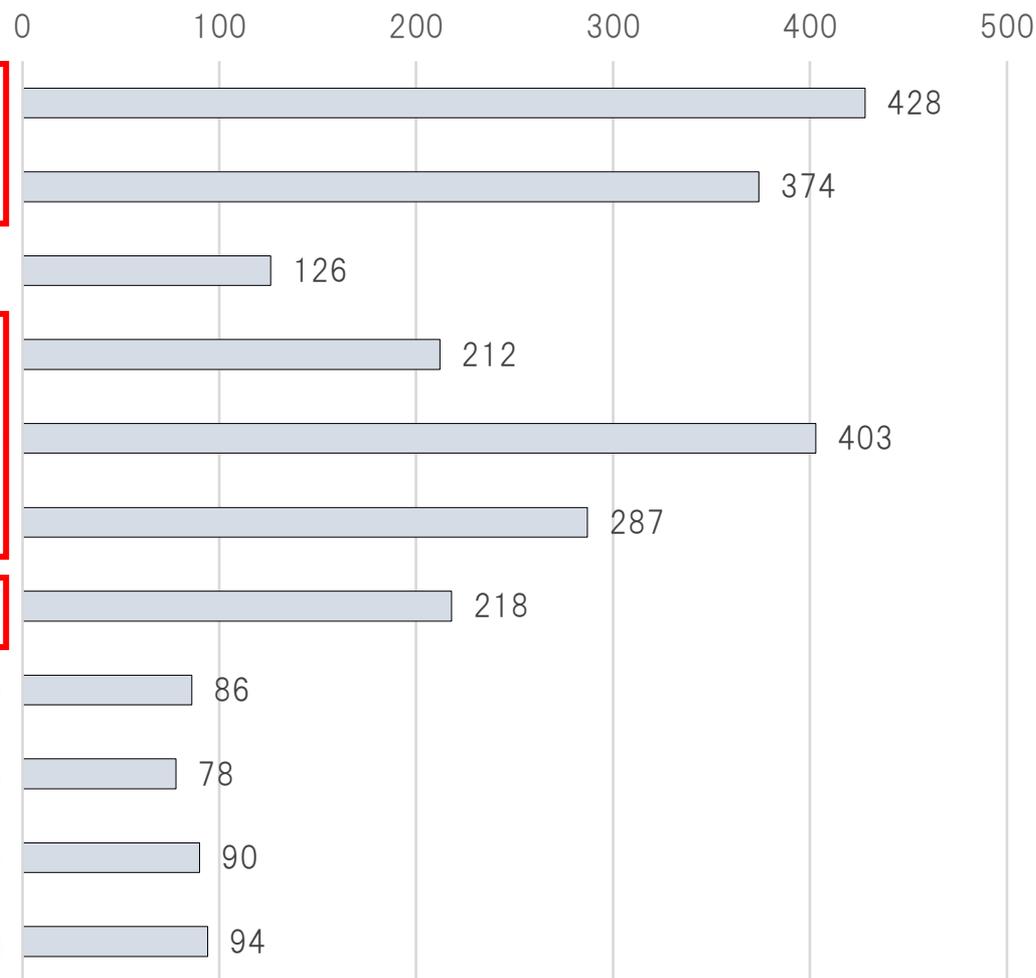
人口減少の要因

■人口減少要因

人口減少の要因として最も多かったのは、「働きたい職場が無い」となっており、次いで「娯楽施設が少ない」、「給与水準が低い」となっている。

仕事面、生活環境面での意見が多い。

[人口減少の要因]



■ 地域別の人口減少要因

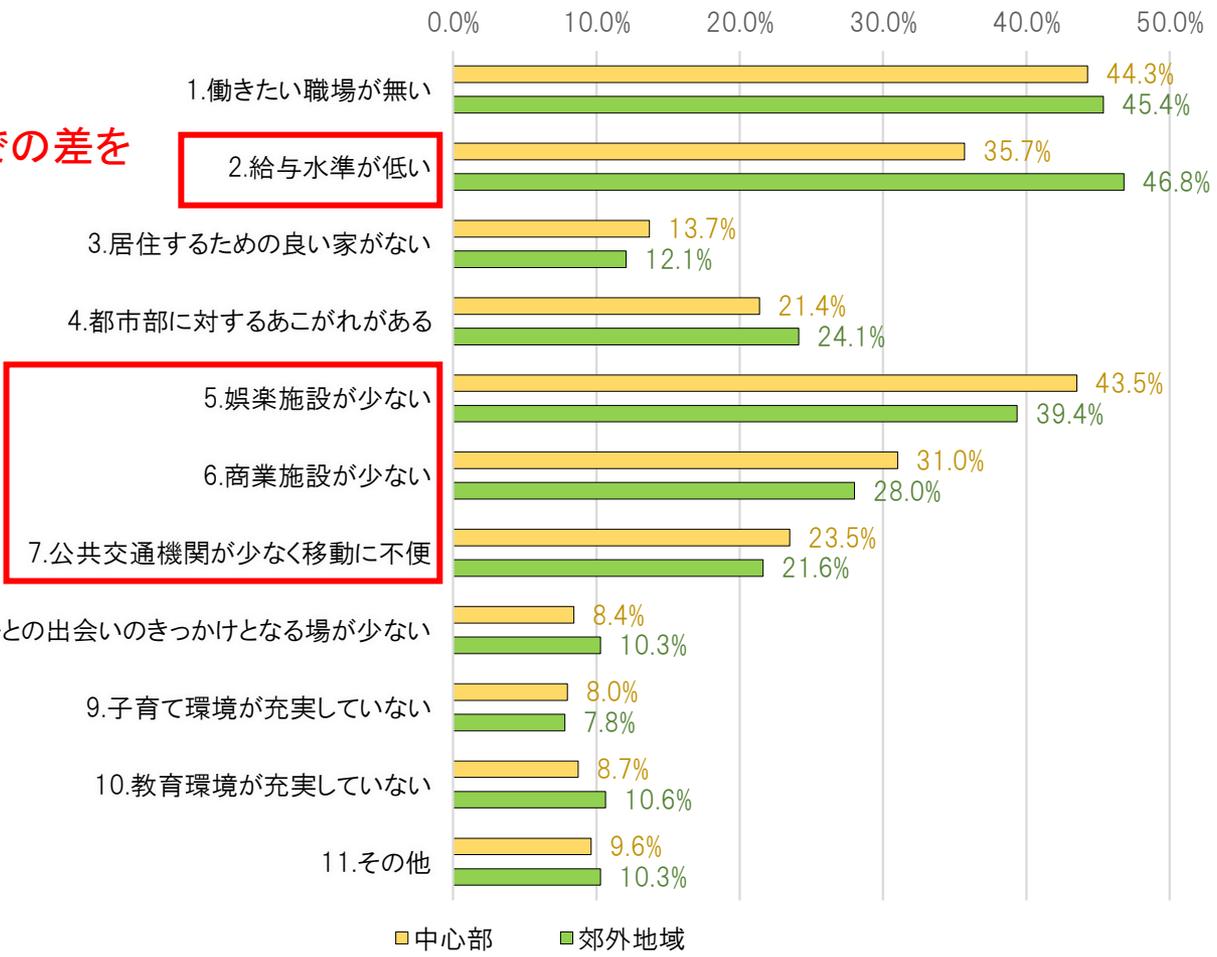
給与水準について、中心部よりも郊外部の方が割合が高い。

一方で、娯楽施設と商業施設の少なさについては、郊外部よりも中心部の方が割合が高い。

[地域別の要因]

郊外部の方が給与面での差を意識している。

中心部と郊外部での差があまりない⇒中心部での生活サービスや働きたい場所としての評価が低い。



※中心部として定義した地区は、大田、長久、久手、鳥井、仁万、温泉津の6地区。

理由は、大田、長久、久手、鳥井については、用途地域が設定されており、ある程度の人口や産業の集積が図られた地区であるため。仁万、温泉津は用途地域の設定は無いが、大田市が定める立地適正化計画において両地区は地域の中心拠点として位置付けられているため。69

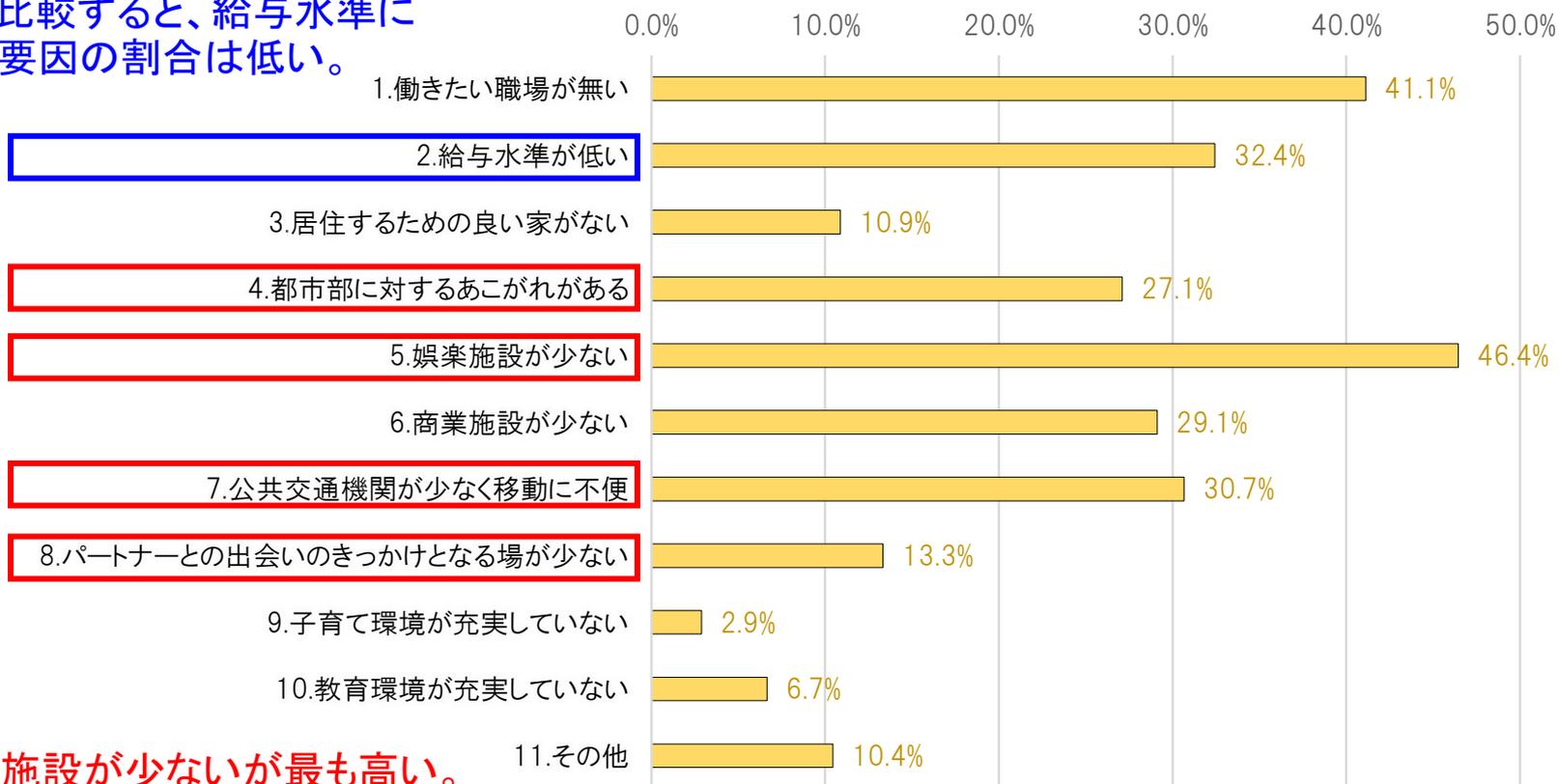
■独身(子なし)世帯の人口減少要因

娯楽施設が少ないが一番高い。

公共交通機関が少なく移動に不便というのも全体に比べて高くなっている。

[独身者の要因]

全体と比較すると、給与水準に対する要因の割合は低い。



娯楽施設が少ないが最も高い。

公共交通機関の不便さを指摘する意見も多い。

またパートナーの出会いのきっかけが少ないという意見も多い。

■ 独身(子なし)世帯の要因の理由

[独身(子なし)世帯が選ぶ要因とその理由]

<p>働きたい職場が無い</p> <p>に関するまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none">• 老人人口が多いため、特定の業種、例えば福祉や介護に求人が偏りがち。• 若者が希望するような職場や新しい業種の企業が少ないための都市部への流出。• 地域の産業構造の偏りや経済活動の低下により、職場や企業の多様性が不足。• 地域企業の給与水準や福利厚生、キャリアアップの機会が限られている。
<p>娯楽施設が少ない</p> <p>に関するまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none">• 地域内でのエンターテインメントの選択肢が限られていることから外出の際に行き先が制限される。• 大型のスポーツ施設や映画館、レジャースポットの不足により、週末の過ごし方やデートスポットに困る。• 地域の活性化や観光促進のためのイベントや施設が少なく、若者の居住意向が低下。
<p>公共交通機関が少なく移動に不便</p> <p>に関するまとめ</p>	<ul style="list-style-type: none">• 地域内のバスや電車の本数が少ないため、日常の移動が不便。• 地域間、特に都市部へのアクセスが難しく、買い物や医療機関へのアクセスに時間や手間がかかる。• 運賃の問題や交通手段の選択肢の少なさから、車を所有しないと生活が困難。• 高齢になり車が運転できなくなることを思うと、今の時点から不安に思う。将来の生活に不安がある。

現在の公共交通機関の不足を鑑みて、将来自らが自動車の運転を行えなくなった際の生活に懸念を抱く若年世代もいる。

[要因とその理由]

働きたい職場が無い

に関するまとめ

○職種・業種の偏りと限定性

- 業種に偏りがある、例えば介護の求人が目立つ。
- 職種や業種が少なく、選択の幅が狭い。
- 一般的なものから、特定の業種(例:IT、アパレル)まで求人が少ない。

○企業の少なさと質の問題

- 地域内に存在する企業の数が少ない。
- 良い会社のイメージや知識が少ない。
- 大手や魅力的な企業が不足している。

○条件や福利厚生の問題

- 給与の低さや労働条件の不十分さ。
- フレックスタイム制やワークシェアリングの導入が求められる。
- 福利厚生が充実している企業が少ない。

○情報の不足

- 企業や求人の情報が少ない。
- 求人ページやHPの情報が不十分。
- 募集条件が厳しい、または限定的。

○職場環境と文化の問題

- 伝統的な価値観や慣習に囚われた職場が多い。
- 人間関係の質の問題や古い価値観の持つ会社。
- 若い人や特定の背景を持つ人々にとって魅力的でない職場環境。

○地域的な要因

- 都市部との比較での選択肢の少なさや魅力の不足。
- 地域の人口や教育水準の問題。
- 地域内での選べる職種や求人が特定の範囲に限定されている。

給与水準が低い

に関するまとめ

○物価高とのバランス

- 物価高騰に対する賃上げが見られない。
- 手取りが少ない。
- 物価高による生活の圧迫感。

○給与不足の実感

- 基本的に給与が低い。
- 残業未払いの問題。
- 手当やボーナスの少なさ。

○地域性の影響

- 都市部や他の地域との給与格差。
- 車が必須な地域の家計の負担。
- 企業誘致の不足。

○生活実態と給与

- 実家暮らしによる給与の実感の薄さ。
- アパートや一人暮らしでは厳しい給与水準。
- 共働きが必須な家庭の増加。

○子育て世帯への影響

- 子どもを持つことの難しさ。
- 子育て費用の不足。
- 子ども1人で精一杯。大学に行かせたいが厳しい。
- 子育て家庭への支援の不足。

○企業の問題点

- 企業の小規模化や零細企業の多さ。
- 正社員でありながら低給与。
- 競合する施設や企業の少なさ。
- 地域特性を生かした産業振興に課題。

○地域間の給与比較

- 大都会や他県との給与差。
- 地域内での給与格差。
- 自動車維持や物価の違いによる生活コストの影響。

○女性の給与問題

- 女性の給与が特に低いとの声。
- 専門知識があっても給与に反映されない。
- 女性というだけで給与上昇に壁がある。

居住するための良い家がない

に関するまとめ

○家賃や賃貸が高い

田舎なのに家賃が高い。
都会並みの家賃。
所得が低い割に家賃が高い。

○空き家の問題

空き家が多すぎる。
空き家はあるが住めない、または貸してもらえない。
空き家の情報が不透明または少ない。

○良質な住宅やアパートの不足

ファミリー向けや一人暮らし向けのアパートが少ない。
騒音が少ないアパートやマンションの不足。
新しいアパートの家賃が高い。

○土地に関して

住宅を建てたいが土地が見つげにくいまたは高い。
空き家を撤去して土地を開放すべきという提案。
希望する地域での土地の不足。

○住宅の状態や条件の問題

古い家が多い。
住むにはリフォームが必要な家が多い。
賃貸物件が狭い、または子育てに適していない。

○不動産の取り扱いや情報の問題。

一部の個人が複数の空き家を所有している。
空き家バンクのハードルが高い。

○その他の要因

交通の便や周辺環境。
田舎特有のご近所付き合いが大変。
職場に近い家の中々ない。

都市部に対するあこがれがある

に関するまとめ

○都市部の魅力・利便性

- ・ ショッピング、教育環境の格差
- ・ 施設やお店が充実しているため
- ・ 娯楽施設が沢山あるから
- ・ 公共交通機関や商業施設が充実している
- ・ SNSの『映える』写真投稿の影響
- ・ 若者の間で流行している店舗や施設の経験ができない
- ・ 都会には10代、20代の流行が反映されているから

○大田市の不満点

- ・ 大田市の施設やサービスが不足
- ・ 大田市には何もないって言う人が多いから
- ・ 大田市に、ないものが大概ある
- ・ ショッピングモールがない
- ・ 一度は外に出てみたいという気持ちがあると思う

○地域の自然環境や状況

- ・ 田舎すぎる
- ・ 山しかないから

○若者の都会に対する夢

- ・ 若い人は1度は都会の方へ出てみたいと思っている気がする
- ・ 一度は都会に出てみたいと思うから
- ・ 若者の妄想が過ぎる
- ・ メディアで話題のモノに触れたい
- ・ メディアで都会の華やかさがしきりに流れてくる
- ・ Uターンは少ないが、都市部との比較やリアルな情報提供を通じて、大田市の魅力を伝えるべきという提案

○生活・仕事の機会

- ・ 進学や就職のために都市部へ
- ・ 都会の進学先でそのまま就職する
- ・ 都市部にある就職先や娯楽施設等の魅力があるものが少ない
- ・ 進学や仕事の機会が都市部に多い
- ・ 働きたい場所が多い

娯楽施設が 少ない

に関するまとめ

○施設の不足・選択肢の少なさ

屋内で遊べる施設がない
カラオケやボーリングなどがない
若者が集まれる場所はカラオケくらいしかない
子どもから大人まで楽しめるような場所が少ない
子どもの遊び場が特に雨の日に不足している

○市外施設への依存

遊び場がないので市街に遊びに行くしかない
出雲市まで行かないと楽しくない
多くの方は出雲に出かけている
娯楽施設が無いので出雲・松江に住む人が多い
遊びたい場合は出雲市へ行くことが多い

○若者向けの遊び場の不足

若者向けの娯楽施設が極端に少ない
ゲーセンやカラオケ店のような場所が欠けている
若者向けの店舗が存在しない
独身者の出会いの場所がない
若者が遊ぶ場所が全くない

○具体的な施設の要望

映画館などが欲しい
ゆめタウン出雲のような施設が欲しい
大型のゲームセンターが無い
ネットカフェやボーリング場が欲しい
せっかくの雪を活かした施設やスキー場の再開
発

○公共場所の不足

公園遊具の不足
無料で身体を動かして遊べる場所の要望
親子で行ける遊び場の欠如
子どもやパートナーと楽しめる施設が不足
子どもが自由に遊べる場所の不足

○地域の魅力や資源の未活用

三瓶山などの自然資源の活用不足
小さい子が遊べる公園はあるが、学生向けの場所がない
自然しかない地域の魅力を最大限に活かしていない
将来的な魅力を感じさせる施設が少ない
地域の自然や特色を生かした施設がほしい

○新しい市役所よりも人が集まる施設の建設が望ましい

若者の遊ぶ施設がないと人口減少に繋がる
人口が少ないから経営が成り立たない
休日に遊ぶ場所がないため経済的な流出が懸念される

○賑わいを生む施設が必要

遊び場がないと感じる
ゆっくり休める場所や遊べる場所が欠けている
パチンコ屋しかないという不満
退屈してしまう
娯楽施設の存在が分からない、または認知されていない

商業施設が 少ない

に関するまとめ

○商業施設の不足

- 映画館がない
- 大型スーパーや百貨店がない
- ショッピングモールがない
- 専門店が少ない(模型屋、若者向けの店など)
- 大田市内の選択肢が少ない、出雲や松江に行く必要がある
- イオンやゆめタウン出雲などの施設がほしい
- 全国チェーンの店舗が少ない

○日常生活の不便

- 子ども用品が少ない、市外での購入が必要
- 食料品以外は市外やネットでの購入が主流
- 車がないと生活が困難
- 安いスーパーがない
- 土地はあるが、施設が不足している

○若者・子供向け施設の不足

- 若者向けの施設やショップが少ない
- 子ども達が遊べる場所や子供向けの外食場所が不足
- 学生や若者が集まる場所がない

○市の魅力・活気の不足

- 市外に比べ品揃えや店の質が低い
- 人が少ない、活気がない
- 仕事や娯楽の選択肢が限られる
- 市内での買い物が高い、または品数が少ない

○移動・アクセスの問題

- 市外に行く回数が多い
- 買い物や飲食のために出雲や松江に行く必要がある
- 都会の方が魅力的、住みやすいと感じる人が多い
- 立地的な問題から、他の都市に出てしまう

公共交通機
関が少なく
移動に不便

に関するまとめ

○交通手段の本数や利便性の問題

バス、JRの本数が少ない
高速道路、JRの便利が悪い
中学、高校からの帰りのバスも不便
次の便が来るまで1時間かかったりする
JR、バスの本数が少ないだけでなく、運転免許取得が不可能な者への移動支援が不足
西部、東部のどちらに対しても移動手段が少なく時間がかかる
電車の待ち時間が長すぎる
日に2本のバスと2時間に1本の電車

○車が必須の社会

私用車ありきで物事が考えられてる
車を運転しないとどこにも行けない
車がないと移動手段がない
車がほぼ必要不可欠
生活に車が必須で不便

○経済的な負担の問題

バス、電車賃が高い
自家用車がないと生活できないのに税金が上がるしガソリン代もかかる
市内を公共交通機関だけで移動するのは難しい。県外のライブなどに行くのに費用がたくさんかかるから
移動距離も長いから必然と交通費も高くなる
山間部は市内へ出るにもバスかタクシーしか無く、どちらも高い

○将来的な不安

今は車で良いが、将来的に不安
高齢になり車が運転出来なくなる時の事を考えると不安がある。ネットスーパー的なサービスが必要になる事も考えられる
車がないとどこにも行けず、将来の生活に不安がある(免許返納など考える年齢になると)

○都市までが遠い

人口減少のため
山間部と市内への交通機関が少ない
鉄道や高速道路が充実していないため県外からの友人を呼び寄せにくい
県外の友達も、交通の弁が悪すぎて帰る気にならないと言われる

パートナーとの出会いのきっかけとなる場が少ない

に関するまとめ

○**地域的要因**

- 田舎での出会いが少ない
- 大田市の婚活イベントが不足
- 都市部への流出
- 市外や県外でパートナーを探す傾向

○**自身の生活スタイルによる問題**

- 仕事と家の往復だけ
- 自営業での出会いが少ない

○**適切な出会いの場が無い**

- 合コンや集まりが不足
- 若者が参加しづらいイベント
- 出会いを促進するサービスやマッチングアプリの不足
- 食事やデートスポットが少ない
- イベントの質問題(例:サクラが多い)
- 職種の多様性がない、偏った年齢層や性別
- インドア派のイベントが少ない

○**若者の人口とコミュニティの問題**

- 若者が市外・県外へ移住
- 自然な出会いの場に参加しない若者が多い
- 同世代のコミュニティが形成しづらい
- 適齢な年代の男女が少ない
- 若者が集まる場所の不足

○**心理的要因**

- 出会いの場に行っても知り合いばかりで恥ずかしい
- きっかけやときめく相手がいない感覚
- シンプルに出会いがない、または出会いの場がないと感じる
- 友人関係ができている人は良いが、できない人は難しい

子育て環境
が充実して
いない

に関するまとめ

○遊び場・公園の不足

公園の設備が整っていない
遊具が少ない、壊れている
屋内で遊べる施設が欲しい
遊ぶ施設の規模が小さい
子どもの遊ぶ場所が少ない

○医療の不足

子どもがを診る医療機関が限られている
発達障がいなどの特別なケアが必要な子ども
への支援が不足している
病児保育の不足
休日診療の不足

○経済的支援の不足

保育料が高い
チャイルドシートなど必要なものへの助成が不
十分
児童手当の増額を要望する
子育て応援金や支援金の不足
金銭的サポートが充実していない
子育てに関わる費用の負担軽減

○施設関連の問題

施設の老朽化
教員・保育士の不足
習い事の家やイベントが少ない
子ども向けのサービスや教育の品質に不安

○安全性・インフラの問題

安全な歩道の整備が不足
通学路が危険
倒壊しそうな空き家が放置されている
運転マナーの問題

○働く親への配慮

働きながらの妊娠・出産のハードルが高い
仕事と子育ての両立の困難さ
男性の育休取得の難しさ
保育士の給料の問題

○情報・サポート体制の不足

乳幼児期の支援や情報の不足
子育て支援体制が整っていない
子育てに関する政策が見えない

○他地域との比較

他市との比較での劣後感
大田市での子育て環境の評判は良くない
市政への不信感や期待値の低さ

教育環境が
充実してい
ない

に関するまとめ

○進学のための移住

大田を進学タイミングで離れ、他の場所に定住することが多い
高校や大学への進学を契機に市外へ転出
大学や専門学校が存在しないための移住

○教育機関・施設の不足と質の問題

市内の高校の選択肢の不足
英語教育などの習い事を選択肢が少ない
私立学校が存在しない
塾や習い事を選択肢が少ない
学校や塾の建物や施設の老朽化

○学力・教育レベルの懸念

学力テストの結果が低い
学校の指導内容が不十分
教育水準が低い

○教員の働き方・教育委員会に対する懸念

教員の過労問題
教員の雑務が多く、教育に集中できない状況
教育委員会が機能していない、相談に応じない

○子ども向けの施設整備の不足

子どもが楽しめる施設の不足
習い事やスポーツ施設の不足
放課後児童クラブ利用時の勉強の機会が少ない
児童数が少ない学校が多すぎる

○その他の教育環境の懸念

ICTの活用が遅れている
学習塾のレベルが低い
障がい者向けの支援不足

その他

に関するまとめ

- 人口減少や少子高齢化が問題となっており、これは大田市だけでなく、日本全体の問題である。
- 市政や政策が中途半端で、実際の住民のニーズにできていない。
- 生活費や税金が高く、一方でサービスや設備が不足。
- 若者にとっての魅力や将来性を感じにくい。
- 学びや働く場が限られており、大田市以外の場所への移住や就職が多い。
- 観光や自然環境以外の魅力が乏しいと感じる住民が多い。
- 大田市の家賃や光熱費が高い。
- 専門学校や大学が不足。
- 医療機関や大きな病院の不足。
- 若い世代が大田市に魅力を感じない。
- イベントや娯楽施設が少ない。
- 高い税金と共同住宅の家賃。
- SNSの活用不足。
- 市役所が市民の声にできていない。
- 商業施設や家族向けの施設が不足。
- 若者や家族の生活や子育てに不便。

■ アンケートのポイント整理

○調査概要

- ・ 調査対象は18歳から45歳
- ・ 「パートナーあり・子あり」世帯は主に30～40代が回答
- ・ 「独身・子なし」の世帯は主に20～30代が回答

○U・Iターン

- ・ 回答者の約半数がU・Iターン者、転入元は県内・近隣県が多数
- ・ U・Iターンの理由は、「出身地だから」「結婚・出産」「仕事（就職・転職・起業）」が多数

○結婚の意向

- ・ 「独身・子なし」の6割が積極的な結婚意志を持つ
- ・ 結婚に対する不安として、「経済的余裕」「子育て責任」「自分の生活リズム」「相手親族との関係」

○パートナーとの出会い

- ・ パートナーとの出会いは、「友人の紹介」が多数
- ・ パートナーと出会う場所は、「市外」が半数
- ・ 適切な出会いには、職場や自宅以外の第三の場「サードプレイス」が必要

○子どもに関する意向

- ・ 「将来子どもが欲しい」と答えたのは約半数
- ・ 子どもの希望人数は「2～3人」が多数
- ・ 平均的な子育て世帯は、「ふたり親」「共働き」「子どもの人数1～2名」
- ・ 回答世帯の子どもの年齢は、3分の2が「10歳以下」
- ・ 理想とする子どもの人数も「2～3人」

○子育てについて

- ・ 公的な子育て援助についての満足度は、共通して高い
- ・ 主な子育て援助者は「祖父母」、「援助者がいない」と答えた世帯も2割弱ある
- ・ 「祖父母の援助」は、同居や距離が近いほど、頻度や密度が高い
- ・ 「育児で休みが取りにくい」回答者が約2割
- ・ 休みの取りにくさには男女差あり。男性の3分の1が困難と回答
- ・ 子育ての悩みは、「遊べる場所がない」「同年代の子との交流機会が少ない」「自分の時間確保が困難」
- ・ 子育てに必要な支援は、「就学費用」「教育環境」「自然体験など幅広い活動」

○その他

- ・ お気に入りの場所は、市内よりも市外施設が多い
- ・ 大田市の満足度は、「自然」「人間関係」などで高評価。一方、「社会資本」に関する部分は低評価
- ・ 人口減少の三大要因は、「仕事・給与」「都市機能」「公共交通」

【市民アンケートまとめ】現状と課題

ライフステージからみた現状

- 回答の約半数近くがUターン者となっており、人口は流動的となっている。
- ふたり親世帯Uターン者は結婚出産を機に来ており、独身世帯は転勤等のタイミングで来ている。
- パートナーとの出会いは、市内市外ともに半数の割合であるが、大田市に住みながらパートナーを見つけた人も半数以上存在する(ただし、出会いの場が大田市内であるとは限らない)。
- 子育てに関して、仕事と家庭の両立が難しい世帯も見受けられ、夫(男性)の3割は子育てで職場を休むことが出来ない状況にあるなど、男女差が存在している。
- 子育てに関する支援状況は、親世代からの支援が大きく、居住関係が近いほど、その支援は手厚い。
- 経済的な問題は、結婚期・子育て期の両方において、様々な意思決定に強く作用している。

都市機能からみた現状

- 大田市に不足している点として、生活利便性、職場、交通の3つの要因が挙げられている。
- 中心部と郊外部で、上記3つの要素に対する評価の違いがあまり見受けられない。すなわち、大田市としての求心力が低い状態となっている。
- 都市機能の集積が弱いため、子育て世帯からは子供が遊べる場所が少ない、若者からも娯楽施設が少ないなどの声があり、近隣市町へ出かける方が多い。
- 一方で、大田市の自然と触れ合う場や機会を望む声も多い。

全体課題①: 大田市としての地域資源と魅力をさらに強化し、市の魅力と利便性を向上させるための取組の実施と、具体的に市民が集い交流を深める場や環境づくりが必要。

全体課題②: 市民の多様なニーズに的確に対応し、市民生活の質の底上げを図るための取組が必要。

全体課題③: 多様かつ複合的な課題への対応のため、異なる分野を統合した横断的な取り組みの展開が必要。

<参考> 属性別回答割合等のまとめ

